

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成21年度

2010年3月

京 都 市 文 化 市 民 局

ご あ い さ つ

京都市は、794年の平安京建都以来、永い歴史の中で生み育てられてきた華麗かつ繊細な文化を今に伝える、世界でも有数の文化都市であります。

市内には数多くの文化財が存在し、その一つである埋蔵文化財の包蔵地も広く分布しています。古代から近世まで時代ごとに積み重なった遺跡は、我が国の歴史や文化を正しく教えてくれる国民共有の財産であり、将来にわたって日本文化を国内外に発信していくうえで、その基礎を成すものであると申せましょう。

本市では、先人が残した貴重な埋蔵文化財を適切に後世に伝える責務を果たすべく、「保存」と「開発」の調和を図りながら、埋蔵文化財の保存と保護、更にはその活用に取り組んでおります。

この度、平成21年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査成果をまとめた報告書を作成致しました。この報告書が、京都の歴史と文化財への理解を深めるために、広く御活用いただければ幸いに存じます。

結びに、各調査の実施に当たって、御理解、御協力を賜りました市民の皆様と、御指導を賜りました関係機関の皆様へ深く御礼を申し上げます。

平成22年3月

京都市文化市民局長 山 岸 吉 和

例 言

- 1 本書は、京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した文化庁国庫補助事業による平成21年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告である。
- 2 本書の編集は吉本健吾が調整・作成・実務を担当した。
- 3 各報告については文末に執筆者を記した。
- 4 本書に使用した写真の撮影は、図版の遺物と一部の遺構は村井伸也・幸明綾子が担当し、挿図と図版の一部の遺構は現場担当者が行った。
- 5 本書で使用した土壌名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 6 個々の調査地での計測値は、宅地の場合は仮の「水準点」をBM±0mとするものと、世界測地系 平面直角座標系VIによる方位及び座標の数値と、T.P.(東京湾平均海面高度)による標高を使用したものがある。道路の場合には現行道路面を地表面(±0m)としている。
- 7 調査一覧表では各時代の「時代」は省略しており、調査日については簡略に記しているものもある。遺跡名は平安宮・平安京跡については重複する遺跡は省略し、官衙・条坊を優先して明記し、官衙・条坊が複数にまたがるものは代表するものを掲載した。長岡京跡については、官衙・条坊を優先し、複数にまたがるものは代表するものを掲載した。
- 9 本書で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/2,500)を調整し、作成したものである。

なお、図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。

図版1～13 1/8,000 図版14～26 1/10,000

本文目次

I 調査概要	1
II 平安京跡	3
1 平安宮・朝堂院跡・聚落遺跡 (08HQ242)	3
2 平安京左京三条一坊八町跡 (09HL27)	6
3 平安京左京八条二坊三町跡 (09HL87)	10
III その他の遺跡	12
1 大徳寺旧境内 (09RH222)	12
2 下鴨半木町遺跡 (08RH392)	17
3 植物園北遺跡 (09RH210)	20
4 小倉町別当町遺跡 (08KS415)	30
5 四条道場跡・寺町旧城 (09RT44)	32
6 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 (09RT100)	38
7 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 (09RT89)	41
8 伏見城跡 (09FD149)	45
9 伏見城跡 (09FD101)	50
10 伏見城跡 (09FD157)	55
11 伏見城跡 (09FD133)	57
12 葦嶋館跡 (09MK178)	62
IV 主要な出土遺物	67
1 唐草文軒平瓦 (平安京左京六条四坊四町跡、09HL140)	67
2 緑釉陶器皿と偏向唐草文軒平瓦 (平安京左京七条四坊三町跡、09HL197)	68
3 染付御猪口 (伏見城跡、08FD175)	69
調査一覧表	70
報告書抄録	88

図版目次

図版1～26 調査位置図

- 図版1 平安宮
- 図版2 平安京左京北辺～三条 一・二坊
- 図版3 平安京左京北辺～三条 三・四坊
- 図版4 平安京左京 四～六条 一・二坊
- 図版5 平安京左京 四～六条 三・四坊
- 図版6 平安京左京 七～九条 一・二坊
- 図版7 平安京左京 七～九条 三・四坊
- 図版8 平安京右京北辺～三条 三・四坊
- 図版9 平安京右京北辺～三条 一・二坊
- 図版10 平安京右京 四～六条 三・四坊
- 図版11 平安京右京 四～六条 一・二坊
- 図版12 平安京右京 七～九条 三・四坊
- 図版13 平安京右京 七～九条 一・二坊
- 図版14 伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・金森出雲遺跡・御香宮庵寺・指月城跡・太閤堤
- 図版15 伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・指月城跡・太閤堤
- 図版16 御堂ヶ池古墳群・史跡仁和寺御所跡・仁和寺院家跡・太秦馬塚町遺跡・村ノ内町遺跡・常盤仲之町遺跡・常盤東ノ町古墳群・上ノ段町遺跡・広隆寺旧境内・森ヶ東瓦窯・和泉式部町遺跡・御所ノ内町遺跡・多敷町遺跡・井戸ヶ尻遺跡・清水山古墳
- 図版17 北白川麁寺・北白川追分町遺跡・小倉町別当町遺跡・金戒光明寺境内・白河街区跡・白河南殿跡・得長寿院跡・延勝寺跡・法勝寺跡・岡崎遺跡
- 図版18 寺町旧城・四条道場跡・御土居跡・六波羅政庁跡・方広寺跡・法住寺殿跡・清水寺境内
- 図版19 長岡京跡・東土川遺跡・東土川城跡・鶏冠井清水遺跡
- 図版20 1 下鴨半木町遺跡・御土居跡・寺町旧城・上京遺跡・相国寺旧境内・新町校地遺跡・室町殿跡（花の御所）・公家町遺跡 2 御土居跡 3 今宮神社・大徳寺旧境内
- 図版21 1 史跡賀茂別雷神神社境内・植物園北遺跡 2 鳥居本古墳群・大覚寺古墳群・嵯峨遺跡・宝幢寺境内・嵯峨北堀町遺跡・臨川寺境内・史

跡・名勝嵐山

- 図版22 1 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡 2 中久世遺跡・大藪遺跡・下久世構跡・大藪城跡・長岡京跡・戊亥遺跡
- 図版23 1 寺ノ内旧城・上京遺跡・聚楽第跡 2 特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園・御土居跡・香隆寺跡・北野遺跡・北野麁寺 3 中臣遺跡・中臣十三塚 4 正覚寺跡・伏見稻荷大社境内・極楽寺跡
- 図版24 1 中江古墳群 2 八幡古墳群・本山古墳群・栗栖野瓦窯跡 3 大宮北山ノ前瓦窯跡 4 一乗寺西浦畑町遺跡 5 修学院月輪寺町遺跡・月林寺跡 6 法成寺跡・寺町旧城・御土居跡 7 法興院跡・寺町旧城・御土居跡
- 図版25 1 山科本願寺跡 2 旭山古墳群・元慶寺跡 3 山科本願寺南殿跡 4 唐橋遺跡 5 醍醐古墳群 6 深草遺跡・寺本城跡・深草寺跡・貞観寺跡・深草坊町遺跡 7 法界寺旧境内 8 長岡京跡
- 図版26 1 史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡 2 大江山古墳群 3 草嶋館跡・下津林遺跡 4 桂城跡 5 上久世遺跡 6 福西古墳群 7 勝持寺旧境内 8 小塩窯跡群

図版27～31 写真

- 図版27 遺構 伏見城跡 (09FD149)
- 図版28 遺構 伏見城跡 (09FD133)
- 図版29 遺物 植物園北遺跡 (09RH210)
- 図版30 遺物 植物園北遺跡 (09RH210)
小倉町別当町遺跡 (08KS415)
法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 (09RT87)
伏見城跡 (09FD133)
- 図版31 遺物 草嶋館跡 (09MK178)
左京六条四坊三町 (09HL140)
左京七条四坊四町 (08HL197)
伏見城跡 (08FD175)

挿 図 目 次

08HQ242	
図1	調査位置図 3
図2	軒丸瓦拓影及び実測図 3
図3	No.1地点遺構断面図 4
図4	No.1・2地点位置図 4
図5	No.2地点遺構断面図 5
図6	No.2地点整地層 5
09HL27	
図7	調査位置図 6
図8	遺構位置図 6
図9	A-A'間・B-B'間遺構断面図 7
図10	C-C'間遺構断面図 8
図11	A-A'間 9
図12	A-A'間石敷遺構 9
図13	B-B'間 9
図14	C-C'間 9
09HL87	
図15	調査位置図 10
図16	遺構位置図 10
図17	遺構及び平面断面図 10
図18	出土土器実測図 11
図19	井戸 11
09RH222	
図20	調査位置図 12
図21	調査区配置図 12
図22	黄梅院書院【自体軒】と調査区 13
図23	平面及び乙断面図 15
図24	石列 16
図25	瓦積 16
08RH392	
図26	調査位置図 17
図27	A地点遺構位置図 18

図28	A地点遺構断面図	18
図29	B-B'間落込	19
09RH210		
図30	調査位置図	20
図31	調査地点位置図	20
図32	土坑4	20
図33	遺構断面図	21
図34	土坑2	22
図35	土坑5	22
図36	土坑1	22
図37	出土土器拓影及び実測図	24
図38	出土遺物拓影及び実測図	25
図39	植物園北遺跡における縄文時代の遺構・遺物検出調査地点分布図	29
08KS415		
図40	調査位置図	30
図41	調査地点位置図	30
図42	遺構断面図	30
図43	出土土器拓影及び実測図	31
09RT44		
図44	調査位置図	32
図45	遺構位置図	32
図46	遺構断面図	33
図47	埋甕2	33
図48	埋甕3・4	33
図49	A地点出土土器拓影及び実測図1	34
図50	A地点出土土器拓影及び実測図2	35
図51	埋甕2出土土器拓影及び実測図	36
09RT100		
図52	調査位置図	38
図53	調査区配置図	38
図54	遺構平面及び断面図	39
図55	出土瓦拓影及び実測図	40
図56	南トレンチ	40
図57	北トレンチ	40

09RT89

図58 調査位置図	41
図59 No.1・2地点位置図	41
図60 No.3・4・7・8地点位置図	41
図61 No.5・6地点位置図	42
図62 No.1地点平面図	42
図63 No.4地点平面及び断面図	42
図64 No.6地点平面及び断面図	43
図65 No.7・8地点断面及び柱状断面図	43
図66 出土瓦拓影及び実測図	44
図67 No.4地点断面	44
図68 No.6地点平面及び断面	44
図69 No.7地点断面	44
図70 No.8地点断面	44

09FD149

図71 調査位置図	45
図72 調査区配置図	45
図73 「三」刻印の石垣	45
図74 北調査区平面及び北壁断面図	46
図75 南調査区上層石垣平面及び見通し図	47
図76 南調査区下層石垣北・中・南トレンチ平面及び見通し図	48
図77 北トレンチ北壁断面図	49

09FD101

図78 調査位置図	50
図79 調査区配置図	50
図80 2トレンチ平面及び東壁断面・3トレンチ柱状断面図	50
図81 1トレンチ北壁断面図	51
図82 1トレンチ石垣平面・立面図	51
図83 1トレンチ石垣	52
図84 詳細分布調査区平面及び東壁断面・A地点柱状断面図	53
図85 詳細分布調査区	54

09FD157

図86 調査位置図	55
図87 遺構位置図	55
図88 石垣出土状況	55

図89 北壁断面図	56
09FD133	
図90 調査位置図	57
図91 調査区配置図	57
図92 1・2・3区平面図	58
図93 1区東壁断面図	58
図94 2区北壁断面図	59
図95 3区南壁断面図	59
図96 出土土器実測図	60
図97 木製品実測図	61
09MK178	
図98 調査位置図	62
図99 遺構位置図	62
図100 Na 1・2地点遺構断面図	63
図101 Na 4地点遺構断面図	64
図102 出土土器拓影及び実測図	65
図103 Na 1 竪穴住居跡	66
図104 Na 1 竪穴住居跡土器出土状況	66
09HL140	
図105 調査位置図	67
図106 柱状断面図	67
図107 軒平瓦拓影及び実測図	67
09HL197	
図108 調査位置図	68
図109 遺構断面図	68
図110 遺物拓影及び実測図	68
08FD175	
図111 調査位置図	69
図110 遺物実測図	69

表 目 次

表1 詳細分布調査件数	1
表2 植物園北遺跡における縄文時代の遺構・遺物検出調査地点一覧	28

I 調査概要

本書は京都市文化市民局が(財)京都市埋蔵文化財研究所へ委託して実施した、文化庁国庫補助事業に伴う平成21年度の京都市内遺跡詳細分布調査報告書である。本報告書では平成21年1月4日から3月31日までの平成20年度分と、平成21年4月1日から12月26日までの平成21年度分を合わせて報告する。調査件数は453件であり、平成20年度分が113件、平成21年度分が340件である。京都市内を便宜的に地区分けした調査件数は、下表のとおりである(表1)。

表1 詳細分布調査件数

地区	20年度1~3月	21年度4~12月	小計	地区	20年度1~3月	21年度4~12月	小計
平安宮(HQ)	17	50	67	洛東地区(RT)	8	24	32
平安京左京(HL)	29	75	104	鳥羽地区(TB)	1	12	13
平安京右京(HR)	9	41	50	伏見・醍醐地区(FD)	13	22	35
洛北地区(RH)	11	29	40	長岡京地区(NG)	4	15	19
太秦地区(UZ)	10	17	27	南桂川地区(MK)	4	42	46
北白川地区(KS)	7	12	19	京北地区(UK)	0	1	1
				合計	113	340	453

昨年に続き今年も調査の総件数(453件)に占める平安京城(HQ・HL・HR)の件数(221件)が半数を割った。平安京城は京都市の中心部にあたり、また、全域が遺跡範囲であることから、常に平安京城の3地区で他の9地区の合計件数を上回っていたが、去年から逆転現象を起している。更に、下鴨半木町遺跡(08RH392)では遺跡範囲外で遺構を、革鴨館跡(09MK178)では中・近世の遺構の下層から古墳時代の遺構を、伏見城跡(09FD133)では指月城の可能性のある石垣を検出するなど、平安京城外で新発見の遺構を検出した。以下各地区の概要を述べる。

平安宮(HQ) 宮域では、朝堂院跡(08HQ242)の概要を報告する。

平安京左京(HL) 左京城では、三条一坊八町(09HL27)と八条二坊三町(09HL87)の2件の概要を報告する。また、主要な出土遺物として六条四坊四町(09HL140)と七条四坊三町(09HL197)で出土した遺物を報告する。他に平安時代の遺構は二条二坊七町(09HL172)、五条二坊六町(09HL54)、七条二坊十二町(09HL292)、八条二坊九町(09HL164)で検出した。四條四坊十六町(09HL214)では、東京極大路の路面を検出している。

平安京右京(HR) 右京城では、今回は概要の報告を行うような成果は得られなかったが、四條二坊十一町(08HR298)と九條一坊十町(09HR71)で平安時代の遺構を検出している。

洛北地区(RH) 本山古墳群、八幡古墳群、大宮北山ノ前瓦窯跡、栗栖野瓦窯跡、植物園北遺跡、今宮神社、大徳寺旧境内、御土居跡、下鴨半木町遺跡、史跡賀茂別雷神社境内、特別史跡・特別名勝鹿苑寺(金閣寺)庭園、北野遺跡、北野麩寺、香隆寺跡、上京遺跡、寺町旧城、相国寺旧境内、新町校地遺跡、室町殿跡(花の御所)、公家町遺跡、粟桑第跡の21箇所の遺跡で調査を行

った。この内、大徳寺旧境内（09RH222）、下鴨半木町遺跡（08RH392）、植物園北遺跡（09RH210）の概要を報告する。また、史跡賀茂別雷神社境内（08RH186、08RH368）では平安時代中期の包含層を検出している。

太秦地区（UZ） 史跡・名勝嵐山、嵯峨遺跡、宝幢寺境内、嵯峨北堀町遺跡、臨川寺境内、鳥居本古墳群、大覚寺古墳群、御堂ヶ池古墳群、史跡仁和寺御所跡、仁和寺院家跡、太秦馬塚町遺跡、常盤東ノ町古墳群、村ノ内町遺跡、常盤中之町遺跡、和泉式部町遺跡、森ヶ東瓦窯跡、広隆寺旧境内、上ノ段町遺跡、多藪町遺跡、井戸ヶ尻遺跡、御所ノ内町遺跡、清水山古墳の22箇所の遺跡で調査を行った。この内、嵯峨北堀町遺跡・嵯峨遺跡・宝幢寺境内（09UZ74）で飛鳥時代の包含層を検出した。

北白川地区（KS） 岡崎遺跡、延勝寺跡、法勝寺跡、白河街区跡、白河南殿跡、北白川廃寺、一乗寺西浦畑町遺跡、修学院月輪寺町遺跡、月林寺跡、小倉町別当町遺跡、北白川追分町遺跡、金成光明寺境内、法成寺跡、御土居跡、寺町旧城の15箇所の遺跡で調査を行った。この内、小倉町別当町遺跡（08KS415）の概要を報告する。

洛東地区（RT） 御土居跡、寺町旧城、四条道場跡、清水寺境内、六波羅政庁跡、法住寺殿跡、方広寺跡、中臣遺跡、中臣十三塚、法興院跡、旭山古墳群、元慶寺跡、山科本願寺跡、山科本願寺南殿跡の14箇所の遺跡で調査を行った。この内、四条道場跡・寺町旧城（09RT44）、法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡（09RT100）、法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡（09RT89）の3件の概要を報告する。清水寺境内（09RT15）では時期不明の石垣を検出している。

鳥羽地区（TB） 鳥羽離宮跡、鳥羽遺跡、唐橋遺跡、深草遺跡の4箇所の遺跡で調査を行ったが、概要報告を行うような成果は得られなかった。

伏見・醍醐地区（FD） 太閤堤、伏見城跡、桃山古墳群（永井久太郎古墳）、金森出雲遺跡、御香宮廃寺、伏見稲荷大社境内、極楽寺跡、正覚寺跡、醍醐古墳群、寺本城跡、深草寺跡、深草坊町遺跡、貞観寺跡、法界寺旧境内の14箇所の遺跡で調査を行った。この内、伏見城跡（09FD149、09FD101、09FD157、09FD133）の4件の概要を報告する。また、主要な出土遺物として伏見城跡（08FD175）で出土した遺物を報告する。

長岡京地区（NG） 長岡京跡、戊亥遺跡、東土川遺跡、東土川城跡、鶏冠井清水遺跡の5箇所の遺跡と、南桂川地区であるが同一工事主体で長岡京地区として扱った大藪遺跡、大藪城跡、の2箇所の遺跡の合計7箇所の遺跡で調査を行った。左京四条四坊三町（08NG389）で平安時代の包含層を検出した。左京二条四坊六町（09NG105）では東四坊坊間小路の側溝を検出している。

南桂川地区（MK） 大藪遺跡、中久世遺跡、下久世遺跡、上久世遺跡、史跡・名勝嵐山、嵐山谷ヶ辻子町遺跡、大江山古墳群、下津林遺跡、革輪館跡、桂城跡、福西古墳群、勝持寺旧境内、小塩窯跡群の13箇所の遺跡で調査を行った。この内、革輪館跡（09MK178）の概要を報告する。

京北地区（UK） 中江古墳群の1箇所の遺跡で調査を行ったが、概要報告を行うような成果は得られなかった。

（吉本健吾）

Ⅱ 平安京跡

1 平安京宮・朝堂院跡・聚落遺跡 (08HQ242)

調査経過 (図1)

千本通の丸太町通との交差点から御池通との交差点までの間 (上京区聚楽町～中京区西ノ京小堀町) の上水道配水管入替工事に伴う調査である。調査地は平安宮朝堂院の大極殿南側部分と応天門から朱雀門の推定地に位置する部分である。特に大極殿南側部分は今回の調査ラインの東隣接地において1994年の試掘調査で大極殿南縁の階段部分と考えられる基壇を検出して¹⁾いる。今回の調査でその延長部分の検出が期待された。

調査は2008年10月6日から2009年2月9日まで行った。ここでは大極殿、応天門、朱雀門推定地の部分の調査を報告する。

遺構・遺物 (図2～6)

朱雀門推定地では、配水管入替工事が千本通の東西の歩道部分で行われ、朱雀門を2箇所南北に縦断する、7地点で調査を行った。結果、西側のNo.1地点と東側のNo.2地点で朱雀門基壇の整地層と考えられる層を検出した。

No.1地点の基本層序は、-0.35mまでが現代盛土層、-0.35mから-0.5mが整地層、以下が明黄褐色砂泥の地山となる。整地層は炭、小礫を含むにぶい黄褐色砂泥で、南北方向に7.1mに渡って検出した。層の厚さは最小で0.07m、最大で0.3mを測る。遺物は出土していない。

No.2地点の基本層序は、-0.43mまでが現代盛土層、-0.43mから-0.57mが近世以降の包含層、-0.47mから-0.83mが整地層、以下が黄褐色粘土の地山となる。整地層は3層に分層でき、上層は-0.57mで最大厚さ0.16mを測るオリブ褐色砂泥 (2.5Y4/3)、下層は-0.7mでオリブ褐色砂泥 (2.5Y4/4) と黒褐色砂泥に分層できる。南北方向に0.66mに渡って検出した。2層共に平安時代の瓦を包含し、下層のオリブ褐色砂

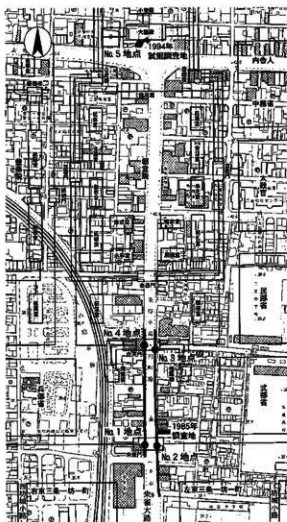


図1 調査位置図 (1:5,000)

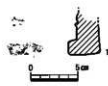


図2 軒丸瓦拓影及び実測図 (1:4)

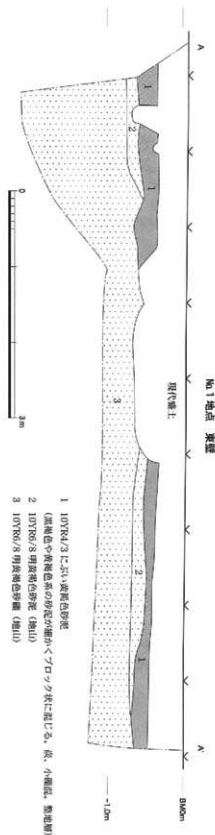


図3 No. 1地点遺構断面図 (1:50)



図4 No. 1・2地点位置図 (1:500)

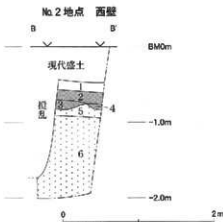
泥からは軒丸瓦(1)が出土している。

整地層を検出したNo.1・2地点以外の朱雀門内の調査では、旧埋設管による攪乱層か、南北方向の近世以降の溝ではないかと考えられる湿地状堆積を検出したにとどまった。

応天門推定地も朱雀門と同じく配水管入替工事が千本通の東西の歩道部分で行われ、2箇所を南北に縦断する形となり、2地点で調査を行った。

千本通東側のNo.3地点では、-0.85mまで現代盛土層、-0.85mから-1.18mで近世以降の溝と考えられる湿地状堆積層、-1.18mから-1.34mでは江戸時代の包含層、-1.34m以下にはぶい黄褐色粘土となる。千本通西側のNo.4地点では、掘削深-1.2mまで旧埋設管による攪乱層であった。応天門に関連する遺構は検出できなかった。

大極殿南側推定地は、配水管入替工事が千本丸太町交差点の北西角の歩道部分を北東から南西に約20mに渡って行われ、4地点で調査を行った。No.5地点では、-0.5mまで現代盛土層、以下は暗褐色粗砂の地山となる。他の箇所も1m以上の攪乱層を検出したにとどまり、いずれも大極殿に関連する遺構は検出できなかった。



- 1 10YR4/3 に近い黄褐色砂泥 (産産、枝瓦確認のみ)
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
(産産、成層、平安時代の瓦含む、整地層)
- 3 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥
(産産、成層、平安時代の瓦含む、整地層)
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 (産産)
- 5 2.5Y5/6 黄褐色粘土 (地山)
- 6 10YR5/4 に近い黄褐色砂礫 (地山)

図5 No.2地点遺構断面図(1:50)



図6 No.2地点整地層(東から)

まとめ

今回の調査ではNo.1・2地点の朱雀門推定地内で整地層を検出した。しかしながら確認できた範囲が狭いため、この層が朱雀門のみの整地層なのか、宮全体を整地するための層なのかは検討を要する。

なお、朱雀門推定地外の北東隣接地で行われた1985年の調査では、地表下-0.9mで平安時代の瓦を含んだ褐灰色砂泥層、-1.2mで路面と考えられる堅く締まった黄灰色砂礫層、-1.37m以下は茶褐色砂礫の地山となる堆積層を検出している。

また、整地層を検出したNo.1・2地点は、配水管入替工事が歩道と車道の境界か車道部分で行われた地点であった。それ以外の歩道部分での調査では、そのほとんどが旧埋設管による攪乱層か、南北方向の近世以降の溝ではないかと考えられる湿地状堆積を検出した。このことは千本通の歩道部分の地表下には近世以降の溝や埋設管が設置され中世以前の遺構は存在しないと考えられる。逆に車道部分はNo.1・2地点のように遺構が残存している可能性を示している。

(吉本健吾)

註1 辻純一「第3章Ⅰ朝堂院跡 調査31」『平安宮Ⅰ 京都市埋蔵文化財研究所調査報告第31冊』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年

註2 「調査一覧表」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年、辻裕司「第3章Ⅳ-5中央官衙群跡 調査14」『平安宮Ⅰ 京都市埋蔵文化財研究所調査報告第31冊』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年

2 平安京左京三条一坊八町跡 (09HL27)

調査経過 (図7)

中京区西ノ京式部町51-1、51-2、51-5の共同住宅建築工事に伴う調査である。調査地は平安京左京三条一坊八町の北西付近に推定され、調査地の北側を二条大路の南築地推定ラインが通る。

調査地北隣接地の朱雀高校構内では、1978年から1979年に発掘調査を行い、近世の櫓列、石敷遺構、中世の井戸などを検出している。

調査は、2009年4月20日から27日まで行い、近世と考えられる石敷遺構、土坑、ピットなどを検出した。



図7 調査位置図 (1:5,000)

遺構 (図8~14)

調査地の基本層序はA-A'間で、BM^{-0.44}mまでは現代盛土層、^{-0.44}mから^{-0.54}mまでは現代耕作土層、^{-0.54}mから^{-0.6}mまでは近世以降のにぶい黄褐色砂泥層、^{-0.6}mから^{-0.8}mまでは平安時代の瓦を含む石敷遺構、^{-0.8}mから^{-0.98}mまでは平安の瓦を含むオリーブ褐色砂泥層、^{-0.98}m以下が黄褐色砂礫の地山となる。

石敷遺構はA-A'間、B-B'間とC-C'間で検出した。

A-A'間では最大厚0.12mを測り、南北方向6.15mに渡って検出した。北側は近世の瓦溜、南側は現代攪乱によって破壊されており、延長は確認できなかった。石敷遺構の

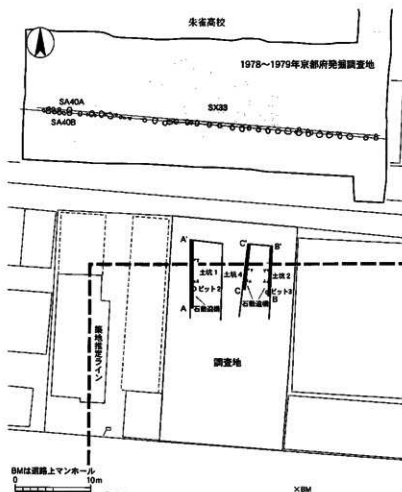


図8 遺構位置図 (1:500)

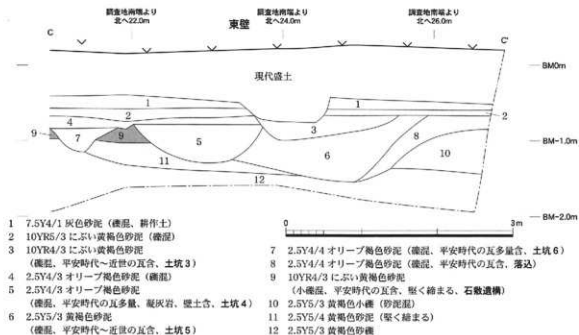


図10 C-C間遺構断面図 (1:50)

上面のレベルは高い地点でBM-0.6m、低い地点で-0.72mを測る。南側道路より23mの地点を中心に北南に穏やかに下っていく。石は約1cmから20cm以上の大小様々なものを使用しているが、大半は5cmから10cm大のものを密に敷き詰めている。他に石の代用品として瓦片も含まれていた。一部石敷層の上層を取り除くと、石で奇麗な平坦面が形成されており、路面と見間違えるほどであった。

B-B'間では最大厚0.12mを測り、南北方向4.35mに渡って検出した。北側は南側道路より25.43mの地点でなくなっており、以北は削平された可能性がある。南側は工事掘削中で南側道路より20.33mの地点より南は確認できなかった。石敷遺構の上面のレベルは高い地点でBM-0.73m、低い地点で-0.79mを測る。南側道路より21.2mの地点を中心に北南に穏やかに下っていく。石はA-A'間とほぼ同様の大きさのものを使用しているが、圧力的にその量は少ない。

C-C'間では最大厚0.25mを測るが、南側道路より20.93mの地点から北へ1.33mに渡ってしか検出できなかった。北側は土坑4に切られており、検出部分の中央も土坑6で破壊されているため、石敷遺構はほとんど残存していない。石もB-B'間と同様に圧力的に量が少ない。

石敷遺構以外の遺構は、A-A'間で土坑1基、ピット2基、瓦溜1基、B-B'間で土坑1基、ピット1基、C-C'間で土坑4基、落込1基を検出している。明確に近世の瓦を含むものはC-C'間の土坑3・5で、他に平安の瓦、凝灰岩、壁土を含む土坑4は上記の土坑を切って成立しており、近世の土坑である。それ以外の遺構(ピット1～3、土坑1・2・6、落込)に含まれるものはすべて平安時代の瓦であり、一部に凝灰岩や壁土を含んでいる(凝灰岩を含むもの土坑2、壁土を含むものピット1)。これらの遺構の中でピット2・3、土坑1・2は、すべて石敷遺構の下層で検出した。

まとめ

今回検出した石敷遺構は、出土する遺物が平安時代のものであり、検出した地点が二条大路付近にあたり、当初は二条大路の路面ではないかと考えられたが、北隣接地の発掘調査^{註1}で検出した17世紀の石敷遺構SX33と、その下層で検出した17世紀前半の柵SA40A・Bの関係が今回検出した石敷遺構と、その下層で検出した土坑、ピットとの関係に類似しており、石敷遺構はSX33の南延長部ではないかと考えられる。

また、調査地に大量の平安時代の瓦や凝灰岩などが出土するのは、平安宮で使用されていたものが、聚楽第などの近世初頭の大規模土木工事でこの付近まで拡散されたことを想定させる。

(吉本健吾)

註1 「平安京跡（二条大路）昭和54年度発掘調査概要」「埋蔵文化財発掘調査概報（1980-3）」京都府教育庁文化財保護課 1980年



図11 A-A'間（東から）

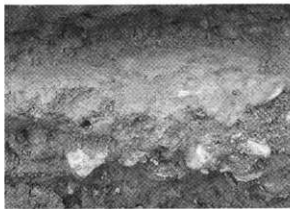


図12 A-A'間石敷遺構（東から）



図13 B-B'間（西から）



図14 C-C'間（東から）

3 平安京左京八条二坊三町跡 (09HL87)

調査経過 (図15)

下京区猪熊通塩小路下る二丁目南夷町176-1、178-1のマンション建築事に伴う調査である。調査地は平安京左京八条二坊三町の南東隅に推定される。

調査地北側では、1982年(82HL219)、1992年(92HL179)と2001年(01HL209)にそれぞれ調査を行い、平安時代前期の包含層、平安時代から江戸時代の土坑を多数と猪熊小路の路面などを検出している。

調査は、2009年6月8日と9日の2日間行い、平安時代後期の井戸を検出した。

遺構 (図16・17・19)

井戸を検出した地点は調査地のほぼ中央部にあたり、基準とした南側道路より約1m高くなっている。基本層序は、BM+1.0mから+0.74mまでは現代盛土層、+0.74mから+0.48mまでは江戸時代後期の遺物包含層、+0.48mから+0.34mまでは平安時代後期の遺構(この層は南西では-0.32mまで下がっている。)、+0.34mから+0.18mまでは灰黄褐色粘質土層、+0.18m以下が灰白色細砂の地山となる。平安時代後期の井戸はこの灰白色細砂の地山を切って検出した。

井戸は方形木組のもので北東から南東方向に断ち割った断面で観察した。南西側は平安時代後期の遺構の削平を受け、北東側と底部のみが確認できた。北東側では木組の立板と横積木を確認した。南西側でも平安時代後期の遺構の下で横積木を確認したが、北東側とは高さが違い原位置をとどめていないと考えられる。立板の裏には堀形が確認できる。底部には最大径約34cmと約24cmの曲物が二重に据え、間に粘質土を入れ補強していた。曲物の高さは40cmを測る。

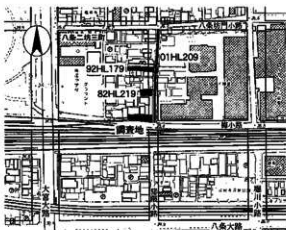


図15 調査位置図 (1:5,000)

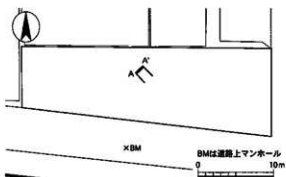


図16 遺構位置図 (1:500)

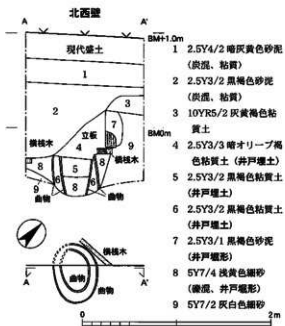


図17 遺構断面及び平面図 (1:40)

この井戸の埋土からは平安時代後期の土師器皿、須恵器甕が出土している。上層の平安時代後期の遺構と時期差は見られない。

遺物(図18)

遺物は、平安時代後期の包含層と井戸から出土したものである。井戸から出土した遺物は小片で実測不可であった。掲載した遺物はいずれも平安時代後期の包含層からのものである。

(2~5)は土師器皿、(6)灰釉陶器碗である。

まとめ

今回は平安時代後期の遺物を含む井戸を1基検出することができた。この井戸は、底部の曲物が二重になっているものであった。

上層の包含層と遺物が同時期なのは、遺構の落込が井戸を削平した部分に当たり井戸の遺物が混入した可能性が考えられる。この付近も遺構の検出例が多く今後の調査に期待したい。

(吉本健吾)



図18 出土土器実測図
(1:4)

註1 『調査概要一覧表』『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年

註2 『調査一覧表』『京都市内遺跡立会調査概報 平成4年度』京都市文化観光局 1993年

註3 『調査一覧表』『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年



図19 井戸(南東から)

Ⅲ その他の遺跡

1 大徳寺旧境内 (09RH222)

調査経過 (図20)

平安京造営時の基準点になったとも言われる船岡山の北側に、大燈国師宗峰妙超の開いた臨濟宗の本山、大徳寺がある。この大徳寺の塔頭であり、北区紫野大徳寺町83-1に所在する黄梅院において書院の保存修理工事が計画されたため、平成21年5月15日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく届出がなされた。届出された工事内容に、書院床下の排水処理を目的とした掘削工事が計画されていたことから、江戸時代前期建立と伝わる書院及びその下層遺構の状況を確認するための調査を、同年9月9日から9月24日まで行った。その結果、建物地業に関する遺構並びに、現在の書院に先行する建物に伴う石列を検出することができた。

なお、今回発見された遺構については、記録作成後、保存修理を担当する工務店による保護措置が図られ、地中保存されることになった。

遺 構 (図21~25)

調査区 書院の床下南半部分に、南東から北西に向けて段々に北上する東西方向の調査区を設定した。調査面積は約5㎡、最大掘削深度は書院床面から0.4mであった。

地業状遺構 現在の書院の床面を構成する灰黄褐色砂泥(厚さ10cm前後)の下層、調査区の東端において、厚さ2cmの粘土の上面に瓦を2段積みにし、隙間に漆喰を施した幅0.8m、厚さ0.1m以上の層が認められた。調査区東端の南北方向の礎石列部分に並行して存在していることから、柱筋を布基礎状に補強する目的でなされた地業の一種と考えられる。この遺構は、25cmから50cmの厚さをもつ整地土に切られている。

石列 書院の南側中央部分の床下で発見された、北東地点に角をもつ東西方向と南北方向の石列を検出した。にぶい黄褐色砂泥層(土師器の小片を含む下層と、含まない上層に分かれる)によって覆われており、極暗褐色砂泥層上で成立している。東西方向の石列は、10cmから16cm大の



図20 調査位置図 (1:5,000)

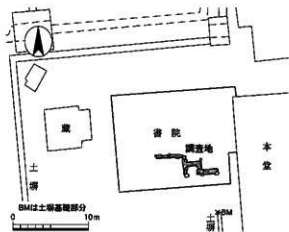


図21 調査区配置図 (1:500)

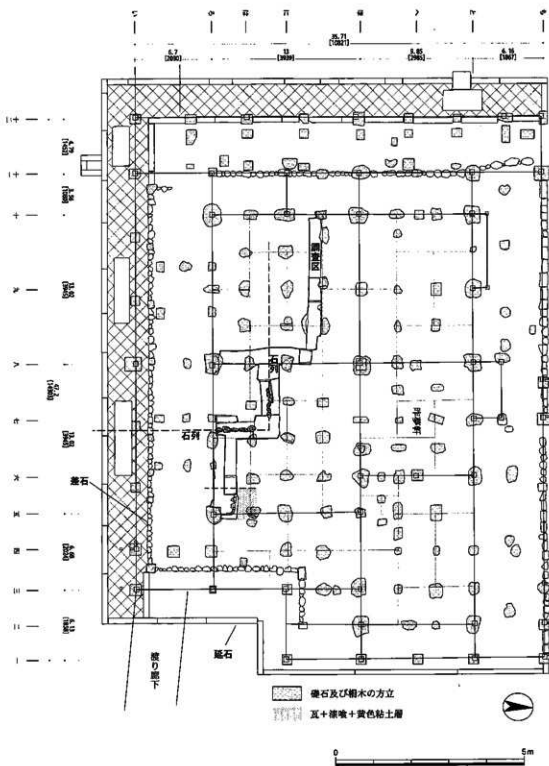


図22 黄梅院書院【自由軒】と調査区（1：100）

石を6石分、長さにして0.79m確認した。南北方向の石列は、16cmから26cm大の石5石分、長さ1.24mにわたって確認した。両石列の想定交点部分については、抜き取られたのか確認することはできなかった。石は東及び北を面にしており、周囲よりも石で囲まれた範囲は約10cm高い。これらの石は、建物基壇の縁に並べられた差石の一部と考えられる。

まとめ

黄梅院は、千利休の師で茶人の武野紹鴎が参禅したと伝えられる春林宗叔により永禄5年(1562)に創建され、春林の弟子の玉仲和尚に帰依した小早川隆景、毛利輝元により天正年中に堂宇の整備された塔頭である。また、黄梅院は、明治22年(1889)7月20日に蒲生氏郷の菩提寺である昌林院を合併したほか、玉雲軒、眞常軒、臨流軒、威徳院等を合併している。今回の確認調査の対象となった書院(自休軒)は、天正14年(1586)落成の本堂(客殿)及び翌天正17年(1589)築の庫裡(いずれも国指定重要文化財)の西方に建つ建築物である。過去帳から、毛利藩家老の益田玄蕃頭元祥の孫にあたる元兎が承応元年(1652)に建立したとされ、桁行11.1m、梁行11.1m、入母屋造、棧瓦葺の木造平屋の建物である。書院中央北側には昨夢軒という四畳半の茶室がある。今回の保存修理並びに確認調査の結果、書院及び書院の下層について新たな知見を得ることができた。書院南西八帖間の畳下荒床と南縁板に使われた檜材の年輪年代測定により、過去帳の建立年代に近い1630年代に伐採された部材が残ること、柱材に墨書された年号から寛政年間(1789~1801)とそれに続く享和年間(1801~1804)に大規模な修理が行われたことが判明した。屋根についても、改造時期は不明であるものの、寄棟造りから入母屋造りに変更されていることが明らかになった。

確認調査としては、二つの成果を得ることができた。成果の第一は、東と北に面をもつ石列の発見がある。この石列は、書院が現在位置に建つ以前に存在した建物の基礎縁辺に並べられた差石の一部と考えられる遺構であり、西縁及び南縁は不明であるものの、現在の書院の南辺を越えて庭園まで広がる可能性が高く、書院自体の移築の他、桃山期以前の大徳寺に関連する施設などが考えられる。第二に、調査区東端で見つかった瓦と漆喰を黄色粘土の上層に貼り付けた層は、書院東端から5番目の柱筋(南北方向)と一致することから、書院が現在位置に建てられるにあたり、柱筋を固定するために施された一種の地業であると考えられる。

黄梅院は、近世再興時の本堂、庫裏、書院、鐘楼、表門などの現存する希少な塔頭であることから、近世大徳寺の興隆を考えるうえで貴重な成果である。

なお、今回の確認調査は、所有者である宗教法人黄梅院代表役員の小林太玄和尚、保存修理を担当する山本工業株式会社伊藤茂樹氏の協力を得て実施することができた。書院礎石の実測図は山本興業伊藤氏により作成されたものである。

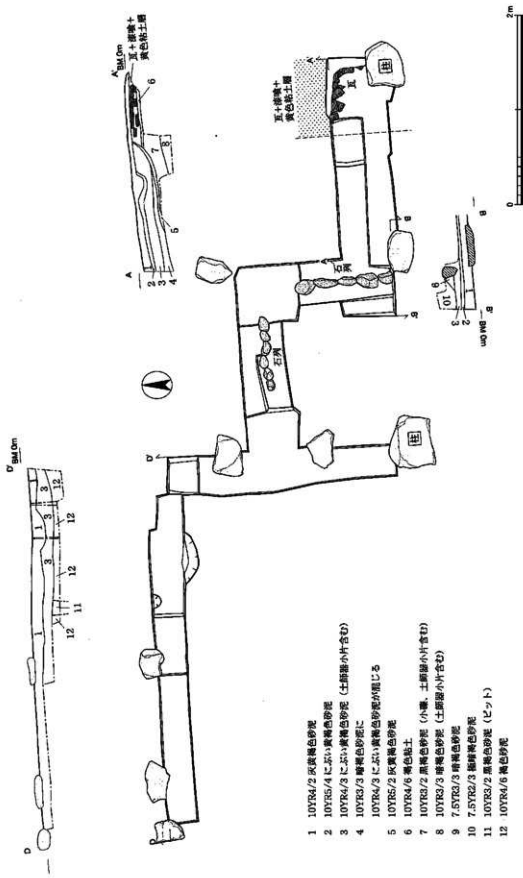
(馬瀬智光)

註1 竹村俊則『昭和京都名所圖會』(洛中編) 駈々堂出版 1984年

註2 京都府教育委員会『京都府の近世社寺建築—近世社寺建築緊急調査報告書—』京都府教育庁文化財保護課 1983年

註3 佐藤虎雄『大徳寺系譜』河原書店 1919年

註4 『黄梅院書院保存修理工事』工事状況説明書 山本興業株式会社 2009



- 1 10YR4/2 灰黄色砂泥
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 (土器器小片含む)
- 4 10YR3/3 暗褐色砂泥に
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥が混じる
- 6 10YR4/6 褐色粘土
- 7 10YR2/2 黒褐色砂泥 (小礫、土器器小片含む)
- 8 10YR3/3 暗褐色砂泥 (土器器小片含む)
- 9 7.5YR3/3 暗褐色砂泥
- 10 7.5YR2/3 暗褐色砂泥
- 11 10YR3/2 黒褐色砂泥 (ヒット)
- 12 10YR4/6 褐色砂泥

図23 平面及び断面図 (1 : 40)



図24 石列（北東から）



図25 瓦積（南から）

2 下鴨半木町遺跡 (08RH392)

調査経過 (図26)

左京区下鴨本町～下鴨膳部町他における水道配管工事に伴う調査である。工事箇所は、下鴨半木町遺跡と半木町塚跡に隣接する1区と、北大路通と下鴨本通の交差点の南東付近の遺跡にかからない2区の2箇所に分れる。

下鴨半木町遺跡は、京都府立大学構内で平安時代を中心とした集落跡を検出しており、半木町塚跡は古墳が僅かに残存する遺跡である。今回の調査ではこれらの遺跡に隣接する1区では遺構、遺物は検出できず、遺跡として認識されていなかった2区から時期は不明であるが、竪穴住居と考えられる遺構を検出した。

調査は、1区が2009年3月16日から25日まで、2区が3月2日から17日までと27日から4月23日まで行った。

遺構・遺物 (図27～29)

1区では、前述のように遺構、遺物は検出できなかった。基本層序は地表下-0.91mで近・現代の耕作土、-0.98m以下、黄褐色砂泥の地山となる。遺構は、耕作土形成時に削平を受けたものと考えられる。

2区は、A地点において竪穴住居址と考えられる落込を検出した。落込は、最初仮設管理設の掘

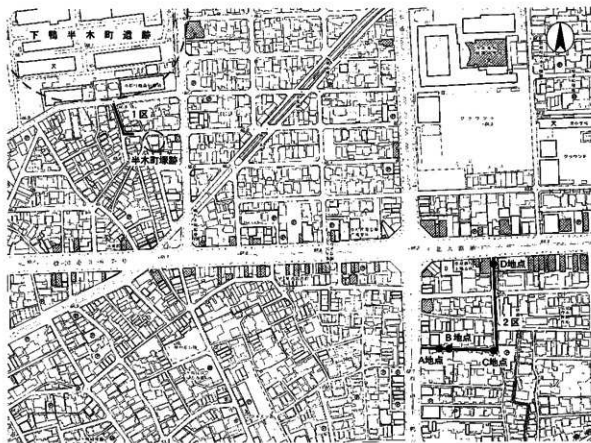


図26 調査位置図 (1:5,000)

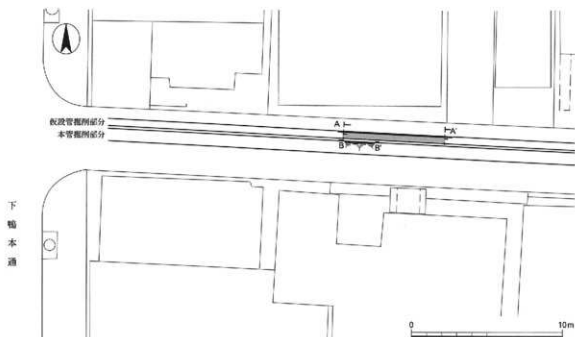


図27 A地点遺構位置図 (1:250)

削工事の調査 (A-A'間) で検出した。更に0.7m南側の本管理設の掘削工事の調査 (B-B'間) でもその一部を検出した。落込の規模は、地表下-0.27mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切って東西幅6.88m以上、深さ0.19mを測る。西壁は直落ちであるが、東側は別の落込に切られていて不明である。埋土からは小片であるが平安時代以前と考えられる土師器が出土している。

遺跡に隣接しない2区であるが、A地点以外でも極少量であるが遺物が出土している地点がある。まずB地点の地表下-0.44mの黒褐色砂泥層で平安時代と考えられる土師器皿が出土した。C地点では地表下-0.15mの褐灰色砂泥層で時期不明の土師器小片が出土した。D地点でも地表下-0.21mの暗灰黄色砂泥層から時期不明の土師器小片、須恵器小片、近世以降の施釉陶器小片が出土している。この堆積層は近世以降の耕作土の一部と考えられる。

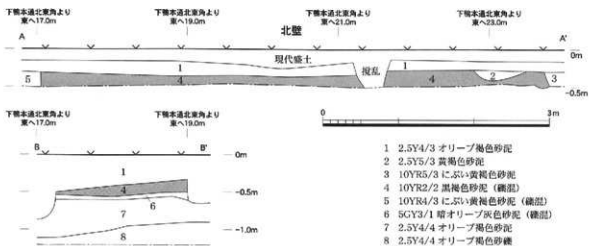


図28 A地点遺構断面図 (1:50)

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 2 2.5Y5/3 黄褐色砂泥
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂泥
- 4 10YR2/2 黒褐色砂泥 (礫混)
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥 (礫混)
- 6 5GY3/1 暗オリーブ灰色砂泥 (礫混)
- 7 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥
- 8 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥

まとめ

今回の調査では、遺跡の隣接地である1区からは遺構、遺物が検出できなかった。しかし、遺跡として認識されていなかった2区から、時期は不明であるが竪穴住居と考えられる落込と数箇所の遺物包含層を検出したことは、非常に大きな成果である。

この付近は、賀茂川と高野川の中間の扇状地に位置し、上賀茂神社と下鴨神社の中間地にあたり、北には植物園北遺跡^{註1}という弥生時代後期から室町時代にかけての集落跡が控えているところである。この地に遺跡が存在することは十分に想定できることである。

今まで遺跡として周知されなかったのは、この付近が早くに市街地化され、遺構、遺物の発見がみられなかったことによる。今回の遺構、遺物の検出により、遺跡の存在が明らかになったので、早急に新しい遺跡の設定が望まれる。

(吉本健吾)

註1 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 2007年



図29 B-B間落込(南から)

3 植物園北遺跡 (09RH210)

調査経過 (図30)

北区上賀茂高縄手町12の共同住宅建築工事に伴う調査である。調査地は植物園北遺跡の西部に位置する。

調査地は、北及び南側道路で1978年から1981年の上賀茂付近一帯の下水道工事に伴う調査で弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡を数基検出しており、遺構の残存状態が良い地点であり、遺構の検出が期待された。

調査は2009年9月1日から7日まで行い、縄文時代晩期前半の土坑5基と包含層を検出した。

遺 構 (図31~36)

縄文時代の遺構を検出したのは調査地の西側のみで、東側では確認できなかった。

調査地西側の基本層序はA-A'間の中央部でBM-0.44mから-0.62mまでが現代盛土層、-0.62mから-0.77mまでが縄文時代後期末から晩期初頭の包含層(包含層1)、-0.77mから-0.97mまでも同じく縄文時代後期末から晩期初頭の包含層(包含層2)、-0.97m以下が褐色砂泥の地山となる。晩期初頭の土坑群は上層の包



図30 調査位置図 (1 : 5,000)

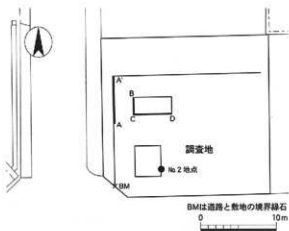
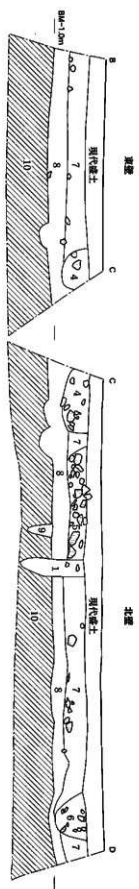
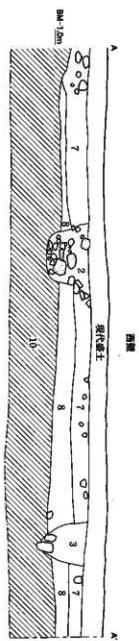


図31 調査地点位置図 (1 : 500)



図32 土坑4 (南から)



- 1 7.5Y3/2 オリ-ア黒色砂泥 (φ1~3cm程度)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 (φ5~10cm程度, 縄文土相多数含む, 土坑1)
- 3 2.5Y3/2 黒褐色砂泥 (φ5~10cm程度, 縄文土層含, 土坑2)
- 4 10YR3/2 黒褐色砂泥 (φ5~10cm程度, 縄文土相多数含む, 土坑3)
- 5 10Y3/2 オリ-ア黒色砂泥 (φ5~15cm程度, 縄文土相多数含む, 土坑4)
- 6 10Y3/2 オリ-ア黒色砂泥 (φ5~15cm程度, 縄文土相多数含む, 土坑5)
- 7 7.5Y3/2 オリ-ア黒色砂泥 (φ1~3cm程度, 縄文土相多数含む, 包巻層1)
- 8 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 (φ1~3cm程度, 縄文土層含, 包巻層2)
- 9 7.5Y3/2 オリ-ア黒色砂泥 (φ1~3cm程度)
- 10 10YR4/4 褐色砂泥 (旗山)

図33 遺構断面図 (1:40)



図34 土坑2 (東から)



図35 土坑5 (南から)

含層1を切って成立している。

なお、調査地東側では、BM-0.46mから-0.6mまでが現代盛土層、-0.6mから-1.0mまでが褐色砂泥層、-1.0m以下がにぶい黄褐色砂礫層となる。この盛土層以下の2層は地山であり、黄褐色砂礫層は西から東へ高くなっており、地山全体が東へ高くなり、縄文時代の包含層が削平を受けていると考えられる。

縄文時代晩期初頭の土坑は調査地の北西付近で5基検出した。いずれもA-A'間とB-C-D間の断面で検出したもので性格は不明であるが、いずれも石を多く含んでいるのが特徴である。

土坑1は幅0.67m、深さ0.46mで断面形状は底が平坦で逆台形状を呈する。径0.1mから0.2m大の石を多量に含み、多量の遺物を含んでいる。土坑2は幅0.5m、深さ0.55mで断面形状が逆円錐状を呈する。土坑3はCの角部分で検出した。幅は南北0.49m、東西0.69m、深さ0.41mを呈する。土坑4は幅1.2m以上、深さ0.2mで断面形状は底が平坦な横長を呈する。径0.1mから0.2m大の石を多量に含んでいる。土坑5は幅0.52m、深さ0.45mで断面形状は底が丸い。遺物はすべての土坑から出土しているが、土坑1以外は少量のみである。



図36 土坑1 (東から)

他にはNa2地点のBM-0.74mの縄文時代後期末から晩期初頭の包含層(A-A'間の包含層1に相当)から多量の土器が出土している。

遺物 (図版29・30、図37・38)

遺物には、縄文土器とサヌカイト剥片、粘板岩片がある。遺物の多くは包含層1から出土し、深鉢の体部とみられる破片が大半を占める。出土遺物の時期は、縄文時代後期末から晩期初頭の滋賀里Ⅰ式土器から滋賀里Ⅱ式土器を主体とする。宮滝式土器の特徴である扇状圧痕を持つ土

器(8)や滋賀里Ⅲa式土器の特徴を示す頸部に強いナデを持つ土器(18・19)も一部存在しているが、おおむね、当該期の範疇に納まると考えられる。また、角閃石を含み、チョコレート色を呈するいわゆる生駒西麓産とみられる土器も数点ある。

有文深鉢(7)は口縁部片である。器形は口縁直下が逆「く」の字に内屈し、口縁が内傾しながら立ち上がる。口縁端部は平らに面取りを施しているが、断面は肥厚している。内外面の調整は摩滅が著しく不明瞭である。外面屈曲上に棒状工具とみられる施文具で、3本の浅く細めの平行沈線が引かれている。胎土は径1～2mmの石英・チャート・雲母を多量に含む。色調は10YR2/1～3/3黒色から暗褐色を呈し、焼成はあまい。No.2地点包含層から出土した。

有文深鉢(8)は胴部片である。内外面の調整は摩滅が著しく不明瞭であるが、外面に平行凹線を2本引いた上に、巻貝による扇状圧痕を施す。粘土を貼り付けない直押で、押し引いて施文しているとみられる。胎土は径1mmのチャート・角閃石・雲母を多量に含む、色調は外面が10YR2/1黒色、内面が10YR4/2灰黄褐色を呈する。焼成はあまい。土坑5から出土した。

有文深鉢(9)は口縁直下の肩部で一度屈曲したのが窄まって腰部に至る部分の破片である。内外面の調整は摩滅が著しいため不明であるが、3本の平行沈線が胴部片下部に施されている。棒状工具によるとみられる。胎土は径2～3mmの石英を少量、径1mmの石英・長石・チャート・角閃石・雲母を多量に含む。外面の色調は10YR3/2黒褐色、内面は10YR4/3にぶい黄褐色で、焼成はあまい。No.2地点の包含層から出土した。

有文深鉢(10)は波状口縁部片である。山形の口縁が3ないし4単位つき、肩部が内湾しながら腰部で窄まる器形を呈する。口縁端部を丁寧になでて面取りを行う。外面は右斜め下から左斜め上にかけての巻貝条痕、内面は巻貝を使用したナデである。口縁直下に3本の浅い平行沈線を施し、上から1～2本目間に米粒形の文様を押圧する。胎土は径2mmの石英・チャートを少量、径1mm以下の石英・長石・チャートを多量に含む。色調は外面が5Y2/1黒色と10YR4/3にぶい黄褐色、内面が5Y2/1黒色である。焼成は良好、内面下部には煮炊き痕跡の焦げが付着している。No.2地点の包含層から出土。

有文深鉢(11)は口縁部片で、逆「く」の字に屈曲した肩部に緩やかに外反する口縁が立ち上がる。口縁端部をナデによって面取りし、内外面を巻貝によってナデ調整を施す。屈曲部内面には指頭圧痕が認められる。肩部直上に2本の平行沈線を引く。胎土は径2mm以下の石英・チャート・角閃石を多量に含む。内外面の色調は10YR3/2黒褐色、焼成は良好。包含層1から出土した。

有文深鉢(12)は口縁部片である。内屈した肩部から口縁が立ち上がる。口縁端部を平らに面取りする。内外面の調整は摩滅のため不明瞭である。口縁と肩部の境に沈線を施す。胎土は径2～3mmの花崗岩を少量、径1mm以下のチャート・石英・角閃石・雲母を多量に含む。外面は10YR2/2黒褐色、内面は10YR3/3暗褐色を呈する。焼成はあまい。土坑3から出土した。

有文深鉢(13)は口縁部片であるが、端部が摩滅してほとんど残存していない。器形は内湾する口縁が頸部で窄まるとみられる。内外面の調整は不明瞭であるが、外面に平行沈線が棒状工具

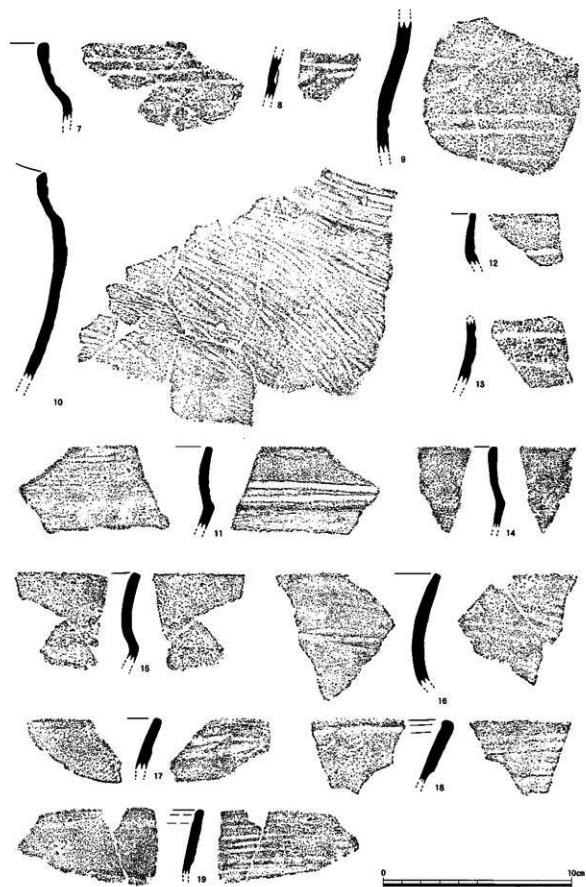


图37 出土土器拓影及び实测图 (1 : 2)

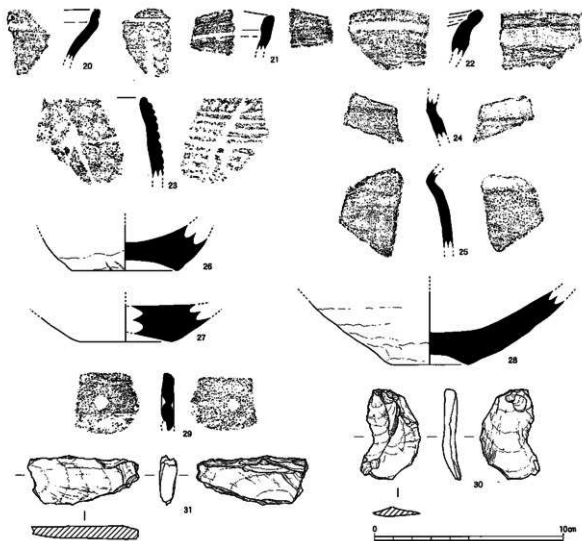


図38 出土遺物拓影及び実測図(1:2)

によって2本引かれている。径2mm以下の石英・チャート・角閃石を多量に含む胎土で、2.5Y6/2灰黄色の色調を呈する。焼成はあまい。包含層1から出土した。

無文深鉢(14)は口縁部片である。肩部で逆「く」の字に内屈し、ほぼ真っ直ぐな口縁が立ち上がる。内面から外面肩上部にかけて、ミガキに近いナデ調整で、口縁端部を丁寧に面取りする。外面下部は条痕またはケズリである。胎土は径1mm以下の石英・チャート・雲母・角閃石を多量に含み、外面は10YR3/2黒褐色、内面は10YR4/3にぶい黄褐色を呈する。焼成は良好。No.2地点の包含層から出土した。

無文深鉢(15)は口縁部片で、内屈した肩部に、緩やかに外反する口縁が立ち上がる。摩滅が著しいため調整は不明瞭であるが、口縁端部は丁寧に面取りしている。径2~3mmの石英・チャートを少量、径1mm以下の石英・チャート・角閃石・雲母を多量に含む。外面色調は10YR5/3にぶい黄褐色、内面は10YR4/2灰黄褐色を呈し、焼成は良い。包含層1から出土した。

無文深鉢(16)は肩部から(15)よりも強く外反する口縁部片である。内外面は巻貝による横方向の条痕が確認できる。口縁端部をなでて面取りする。胎土は径3mmのチャートを数個、径

1 mm以下の石英・長石・チャート・雲母を多量に含む。外面の色調は10YR5/3にぶい黄褐色、内面は10YR6/3にぶい黄褐色と2.5Y2/1黒色である。焼成は良好、土坑1から出土した。

無文深鉢(17)は外反する口縁部片である。内面はナデ、外面は巻貝によるとみられるナデであり、特に口縁部直下を強くなでるため端部側が薄くなっている。端部は丁寧に面取りする。径1 mm以下の石英・チャート・角閃石・雲母を多量に含み、色調は10YR4/2灰黄褐色、焼成は良い。土坑1から出土した。

無文深鉢(18)は口縁部片である。頸部に強いナデを施し、外反する器形である。口縁端部内面にナデによる沈線状の窪みがあり、口縁端部外面は丸く面取りする。調整は内面がナデ、外面は巻貝とみられる条痕が確認できる。胎土は径1 mm以下の石英・チャート・角閃石を多量に含む。外面は10YR4/2灰黄褐色と7.5YR4/3褐色、内面は2.5Y5/2暗灰黄色で、焼成は良好である。土坑1から出土した。

無文深鉢(19)は(18)と同様の器形を呈する口縁部片である。頸部に強いナデ、内面口縁端部直下に浅い沈線状の窪みがある。内面はミガキに近い丁寧なナデ、外面は巻貝条痕で、端部を平らに面取りする。胎土は径2～3 mmの石英・チャートを少量、径1 mm以下の石英・チャート・角閃石を多量に含む。外面は10YR3/2黒褐色、内面は2.5Y4/4オリーブ褐色と2.5Y2/1黒色を呈し、焼成は良好である。外面には朱が塗られていたとみられる。包含層1から出土した。

有文浅鉢(20)は口縁部片である。椀状の体部から大きく外反して口縁で上方に立ち上がる器形となる。内外面にミガキ調整を行い、口縁部外面に断面「V」字状の沈線を施す。胎土は径2 mm以下の石英・長石・チャート・雲母を多量に含む。色調は10YR5/2灰黄褐色、焼成は良好である。包含層1から出土した。

無文浅鉢(21)は椀状の体部に付く短い波状口縁部片である。内面頸部に強いナデによる段差があり、口縁部は肥厚している。内外面はミガキ調整で、口縁端部を丁寧に面取りする。径1 mm以下のチャート・石英を多量に含む。色調は10YR4/2灰黄褐色であり、焼成は良好。内外面の所々に朱が塗布されていた痕跡が残る。包含層2から出土した。

無文浅鉢(22)は(21)と同様の器形を呈する波状口縁部片である。内外面を磨いており、口縁端部内面に工具を使用して沈線を施す。径1 mmの石英・チャート・長石・角閃石・雲母を多量に含み、色調は2.5Y3/2黒褐色、焼成は良好である。内外面に朱が残存している。包含層1から出土した。

有文浅鉢(23)はボール状の器形を呈する口縁部片である。内面はナデとみられ、外面には口縁から順に、右上から左下への斜めの刻み、角のある工具によって引かれた沈線が9本確認できる。中央に位置する上から5本目の沈線は、他のものより深く、上下を区画する線とみられる。類似した文様構成をもつ土器との比較から、権原式文様と考えられる。胎土は径1～2 mmの長石・チャートを多量に含む。色調は10YR7/3にぶい黄褐色を呈し、焼成はあまい。No.2地点の包含層から出土した。

無文浅鉢(24)は胴部片である。壺形になるとみられる。内面をミガキ、外面頸部を強いナデ、

胴部をナデ調整する。胎土は径2mmのチャート・石英を少量、径1mm以下のチャート・石英・雲母を多量に含む。外面は10YR5/2灰黄褐色、内面は7.5Y2/1黒色で、焼成は良好である。外面頸部に朱が残存する。包含層1から出土。

無文浅鉢(25)は胴部片で、壺形である。内外面をミガキ調整、胎土は径1mm以下の石英・チャートを多量に含む。色調は10YR4/1褐灰色、焼成は良好である。第7層から出土した。

底部(26)は凹底である。調整は不明瞭であるが、外面底近くに工具痕と強いナデとみられる痕跡が確認できる。胎土は径2mmのチャート・角閃石を少量、径1mm以下の石英・チャート・角閃石・雲母を多量に含む。外面色調は10YR4/3にぶい黄褐色と5YR4/6赤褐色、内面は10YR3/1黒褐色である。焼成は良い。あげ土から採集した。

底部(27)は凹底で、摩滅が著しいため調整が不明である。胎土は径2～5mmの花崗岩を多量、径1mm以下の石英・チャート・長石・雲母を多量に含む。外面は10YR6/4にぶい黄褐色、内面は2.5Y5/2暗灰黄色、焼成は良い。包含層1から出土した。

底部(28)は凹底で、大きく広がりながら立ち上がる器形を呈する。内面調整は摩滅が著しいため不明であるが、外面はナデとみられ、粘土紐接合痕が確認できる。径1～3mmの石英と、径1mm以下のチャート・長石・石英を多量、径1mm以下の角閃石・雲母を少量含む。外面色調は10YR4/3にぶい黄褐色、内面は5Y3/1オリーブ黒色である。焼成は良い。包含層2出土である。

土製円盤(29)は内外面をナデ調整した胴部片を利用する。下部は新しい欠損であるが、その他は古いもので、削るなどの調整は加えられていない。両面のほぼ同じ箇所直に直径0.8cmの穿孔途中の孔がある。胎土は径2～3mmのチャートを少量、径1mm以下の石英・長石・チャート・角閃石・雲母を多量に含む。表の色調は10YR4/3にぶい黄褐色、裏は2.5Y4/2暗灰黄色、焼成は良好である。包含層1から出土した。

サヌカイト剥片(30)は二上山産とみられる。背面には数回にわたる剝離痕と自然面がある。長さ4.78cm、幅3.24cm、厚さ0.51cm、重さ13.197gである。包含層1から出土した。

粘板岩片(31)は側縁に押圧剝離を施す。一箇所が折損していることから、石器製作途中で廃棄されたとみられる。縦2.58cm、横5.87cm、厚さ0.68cm、重さ9.026gである。包含層1から出土した。

まとめ(図39、表2)

今まで植物園北遺跡において検出した縄文時代の遺構、遺物は表2が示すように極めて少ない。遺構は4例(1・3・5・6)で、遺物のみ出土したのも4例(2・4・7・8)である。

遺構は中期の土坑(6)を遺跡の南東部で1基検出している。後の3例はすべて晩期で、土器棺墓2基(3・5)を遺跡南部、凹地状遺構2基(1)を北西部で検出している。今回検出した晩期の土坑群はそのほぼ中間に位置する。

今回の地点で土坑5基と遺物包含層を検出したことは、この付近に後期末から晩期初頭の集落が存在する可能性を示したといえる。また凹地状遺構(1)、土器棺墓(3・5)と今回の調査

表2 植物園北遺跡における縄文時代の遺構・遺物検出調査地点一覧

No.	調査期間	所在地	遺構	遺物	時期	文献
1	78/11/25～ 81/11/4	北区上賀茂一帯、左京区下鴨の 北山通以北の各道路	凹地状堆積 2 基	深鉢・注口土器	晩期	未報告
2	84/4/9～ 84/5/22	北区上賀茂榊ヶ畑内町47		縄文式土器	晩期	註2
3	86/5/13～ 86/8/9	北区上賀茂榊井町～岩ヶ畑内町 (北山通)	土器棺墓	深鉢	晩期	註3
4	90/5/7～ 90/7/30	北区上賀茂松本町98		石匙、石斧		註4
5	91/6/4～ 92/6/8	左京区下鴨平水町 京都府立大学農場の一部	土器棺墓	縄文式土器	晩期	註5
6	96/8/30～ 96/9/5	左京区下鴨前萩町5-11	土坑	深鉢	中期	註6
7	00/7/31～ 00/9/29	北区上賀茂土門町39		深鉢	晩期	註7
8	07/11/19～ 07/12/15	北区上賀茂豊田町26番、39番		石鏃		註8
9	09/9/1～ 09/9/7	北区上賀茂高縄手町12	土坑 5 基	深鉢・浅鉢・土製品・ 石器剥片	後期～ 晩期	本報告

地を繋ぐと、植物園北遺跡の範囲南西部に集中していることがわかり、鴨川左岸に縄文時代晩期の生活空間が想定できる。今後のこの付近の調査に期待がかかる。

(近藤奈央・吉本健吾)

註1 (財)京都市埋蔵文化財研究所 未報告

註2 辻裕司『植物園北遺跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年

辻裕司「植物園北遺跡」『昭和59年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年

註3 小森俊寛・原山充志・長戸満男「植物園北遺跡」『昭和61年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1989年

註4 高橋潔「植物園北遺跡」『平成2年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年

註5 久世康博「植物園北遺跡」『平成3年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年

註6 高橋潔「植物園北遺跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年

註7 近藤章子・菅田薫「植物園北遺跡」『平成12年度 京都市内埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年

註8 柏田有香「植物園北遺跡2」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年



図39 植物園北遺跡における縄文時代の遺構・遺物検出調査地点分布図 (1 : 10,000)

4 小倉町別当町遺跡 (08KS415)

調査経過 (図40)

左京区北白川東小倉町35番地の住宅建築工事に伴う調査である。調査地は小倉町別当町遺跡の南東部に位置する。

調査地は、小倉町別当町遺跡の前身である北白川小倉町石器時代遺跡が発見された1934年の試掘・発掘調査地に隣接する。小倉町別当町遺跡における発掘調査は、北白川小学校内で4件が行われているのみで、1934年の試掘・発掘調査以来、北白川通りより西側での発掘調査は行われてはいない。また、試掘・詳細分布調査も数件が行われたのみで現在に至っている。

今回の調査でこの付近の遺跡の状態が明らかになることができるとともに、遺構の検出が期待された。

調査は2009年3月17日と18日に行い、縄文時代前期の包含層を検出した。

遺 構 (図41・42)

調査地の地表は南側道路より約0.7mから0.8m程高くなっている。基本層序はNo.1地点でBM+0.83mから+0.41mまでが現代盛土層、+0.41mから+0.16mまでがにぶい黄褐色砂泥層、+0.16mから+0.03mまでが明黄褐色細砂層、+0.03mから掘削深-0.03mまでが縄文時代前期の遺物を包含する締まりのない黒色砂泥層となる。

縄文時代前期の包含層は、No.2地点では当初、黄褐色細砂層直上に堆積した落込の埋土と考えられたが、その部分を掘り下げると、黄褐色細砂層がガラスコ状に包含層を切り込んでおり、包含層が下層に続いていることを確認した。他の敷地点においてもこの包含層を確認しており、調査地ほぼ全域に広がっていると考えられる。しかし、遺物は殆ど出土せず、集中して出土したのはNo.1・2地点のみである。



図40 調査位置図 (1:5,000)

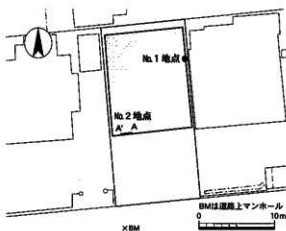


図41 調査地点位置図 (1:500)

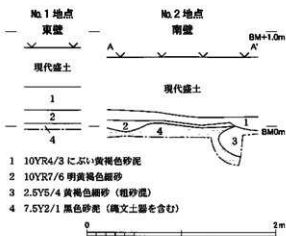


図42 遺構断面図 (1:40)

遺物 (図版30、図43)

包含層から出土した遺物には、縄文土器片とサヌカイトの剥片がある。時期は縄文時代前期後葉で、北白川下層Ⅲ式土器に相当する。

縄文土器深鉢 (32) は口縁部付近から胴部上半の破片である。棒状工具によってケズリを行った後に、2条の突帯を貼り付ける。突帯上にΣ状の刻みを施す。突帯幅より狭い半截竹管を使用しているため、突帯側縁には粘土のはみ出しによる線状の隆帯ができています。内面の調整は不明である。胎土は径1~2mmの石英・長石・チャートを多量に含む。色調は5Y8/2灰白色、焼成は良好である。

縄文土器深鉢 (33) は口縁部付近から胴部上半の破片である。縄文地に突帯を貼り付け、突帯上を半截竹管で押し引いて、Σ状刻みを施文する。突帯側縁に粘土のはみ出しが確認できる。内面はナデ調整である。胎土は径0.5~3mmの石英・長石・チャート・金雲母を多量に含む。色調は5Y6/4オリーブ黄色、焼成は良好である。

縄文土器深鉢 (34) は胴部片である。内面を丁寧なナデ調整し、外面を羽状縄文で施文する。胎土は径1mmの石英・チャートを少量含む。色調は7.5YR6/4にぶい橙色、焼成は良好である。

縄文土器深鉢 (35) は胴部片である。内面を丁寧になでる。外面には羽状縄文を施す。胎土は径1mm以下の石英・チャート・金雲母を少量含む。色調は5Y8/2灰白色、焼成は良好である。

まとめ

1934年の試掘・発掘調査の報告^{註1}には、今回の調査地に隣接する地点とみられる部分に「…南方では黒色土層の上に黄褐色の砂土…の被覆してゐることが断面の上に現はれ…同時に右の砂の上にもとの耕土^{註2}…」とあり、今回検出した断面の土層と同一であることが分かった。文中の「黒色土層」中に前期の遺物が包含されていることから、今回の黒色砂泥層につながるものと考えられる。これらのことから周辺一帯に良好な包含層が残存していることが明らかになった。今後の調査に期待したい。

(近藤奈央・吉本健吾)

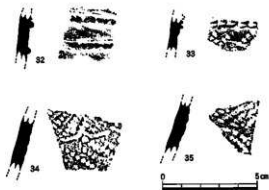


図43 出土土器拓影及び実測図 (1:2)

註1 梅原末治「京都市北白川小倉町石器時代遺跡調査報告」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第16冊 京都府 1935年

註2 平方幸雄・吉崎伸「小倉町別当町遺跡」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年、梅川光隆・磯部勝「小倉町・別当町遺跡」『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年、長戸満男「小倉町別当町遺跡」『平成6年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年、南出俊彦「小倉町別当町遺跡」京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2008-5 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年

5 四条道場跡・寺町旧域 (09RT44)

調査経過 (図44)

中京区新京極通四条上る中之町569番地3他での店舗建築工事に伴う調査である。調査地は平安京の東京極大路に隣接する。遺跡は中世の四条道場跡、また豊臣秀吉による都市改革の一つであった御土居の内側（現在の寺町通の東側）に沿って寺院を移転させることによって発生した寺院街（寺町旧域）に該当する。

調査は2009年5月7日から6月2日まで行い、顕著な遺構としては、中世の埋壙を4基、平安時代後期の包含層などを検出した。

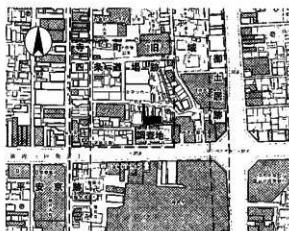


図44 調査位置図 (1 : 5,000)

遺 構 (図45~48)

敷地東半部はすでに掘削されており、遺構の有無は確認できなかったが、敷地西半では9箇所断面観察を行った結果、平安時代から室町時代の包含層を検出した。また、敷地西端で中世の埋壙を4基検出した。基本層序は現代盛土以下、暗褐色砂泥・黒褐色砂泥混雑層、暗オリーブ褐色砂泥層（鎌倉時代包含層）、灰黄褐色砂泥混雑層（平安時代後期包含層）となる。

埋壙1 上部は削平されており、検出面はBM-0.85mである。残存径0.5m、残存高0.5mの常滑産焼締陶器甕（埋壙1）を検出したが、明確な掘形は確認できなかった。甕を据えてから暗オリーブ褐色砂泥層で周囲を埋めた可能性もある。甕の底部は下層の灰オリーブ色細砂層に約0.1m埋まった状態であった。甕内の埋土からは室町時代前期の土師器皿、須恵器甕、瓦器小片が出土したが、甕本体は隣地との境界付近にあるため体部の一部のみが採取できた。下層からは-1.35mで平安時代後期の包含層、-1.53mで時期不明の包含層（土師器小片）を検出した。平安時代後期の包含層からは、土師器皿、須恵器甕・壺、輸入白磁碗が出土した。

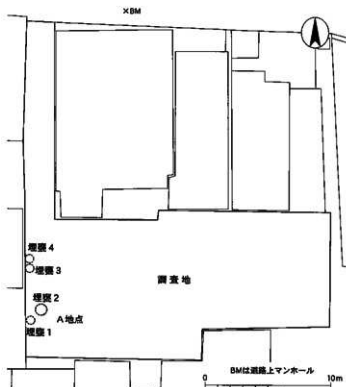


図45 遺構位置図 (1 : 300)

埋壙2 上部は大半が削平を受けて

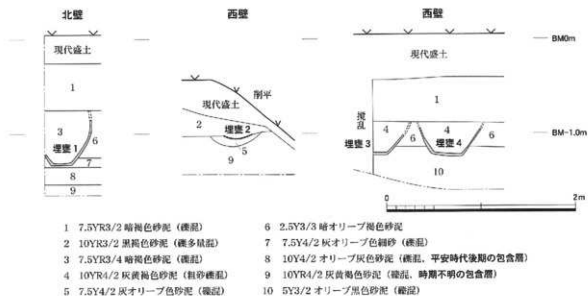


図46 遺構断面図 (1:40)

おり、検出面から0.1mで掘底となる。甕は常滑産焼締陶器の底部のみで、残存径0.69m、残存高0.2mである。甕内の埋土から鎌倉時代から室町時代前半の土師器皿、須恵器甕、焼締陶器甕の口縁部などが出土した。甕の口縁部は埋土2の底部と同一個体と考えられ、口縁部の形状から室町時代前半のものであることが推察される。埋土が作られてから破棄されるまで時期差はほとんどない。この地点のみ明確に埋土の掘形が確認できた。埋土1・3・4が南北方向の直線上に並ぶのに対してこの埋土2はそれよりも約1.2m東に寄る。

埋土3・4 埋土1から北に約4m、検出面BM-0.87mの位置で、焼締陶器甕(埋土3・4)を2基検出した。埋土3は残存径0.4m、残存高0.35m、埋土4は残存径0.7m、残存高0.36mである。甕の上部は削平されていたが、埋土3・4は体部がほぼ接する状態であった。埋土1と同様に明確な掘形は確認できず、甕本体もごく一部のみ採取したにとどまる。また、埋土1の底部が掘っていた灰オリーブ色細砂層は、ここでは検出されなかった。

A地点 地表下-1.5mで、幅約0.8m、深さ約0.2mの範囲で多量の陶器甕片を検出した。甕は焼締陶器と須恵器があり、10個体ほど確認できる。この付近にも埋土があった可能性もあ

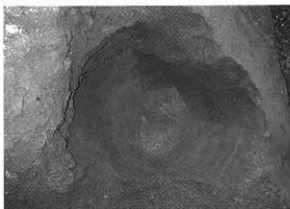


図47 埋土2 (西から)



図48 埋土3・4 (東から)

るが、甕の個体数が多いことから廃棄した場所とみられる。

遺物 (図49~51)

遺物は整理箱に5箱出土した。大半は焼締陶器と須恵器である。その他に平安時代後期から室町時代の土師器皿、須恵器鉢、輸入白磁椀、丸瓦が少量出土している。埋甕1、埋甕3・4については、現地から少量しか採取できなかった。実測可能な土器を以下に掲載した。(36~44)はA地点から、(45~48)は埋甕2とその埋土から出土したものである。

A地点 (36)は須恵器甕の口縁部である。推定口径は56cmとなるが、不確定なため断面形のみを图示した。体部外面は綾杉文を刻んだ叩きを右上がりに施し、内面は叩きをハケで

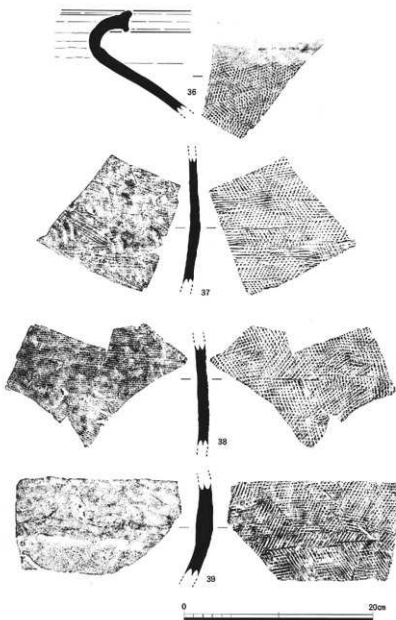


図49 A地点出土土器拓影及び実測図1(1:4)

消している。この個体の体部は(37)と考えられ、外面には同様の綾杉文叩きを施すが、内面はハケ目が観察できる。また、この(37)に類似した須恵器の破片が他に2個体以上出土している(38・39)。2点とも外面は綾杉文を刻んだ叩きを横方向に施す。内面の調整は、(39)が横方向のナデ調整で、下方には同心円叩きの痕跡が認められる。(38)は横方向のハケで調整し、同心円叩きは観察できない。以上は鎌倉時代初期頃の製品とみられる。

備前焼のうち(40)は口縁部の破片で端部を折り曲げただけのものである。小片のため口径は復元できない。(41)は底部径36cmで復元できる平底の個体で、体部外面には縦方向のハケメを施す。底部外面にもハケメがみられる。自重の大きい個体であるため、どのようにして底部をハケ調整したのか、注目される資料である。

常滑甕のうち(44)は底部より約12cm上の体部外面に、横方向に一定間隔で叩き文様を配置し

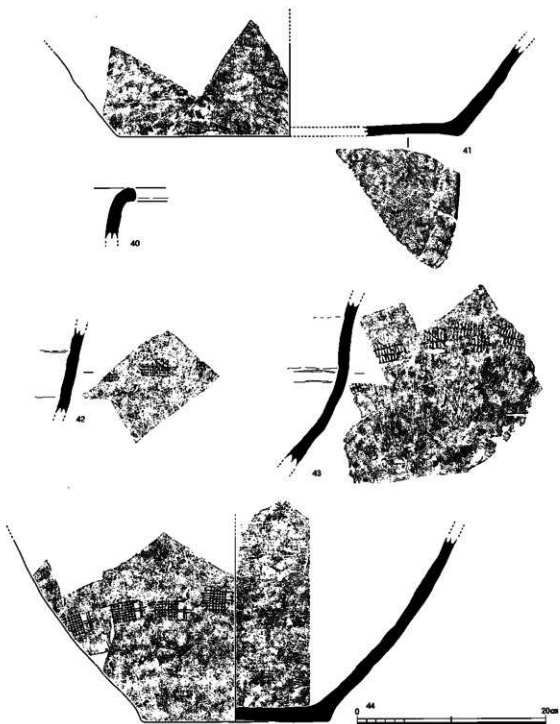


図50 A地点出土土器拓影及び実測図2 (1 : 4)

たものである。叩き文様は、長方形の区画内に正格子と二重の十字が組み合う。底部径約20cmで復元した。(42・43)は(44)と同じく叩きを文様として配置したものである。(43)の叩き文様は短冊形格子と斜線が組み合い、(42)は格子と斜め十字が組み合う。これらに対応する口縁部は採集していない。

埋壘2 常消費(45)は同一個体であるが接合点がない。口径約52cm、底部径24cmあり、器高

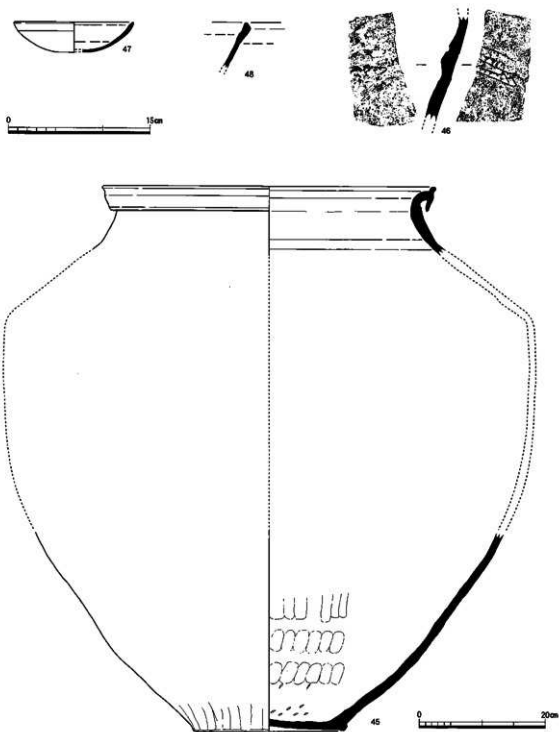


図51 埋壘2出土土器拓影及び実測図（1：4、1：6）

は86cmで復元した。口縁端部は上方・下方とも拡張し、端部幅は4.1cmある。底部内面に指オサエの痕跡が残る。(46)はA地点出土の(42~44)と同じく、体部下半に叩きを施した個体である。

土師器皿(47) 白色系を呈する器高のやや深いタイプの皿である。器壁はかなり薄い。

須恵器鉢(48) 口縁端部が三角形を呈する鉢の口縁部である。小片のため、口径は復元できない。口縁部外面のみ焼成良好であるが、これは重ね焼きの痕跡とみられる。

まとめ

今回の調査地である四条道場跡は、浄阿上人が鎌倉時代末期に後伏見天皇によって錦山金蓮寺の開山を許され、建立した時宗寺院である。その後、室町幕府の庇護を受け時宗四条派の本山として発展していく。寺内では曲舞などの芸能も盛んに興業され、参詣と共に賑わった。また、四条通の北側に位置し、祇園会を見物するのに適した場所であったことから、13代將軍足利義輝がここで祇園会を見物したという記述が『畿内兵乱記』などにみられる。戦国期になると織田信長などがここを陣所として利用した。その後、豊臣秀吉の政策により周辺に多数の寺が移転され、寺院街となるが、金蓮寺はそれ以前からこの地にあった寺のひとつである。江戸時代の安永九年(1780)に刊行された秋里籬島の『都名所図会』には、四条通に面して寺の鎮守である熊野社があり、開山堂、本堂などが描かれており、運慶の作とされる「親恋地藏」や方丈の東にある杜鵑松(杜鵑が京都にきてまずこの木にとまり、啼く)などが紹介されている。しかし、天明八年(1788)の大火で焼失し、その後、再興されるが、寺域は次第に売却され、大正時代末期に北区鷹峯藤林町に移転する。

なお、四条通新京極上る西側にある染殿院は、四条道場の子院として現在もその地にとどまっている。

今回の調査地が「四条道場跡」として埋蔵文化財包蔵地に指定されたのは平成8年以降のことである。ただし、四条通や新京極通に面した範囲は、それ以前のビル建設で遺跡の多くが削平されたものと考えられる。ここでの調査例としては、2007年の調査1件のみである。結果は、既存の建物基礎が深く、敷地の西端で地表下約3mで地山層を確認したのみであった。当該地の中之町は、四条通北・河原町通西という繁華街にありながらも幹線道路からは奥まった場所にあるため、木造家屋などが残る場所である。今回の調査では、伽藍配置や建物に関する遺構は検出できなかったが、埋甕を検出したことから、このあたりに庫裡や食堂のあった可能性があり、四条道場跡内での初の調査成果として評価できる。京都での商業地区の中であって、急速に開発が進む地域であるため、今後とも周辺の開発行為には留意する必要がある。

(近藤章子・丸川義広・吉本健吾)

註1 「調査一覧表」『京都市内遺跡立会調査報告 平成19年度』京都市文化市民局 2008年

参考文献 『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻 平凡社 1979年

『史料京都の歴史』9巻 中京区 平凡社 1985年

足利健亮編『京都歴史アトラス』中央公論社 1994年

6 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 (09RT100)

調査経過 (図52)

東山区馬町通妙法院北門前妙法院前側町424-9の住宅建築工事に伴う調査である。調査対象地は、豊臣秀吉が創建した方広寺大仏殿の基壇東端部に相当する。現在でも大仏殿基壇が高まりとして遺存しており、平成12年に行った公園整備に伴う試掘調査では、大仏殿基壇南辺の地覆石・羽目石・階段耳石を良好に検出しており、基壇上面では大仏台座や輓敷き・礎石据え付け痕跡を確認した。

今回の調査は、大仏殿基壇の東辺における遺構の遺存状況の確認を目的とし、その重要性を考え、建築工事の前に確認調査を行うこととした。

調査は2009年6月15日から17日まで3日間で行い、方広寺の遺構は整地層を検出した。しかし、他の遺構は遺存しないことが判明した。

遺構 (図53・54・56・57)

調査地周辺は東から西へ緩やかに下がる傾斜地であるが、調査地の西側は大仏殿基壇の高まりが遺存しており、比高差約1mの段差となっている。

調査は敷地内に南北2箇所の調査区を設定して行った。北トレンチは敷地中央北よりの東西3.5m、南北1mの東西方向の調査区である。基本層序は0.3~0.4mまでが近現代の盛土で、その下層でわずかに方広寺の整地層を検出した。焼土粒をやや含むオリーブ褐色砂泥で、東端部で薄く0.05mほど、西でやや厚く0.15mほど堆積していた。整地層下は礫を多量に含む黄褐色泥砂の基盤層となる。

南トレンチは敷地南に設定した、東西3.5m、南北2mの東西方向の調査区である。近代以降の攪乱が激しく遺構面はほとんど残っていなかったが、調査区中央部でわずかに方広寺の整地層を確認した。整地層は北トレンチよりも厚く、0.25~0.3mほど遺存しており、オリーブ褐色砂泥・炭を多量に含む黒色砂泥・黄褐色砂泥と黒褐色砂泥の泥層が互層に堆積していた。

なお、整地層内に食い込むように花崗岩片が分布しており、これらの石片は大仏殿基壇外装を構築する際に現地で掻き落とされ、整地土内に散らばった石屑と考えられる。



図52 調査位置図 (1:5,000)



図53 調査区配置図 (1:250)

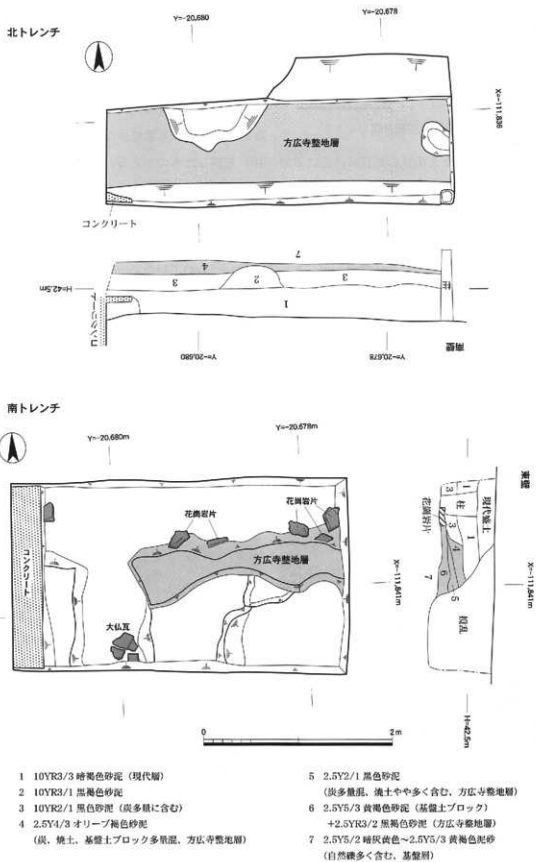


図54 遺構平面及び断面図 (1:40)

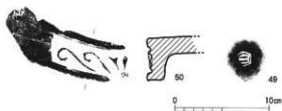


図55 出土瓦拓影及び実測図（1：4）

遺物（図55）

出土遺物は整理箱にして2箱分出土しているが、その大半は方広寺で使用されたいわゆる大仏瓦と、近代の窯道具である。

大仏瓦の出土量は、大仏殿東辺に近接しているにも関わらず非常に少ない。南トレンチ南端

攪乱坑から出土した大仏瓦の丸瓦の凸面に印刻（49）を施したものがある。他に軒平瓦（50）が出土している。また、近現代の盛土内からサヤなどの窯道具が多く出土しており、付近に清水焼きの窯場があったことを暗示している。

まとめ

今回の調査成果として、大仏殿東辺部において整地が行われていたことを確認したが、大仏殿基壇に関わる遺構はまったく検出できず、大仏殿東辺の実態を明らかにすることができなかった。しかし、整地土内からは基壇外装の構築に関わる花崗岩石層が出土しており、調査地が基壇東辺に近接していることを示唆している。大仏殿東辺の調査は今回の試掘調査が初めてであり、今後調査を継続して行っていくことによって、いままで不明であった大仏殿基壇東辺の位置を解明していく必要がある。

（網 伸也）

註1 近藤知子・田中利津子「2-Ⅲ方広寺大仏殿跡」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所 2003年



図56 南トレンチ（東から）



図57 北トレンチ（東から）

7 法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡 (09RT89)

調査経過 (図58)

東山区茶屋町527の京都国立博物館の新館建替工事ための防護フェンスのゲートの基礎工事と埋設管撤去のための試掘調査に伴う調査である。当地は平安時代の法住寺殿跡、鎌倉時代の六波羅政庁跡に位置し、また桃山時代の方広寺跡に隣接する。京都国立博物館内の発掘調査では1994年から11次の調査が行われ、方広寺の南門跡、回廊、石垣などを検出している。

調査は2009年6月8日から7月6日まで4日間行った。No.1地点からNo.6地点はゲートの基礎工事に、No.7地点とNo.8地点は埋設管撤去のための試掘調査に伴う調査であった。各地点は最小約0.6mから最大約2mの方形の坪掘りである。

調査の結果、方広寺の整地層や平安時代後期の溝、土坑などを検出した。

遺構・遺物 (図版30、図59～70)

No.1地点とNo.2地点は西門と噴水のある池の中間に位置する。

No.1地点では、地表下-0.2mまでが現代盛土層、-0.2mから掘削深-0.34mで灰色泥砂層を検出する。この灰色泥砂層の-0.3mで南東方向に面をもつ石列を検出する。石は2石で長さ0.6m以上、幅0.12m、高さ0.06m以上を測る。石列の時期は、特定できる遺物が出土していないので、不明であるが、地表から0.3mと浅いので帝国博物館時代の芝生などの境の石列ではないかと考えられる。

No.2地点では、地表下-0.3mまでが現代盛土層、-0.3mから-0.6mで黄褐色粘土層、-0.6mから掘削深-0.7mで焼土、炭を含んだ明黄褐色粘土層を検出する。瓦は黄褐色粘土層、明黄褐色粘土層の共に含まれているが、下層には多量に含まれおり、方広寺に関連する包含層ではないかと考えられる。黄褐色粘土層に関しては、No.4地点で明治時代の包含層の上層で同一堆積を検出し



図58 調査位置図 (1:5,000)

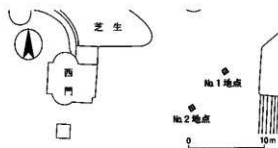


図59 No.1・2地点位置図 (1:500)

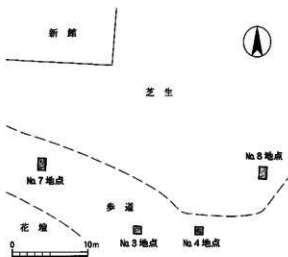


図60 No.3・4・7・8地点位置図 (1:500)

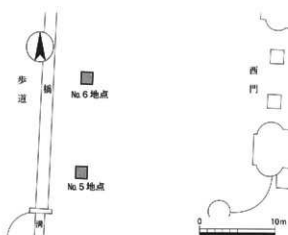


図61 No.5・6地点位置図(1:500)

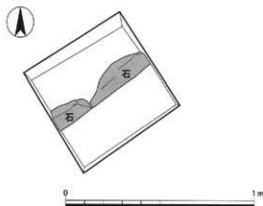


図62 No.1地点平面図(1:20)

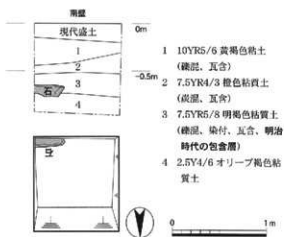


図63 No.4地点平面及び断面図(1:40)

ている。

No.3地点とNo.4地点は新館と噴水のある池と旧館の3箇所の中間に位置する。

No.3地点では、地表下-0.45mまでが現代盛土層、-0.45mから-0.6mで黄褐色粘土層、-0.6mから-0.7mで明黄褐色粘土層、-0.7mから-0.85mで明黄褐色粘質土層、-0.85mで黄褐色粘質土層を検出する。黄褐色粘土層と明黄褐色粘土層はNo.2地点で検出した層と同一堆積と考えられる。

No.4地点では、地表下-0.16mまでが現代盛土層、-0.16mから-0.41mで黄褐色粘土層 (No.2・3地点と同一堆積)、-0.41mから-0.53mで炭と瓦を含む橙色粘質土層、-0.53mから-0.73mで染付、瓦を含む明治時代の包含層、-0.73mから掘削深-0.93mでオリーブ褐色粘質土層を検出する。

明治時代の包含層の-0.62mで上面が平坦な石を検出する。石は東西幅0.34m以上、南北幅0.12m以上、高さ0.11mを測り、検出部分だけをみれば方形である。恭明宮が帝国博物館に関連するものではないかと考えられる。

No.5地点とNo.6地点は西門の西延長部分で博物館西側の道路との境付近に位置する。

No.5地点では、地表下-0.25mまでが現代盛土層、-0.25mから-0.47mで平安時代後期の包含層、-0.47mから-0.85mでオリーブ褐色粘土層、-0.85mから掘削深-1.05mで橙色粘土の地山層を検出する。

-0.47mのオリーブ褐色粘土層を切って幅0.2m以上、深さ0.23mの平安時代後期の落込の西

層と、幅1.0m以上、深さ0.22mの時期不明の落込の北層を検出した。いずれも断面で確認し落込の底部は平坦である。平安時代後期の包含層と落込の遺物は土師器であるが極く少量である。

No.6地点では、標高38.46mから38.06mまでが現代盛土層、38.06mから37.66mで暗オリーブ色砂泥層、37.66mから37.61mで灰オリーブ色砂泥層、37.61mから掘削深37.42mで灰オリーブ

色粘土層を検出する。

38.06mの暗オリーブ色砂泥層を切って幅0.86m以上、深さ0.43mの平安時代後期の落込の北肩を検出した。埋土は粘質を呈し、3層に分層でき、上層には細かく粉碎された土師器が多量に出土した。東西方向の溝と考えられる。他に平安時代後期と時期不明の土坑を検出した。

№7地点と№8地点は新館と噴水のある池と旧館の3箇所の中で№3地点と№4地点の外側に位置する。

№7地点では、標高41.00mから40.43mまでが現代盛土層、40.43mから40.08mで瓦を含むオリーブ褐色砂泥に浅黄色砂泥がブロック状に混じる層とオリーブ色砂泥層、40.08mから39.96mで瓦を多量に含む明黄褐色砂泥層、39.96mから39.89mでにぶい褐色砂泥層、39.89mから39.75mで橙色砂泥に灰白色粘土と橙色粘土がブロック状に混じる層、39.75mから39.7mで橙色粘土に明褐色粘土がブロック状に混じる層、39.7mから掘削深39.34mでにぶい褐色砂泥層を検出する。

39.96mの明黄褐色砂泥層が方広寺の整地層と考えられる。この層にはベンガラによる赤色塊が多量にみられた。また、この地点のあげ土から軒平瓦(51)に金箔を施したものの採集した。

№8地点では、標高41.9mから41.42mまでが現代盛土層、41.42mから40.2mで博物館建築時の整地層、41.2mから41.0mで明黄褐色砂泥層、41.0mから掘削深39.4mで地山層を検出する。明黄褐色砂泥層が方広寺の整地層と考えられる。

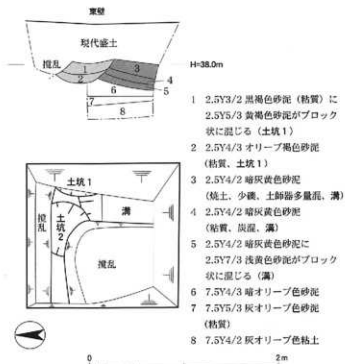


図64 №6地点平面及び断面図(1:40)

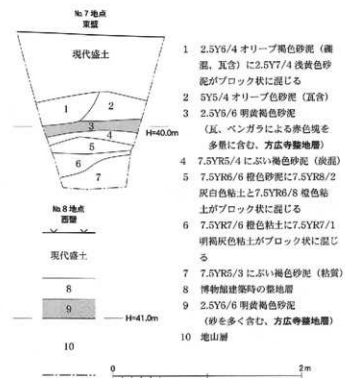


図65 №7・8地点断面及び柱状断面図(1:40)

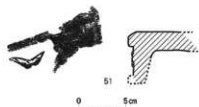


図66 出土瓦拓影及び実測図
(1:4)

まとめ

今回の調査では、博物館西側 (No.5・6地点) で平安時代後期の東西溝、土坑、包含層等を検出した。また、新館南側 (No.2・3・7・8地点) では方広寺に関連する瓦を多量に含んだ層を検出した。

今回の調査で方広寺から初めて金箔瓦が出土したことは、特筆すべきことである。しかし、過去11次の調査で出土例がないこと、類似した瓦が伏見城跡から出土しており、また瓦の金箔が微量あることから、方広寺に転用されたものではないかと考えられる。

(吉本健吾)

註1 1～9次調査 網仲也・田中利津子・山本雅和『京都国立博物館構内発掘調査報告書』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年、10・11次調査 網仲也・加納敏二・田中利津子『法住寺殿跡・六波羅政庁跡・方広寺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2009-8 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2010年

註2 吉本健吾「Ⅲ-3 伏見城跡」『京都市内遺跡立会調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年



図67 No.4地点断面 (北から)



図68 No.6地点平面及び断面 (西から)



図69 No.7地点断面 (西から)



図70 No.8地点断面 (北東から)

8 伏見城跡 (09FD149)

調査経過 (図71)

伏見区桃山毛利長門西町53においてマンション建設が計画されたため、工事に先立ち調査を実施することとなった。

敷地は桃山高校の西側崖下に形成された平坦地の一角で、西は大和街道の旧道に面している。当地周辺は伏見城城下町の毛利下屋敷の推定地であり、南側隣地で行った調査では道路に面して築造された石垣の基底部を検出している。当地は敷地が道路面から約0.8m高まっており、屋敷地西側を限る石垣が良好に遺存していると予測できた。

これら調査前の所見から、調査は石垣の遺存状況や構造の把握を目的とし、敷地南西部に東西3.5m×南北7.5mの調査区(南調査区)を設定して行った。また、南調査区から4m北側に東西3.5m×南北1mの調査区(北調査区)を新たに設定し、北側への石垣の延長を確認した。調査は2009年7月22日から24日まで行い、上下二時期にわたる石垣の変遷を確認することができた。ただ、上層石垣に関しては全面調査を実施したが、下層石垣については調査期間の関係から北調査区と、南調査区で東西方向のサブトレンチを三本設定した調査にとどまっている。

遺構・遺物 (図版27、図72～77)

調査地の基本層序は、調査区東半部では現代盛土が0.6～0.8mで堆積しており、その直下が伏見城造成時の整地層となる。整地層上面は、標高43.0～43.1mである。これに対し、西半部では地表下0.9mほどで整地層が崩落した赤褐色～明褐色砂泥となり、これらの堆積土を除去すると上層の石垣遺構となる。

上層石垣に関連する遺構は、石垣本体の他に犬行延石と道路東側溝がある。石垣は後述する下層石垣をそのまま使用したもので、調査区全体で南北約12mにわたって確認した。部分的に二段

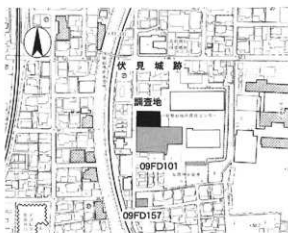


図71 調査位置図 (1 : 5,000)

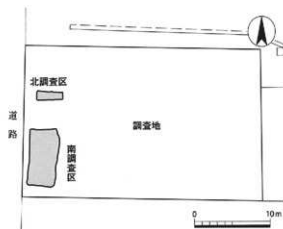


図72 調査区配置図 (1 : 500)



図73 「三」刻印の石垣 (北西から)

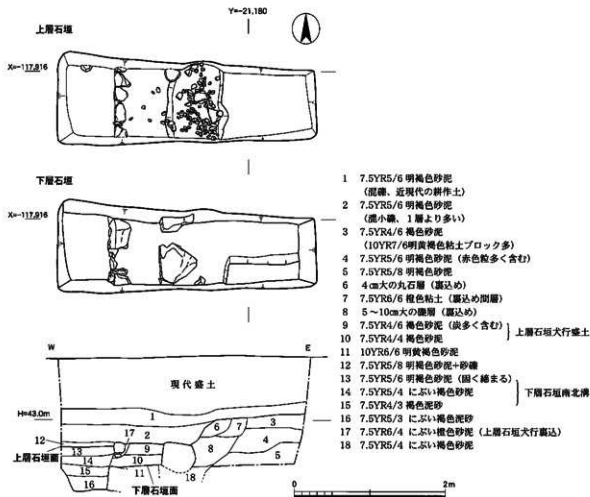


図74 北調査区平面及び北壁断面図 (1:50)

目の石材が残る場所もあるが、北調査区や南調査区南半の一部では抜き取り痕跡だけを検出している。石材はチャートや花崗岩で、表面に「三」の刻印を施した石材も確認した。石垣の方位はほぼ真北で、Y=21,181mラインにのっている。

そして、この石垣基底部から西へ約0.7mに石面を揃えて、犬行が構築されている。犬行上面は赤褐色～褐色砂泥によって平坦に固く叩きしめられており、標高は42.65～42.7mであった。また、犬行延石の西側も0.05mほどの段差をもって固く整地しているが、西側に緩やかに傾斜させて道路側溝へ集水する。さらに、側溝西側の高まりは何層も築き固めた大和街道の旧道路面で、やはり雨水などを側溝部分へ流す構造となっていた。

道路側溝は幅0.4～0.7mで0.1～0.2mと浅く、北側に向かって非常に緩やかに傾斜する。護岸施設はなくやや歪みをもつことから、人工的に掘削された側溝ではなく自然排水の結果、素掘り溝状になった可能性がある。

なお、南調査区南端では溝の東肩に石が並べられているが、この石列は調査区の南へ延長しているようで、南側に何らかの施設の存在を示唆している。

次に、下層石垣について概要を述べる。前述したように、下層石垣の調査は北調査区と南調

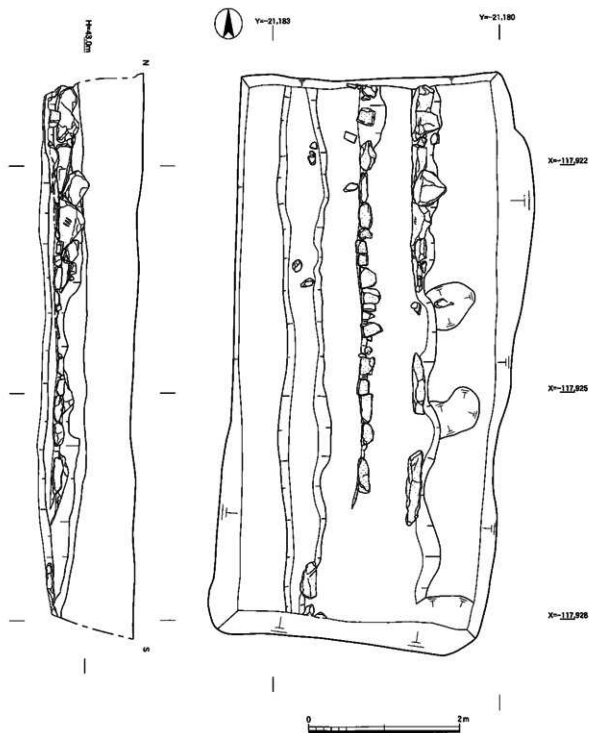


図75 南調査区上層石垣平面及び見通し図 (1:50)

査区の北・中・南トレンチで確認調査を行った。その結果、上層石垣の犬行延石の下層に石垣があり、この石垣が幅0.5~0.7m、深さ約0.4mの南北溝の東護岸として構築されたものであることが明らかとなった。石垣護岸をもつ側溝東層から石垣本体までの距離は、上層石垣の犬行幅とほぼ同じく0.65~0.7mで、標高42.4~42.45mである。また、石垣本体を断ち割ったところ、最下層の石垣の下に同規模の石材が基底石として並べられており、構造的に石垣の基礎を強固に構築

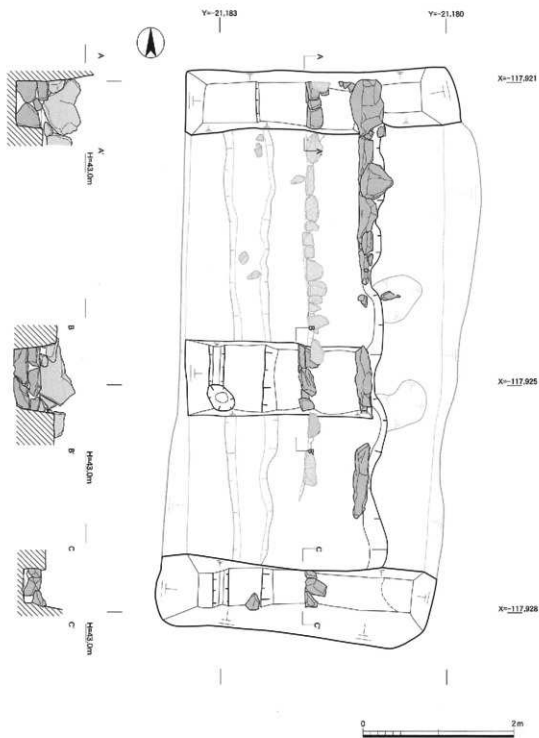


図76 南調査区下層石垣北・中・南トレンチ平面及び見通し図 (1:50)

していたことが判明した。さらに、南北溝の西側では、上層石垣への改修時に水切り溝として穿たれたと考えられる、幅約0.2mほどの南北溝も検出している。

これらの調査成果から、当地における石垣の造営過程として、以下の変遷が想定できるようになった。まず、幅2mをこえる南北方向の基礎掘削を行い、石垣本体部分に基底石を並べ、裏込めを行いながら石垣を積み上げて屋敷地の地上げを行っていく。そして、石垣基底石の外側も固

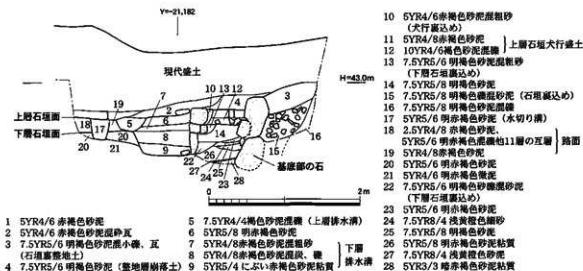


図77 北トレンチ北壁断面図 (1:50)

く築き固めながら整地を行い、側溝東護岸の位置に石垣を設けて幅約0.7mの断面台形の側溝を整える。その後、側溝の埋設とともに上層石垣への改修が必要となったため、側溝石垣の上に約0.2mの盛り土を行い、延石を並べて犬行とし、西側も整地を施し路面を高めることによって、道路脇での自然排水構造に変えたのであろう。

なお、下層石垣から上層石垣への改修時期については、出土遺物が少量の瓦片しかなく明らかにはできないが、家康による伏見城城下の改変に伴う可能性を指摘しておく。

まとめ

今回の調査での大きな成果は、毛利下屋敷の西辺に構築された石垣の変遷を具体的に把握できたことである。大和街道の旧道は伏見城城下町を南北に貫く主要道路であり、平成19年度の発掘調査では当地の北約300mの地点で、旧道に面した屋敷地の西辺石組み側溝や門・石垣基礎をもつ建物などを検出した。佐竹氏の家紋である「五本骨扇に月丸」の文様をもつ軒瓦が出土しており、佐竹修理大夫の屋敷地との推定を裏付けている。毛利下屋敷推定地である当地周辺でも、調査(09FD101、09FD157)で石垣の存在が確認されていたが、本格的な調査は今回が初めてであり、石垣の大規模な改修を明らかにしたことは大きな成果といえる。改修時期は出土遺物からは確定できなかったが、路面改修や排水構造の改変を伴うことから、城下町全体の再整備に関連する修造であった可能性が高い。今回の調査は詳細分布調査という制限があったため、石垣の基礎構造や改修時期など問題も多く残している。今後の調査によって、これらの問題を解決していく必要がある。

(網 伸也)

註1 平田泰・布川豊治『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-10 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2008年

註2 本報告Ⅲ-9・10

9 伏見城跡 (09FD101)

調査経過 (図78)

京都府立桃山高校の西側は比高差12m以上の段差を形成しており、伏見城下の毛利下屋敷と推定されている。平成2年には屋敷地東半にあたる京都府総合教育センター講堂棟建設予定地において発掘調査が行われており、毛利下屋敷に関連する台所関係の遺構や石敷きを良好に検出した。

今回、大和街道の旧道に面した屋敷地西半部において分譲宅地造成が行われ、造成工事に先立って文化財保護課が試掘調査を実施したところ、大和街道に面する石垣の基底部と伏見城整地層を確認した。そして、新たに造成敷地の東半部で切土による削平工事が計画されたため、詳細分布調査を実施することとなった。この試掘調査と詳細分布調査の報告を行う。

調査期間は、試掘調査が2009年3月5日、詳細分布調査は2009年6月21日から29日である。

試掘調査 (図79～83)

道路に面した西半には、一部未解体の建物が



図78 調査位置図 (1:5,000)

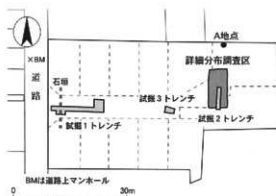
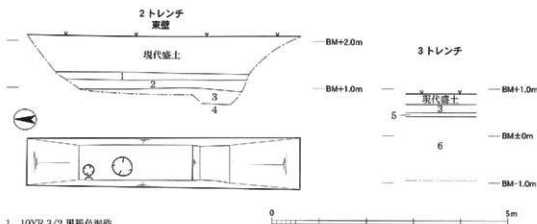


図79 調査区配置図 (1:1,000)



- 1 10YR 3/2 黒褐色泥砂
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色泥砂
- 3 7.5YR 5/6 明褐色泥砂 (礫・風化花崗岩片含、築城期盛土の可能性大)
- 4 7.5YR 5/8 明褐色砂泥 (小礫含、地山?)
- 5 7.5YR 4/4 褐色砂泥 (細かに炭片等を含むが、概ね結良)
- 6 7.5YR 4/3 褐色泥砂 (幅 5~10cm 単位の面下がり、弱め盛土。各単位の土は互いによく敷てあり、1 トレンチのような明瞭な層様相はなさない。築城期盛土)

図80 2トレンチ平面及び東壁断面・3トレンチ柱状断面図 (1:80)

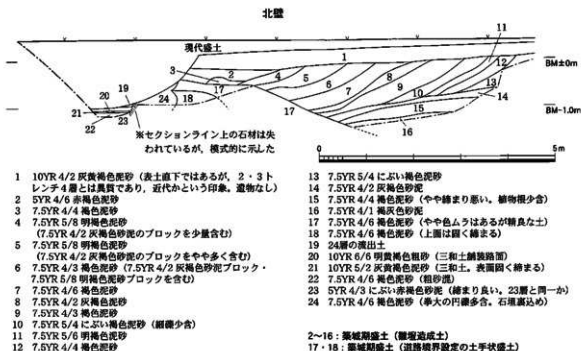


図81 1トレンチ北壁断面図 (1:80)

あり、東半は駐車場として使用中という制限があったが、宅地内道路予定部分に1・3トレンチを、切土予定部分に2トレンチを設定した。

基本層序を3トレンチで説明すると、現代盛土の直下BM+0.67mで整地層(1層)、その下に薄い整地層(2層)を挟んで、BM+0.4m以下は西下がりて腐状に幾重にも積まれた盛土層(3層)となる。3層は斜面を雑壇造成するために積まれたものと考えられ、豊臣期、徳川期の2時期の可能性が考えられるが、不明である。1・2層も時期を特定できる遺物が出土せず、明治から大東亜戦争直後まで存在した菊花女学校期の整地層まで幅の広い時期が考えられる。

これに対して、1トレンチの現代盛土層と雑壇造成盛土(2~16層)の間にある1層は、脆弱で3トレンチ2層や2トレンチ3層とは印象が異なり、近代の層と考えられる。雑壇造成盛土の上面には生活面がなく、既に削平されたものと考えられる。

1トレンチの西端では、西側に面をもつ南北方向石垣と、三和土で舗装された路面を検出した。石垣の裏込には椀瓦が含まれており、舗装は石垣の後になされていることから、共に徳川期の遺

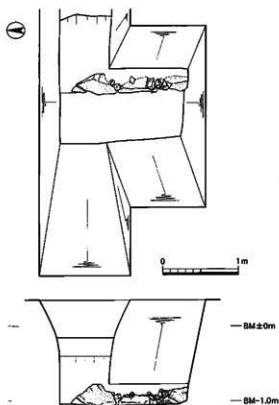


図82 1トレンチ石垣平面・立面図 (1:50)



図83 1トレンチ石垣（北西から）

構と考えられる。石垣の背後には斜め盛土に先行して土手状の盛土（17・18層）が形成されているのを検出した。

2トレンチでは、4層上面でピット3基を検出した。埋土からは染付が出土しており、徳川期以降の遺構と考えられる。

詳細分布調査（図79・84・85）

切土施工範囲の盛土は工事作業中に予め除去しておき、東西5m、南北10mの調査区を新たに設定し調査を行った。基本層序は盛土下に、近代の耕作土層である黒褐色泥砂とにぶい黄褐色泥砂が厚さ約0.4mで堆積しており、これらの土壌化層を除去すると伏見城期の整地層となる。

検出した伏見城期の遺構は、東西方向の柱列2間分と東西溝だけである。この柱列は小溝を伴うことや、北側に対応する柱が確認できないことから、屋敷内を分割する柵列だったと考えられる。他の遺構は、すべて削られて遺存していない可能性が高い。整地層上面の標高は44.15m前後で、東隣の調査区で検出した台所遺構に比べて0.6m～0.8m低く、東から西へ緩やかに下がる地形を考慮しても、整地層上面が削平を受けていることは明らかである。実際に敷地北端部のA地点で行った断面観察では、豊臣期と徳川期を分ける炭層の水平堆積を標高44.2mで確認しており、徳川期の遺構面だけでなく豊臣期の遺構面も削られていることがわかる。今回検出した東西柵列は掘立柱構造であったため、削り残されたのであろう。

また、伏見城整地層は0.2m～0.3mの厚さで固く叩き締められており、その下層は暗赤褐色シ

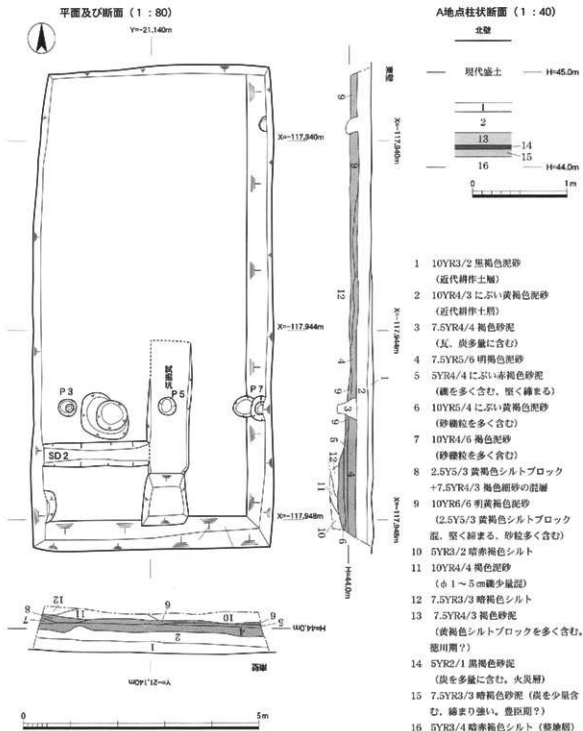


図84 詳細分布調査区平面及び東壁断面 (1:80)・A地点柱状断面図 (1:40)

ルトと砂礫を多く含む褐色泥砂となる。全く遺物を包含しないため下層の堆積時期は確定できないが、いわゆる地山とは異なって土壌化が進行しており、伏見城期の盛土の可能性はある。整地層内からは古代と考えられる土師器変片が出土しており、あるいは周辺に古代の遺構の存在も想定できるが、狭い調査区であり下層の状況は把握できなかった。

遺物に関しては、整地層内や柱穴などから、伏見城期の土師器片や瓦片がわずかに出土してい

るのみである。

まとめ

今回の試掘調査では、大和街道の路面と毛利下屋敷の境の石垣を検出した。注目されるのは石垣の背後で検出した土手状の盛土である。雛壇造成の前に道路境界線を規定していたものと考えられる。また、調査地北隣接地（09FD149）と南へ約80mの敷地（09FD157）の調査で南北方向の石垣を検出しており、今回検出した石垣の延長部と考えられる。

詳細分布調査では、毛利下屋敷に付属する施設の検出を目的としたが、東西柵を検出したのみであった。ただ、この東西柵を境として屋敷内が分割されていたと考えられ、下屋敷の空間構造を考えるうえで一つの定点を把握することができたといえる。

（試掘調査場 大輔・詳細分布調査 網 伸也）

註1 柴曉彦「伏見城跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報 第44冊』（財）京都府埋蔵文化財研究センター 1991年

註2 本報告Ⅲ-8・10



図85 詳細分布調査区（南西から）

10 伏見城跡 (09FD157)

調査経過 (図86)

調査地は府立桃山高校西側の宅地である、南北の道に面した東側で、道路から2.5mほど高くなっている。道に面する石垣を検出した試掘調査(09FD101)と詳細分布調査(09FD149)の南方に当たり、その続きが存在すると予想されたため、規定以下の工事規模ではあったが、調査を指導していたものである。

連絡の行き違いから、母屋の工事に先行して掘り込みガレージの掘削が始まり、断面に石垣の裏込めが露出したことから、急遽2009年6月23日に調査を行うこととなった。

遺構 (図87~89)

調査した断面は、当該敷地の北辺道路際である。現場は既に型枠工が始まり、壁面の十分な観察は難しい状況となっていたが、清掃の結果、道路面から1.9ないし2.0mの高さまでは伏見城期の盛土であることが判明した。盛土は大きく6層ほどに分層でき、灰色粘土や赤褐色粘土の基盤層ブロックを含むものがあることから、近傍の山肌を切土して出た土をここに盛ったものと考えられる。確認できた一番下の層は褐色泥砂(7層)であるが、炭片を含んでおり、基盤層はもっと深いところにあると思われる。

石垣は、現在の道路境界線と同じ位置で検出した。既にガレージの掘削で撤去されたものを含め、当該敷地の南端まで続いていたことを確認した。現在のU字側溝が石垣面

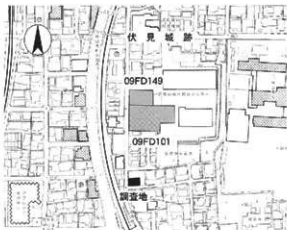


図86 調査位置図 (1:5,000)

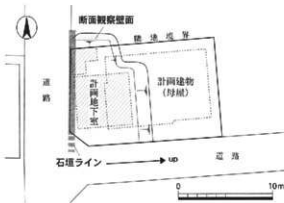


図87 遺構位置図 (1:400)



図88 石垣出土状況 (南東から)

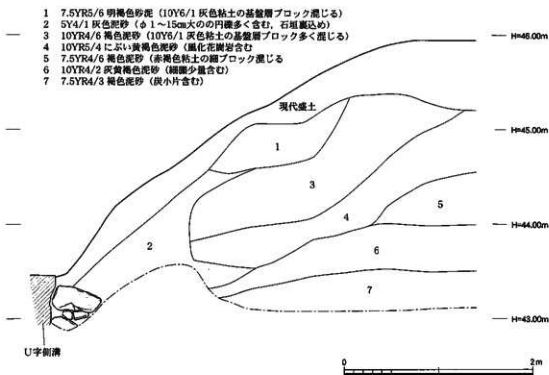


図89 北壁断面図 (1:40)

に押し付けるように造られており、石材が撤去された部分は、そのネガが側溝コンクリートに転写されて残っている。人頭大より一回り大きいくらいの割石を積んでおり、観察した断面では2段が確認できた。09FD101では道路面から約1m下で最下段が見つかったので、同じくらいの深さだとするとさらに1~2段が下にあると予想される。

裏込め(2層)は09FD101のそれより大規模で、使われている栗石も大きい。裏込め層は一括で2層としたが、伏見城期の盛土層との関係から2層以上に分層できるはずである。

まとめ

09FD149と09FD101では道路境界から約3mから3.5m東で南北方向の石垣を検出したが、本件では上記のとおり道路境界線上で確認している。このことについては、伏見城期の大和街道の道路と現在の道路との傾きが違う可能性が考えられる。

伏見城期の城下町の町割りは基盤の目状になっており、09FD149や今回の調査地もその一部と考えられる。09FD149で検出した石垣と今回検出した石垣を結んだラインの傾きが、同じ南北位置(下板橋通~毛利橋通間)で西側の(鉄道敷設等の影響をうけていないと考えられる)銀座通や新町通とほぼ同じ傾きであることから、今回検出した石垣群は伏見城期の大和街道の道路の傾きを表していると考えられる。

(堀 大輔)

11 伏見城跡 (09FD133)

調査経過 (図90)

現在の国道24号線と立売通交差点南東角に位置する伏見区鍋島町24番地の共同住宅建築工事に伴う調査である。周辺の地形は北東から南西に向けて傾斜しており、国道24号線西側は大きな段差となっている。

調査地は伏見城下町の南部にあたっており、山中山城守長俊の屋敷を推定する説がある。また、調査地南東側には豊臣秀吉が文禄元年(1592)から造営を開始した指月城があったと推定されており、調査地西側の国道24号線を南行すると観月橋(豊後橋)に繋がる。

調査は2009年7月3日から31日まで行い、桃山時代の石垣などを検出した。

遺構 (図版28、図91~95)

調査は3日間に分けて、順次3箇所の調査区を設定して実施した。調査区は北東部を1区、北西部を2区、南西部を3区とする。

調査地の基本層序は、地表面から約20~70cmの厚さの盛土が堆積しており、その下層は約5

~15cmの厚さの黄褐色砂泥、約10~20cmの厚さの黒褐色砂泥が拡がる。黄褐色砂泥は江戸時代の整地層、黒褐色砂泥は桃山時代の整地層と推定している。黒褐色砂泥の下層はにぶい黄褐色泥砂・灰色泥砂・灰色砂泥などが約70~120cmの厚さで堆積している。これらの層はほとんど遺物を含んでおらず、締まりが悪いことから短期間に積み上げられた盛土である可能性が高い。各調査区ではこの盛土の下層で石垣や漆の堆積層を検出した。

なお、最も深い箇所では地表面から約4.2mまで掘り下げたが、地山は確認していない。

1区では大型の石材を検出した。大きさ約30~80cmで、漆の堆積層上面に散乱する。石材はいずれもチャートである。漆の堆積層は褐灰色泥砂・黄灰色粘土・灰白色粘土で、南側に木製品を多量に含む落ち込みがある。

2区では北面する石垣を検出した。検出長は約2.2mで、東側は攪乱を受け、西側は調査区外へ延長する。残存高は約1.8mで、大きさ約50~110cmの石を3段積み上げる。石材はチャートが多くを占め、他に白色の斑をもつ火成岩を用いる。掘形は不明であるが、石垣南側には大きさ10~

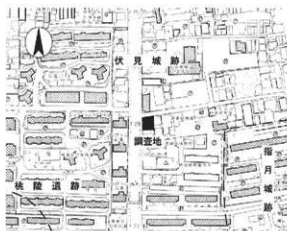


図90 調査位置図 (1 : 5,000)



図91 調査区配置図 (1 : 500)

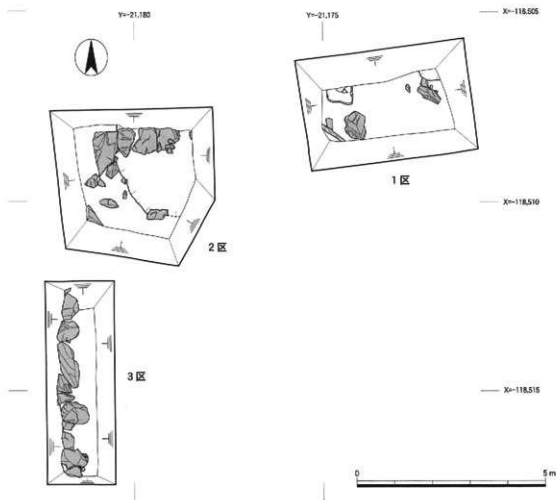
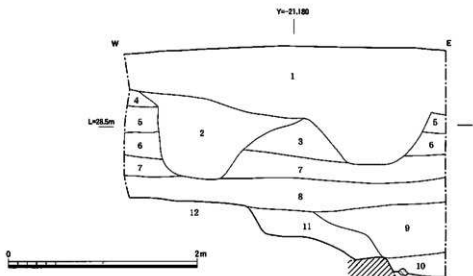


図92 1・2・3区平面図 (1:100)



図93 1区東壁断面図 (1:40)



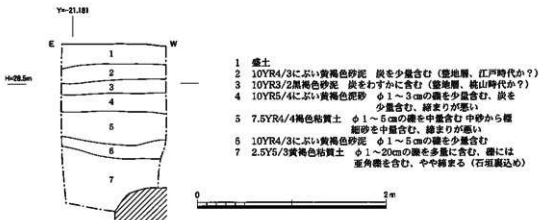
- 1 盛土
- 2 7.5YR4/3褐色砂泥 φ1~5cmの礫を少量含む、炭・瓦片を少量含む（江戸時代の複層）
- 3 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 φ1~3cmの礫を少量含む、瓦片をわずかに含む（江戸時代の複層）
- 4 10YR5/6黄褐色砂泥 φ1~3cmの礫を中量含む（聖地層、江戸時代か?）
- 5 10YR3/2黒褐色砂泥 φ1~2cmの礫をわずかに含む（聖地層、桃山時代か?）
- 6 10YR5/3にぶい黄褐色砂泥 φ1~5cmの礫をわずかに含む、締まりが悪い
- 7 10YR4/1灰色粘砂 10YR4/1灰色粘質土のφ2~5cmのブロックを少量含む φ1~3cmの礫をわずかに含む、締まりが悪い
- 8 7.5Y4/1灰色砂泥 φ1~5cmの礫をわずかに含む、締まりが悪い、木片をわずかに含む
- 9 7.5Y5/1灰色砂泥 φ1~5cmの礫を少量含む、締まりが悪い、中砂を中量含む
- 10 5Y3/1オリーブ黒色シルト 中砂をわずかに含む、炭をわずかに含む
- 11 10YR5/5黄褐色砂泥 φ1~5cmの礫を少量含む、締まりが悪い
- 12 10YR4/6褐色粘砂 φ1~5cmの礫を中量含む、やや締まる

図94 2区北壁断面図（1：40）

50cmの石材が散乱する。石垣の下層は地表面から約3.4mの深さで、大きさ2~5cmの礫を中量に含む明褐色粘質土が拡がる。根太の痕跡はない。北東隅では漆の堆積層であるオリーブ黒色シルトを認めた。

なお、図示できていないが、西壁を西側へ拡張したところ南北方向の石垣を確認できた。

3区では西面する石垣を検出した。調査区が国道際であることから石垣最下段までは掘削していない。検出長は約4.8mで、北側・南側とも調査区外へ延長する。確認できた残存高は0.6m以上で、大きさ約50~130cmの石を2段以上積み上げる。2区の状況と比較すると検出した石材は



- 1 盛土
- 2 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 炭を少量含む（聖地層、江戸時代か?）
- 3 10YR3/2黒褐色砂泥 炭をわずかに含む（聖地層、桃山時代か?）
- 4 10YR5/4にぶい黄褐色砂泥 φ1~3cmの礫を少量含む、炭を少量含む、締まりが悪い
- 5 7.5YR4/4褐色粘質土 φ1~5cmの礫を中量含む 中砂から極細砂を中量含む、締まりが悪い
- 6 10YR4/3にぶい黄褐色砂泥 φ1~5cmの礫を少量含む
- 7 2.5Y5/3黄褐色粘質土 φ1~20cmの礫を多量に含む、礫には直角礫を含む、やや締まる（石垣裏込め）

図95 3区南壁断面図（1：40）

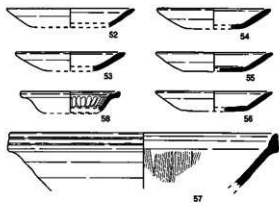


図96 出土土器実測図(1:4)

示した。

土器類には土師器(52~56)・焼締陶器(57)・施釉陶器(58)・磁器がある。53は中型皿である。丸底で、調整は底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデである。52・54~56は大型皿である。平底で54~56は底部内面に明瞭な圈線がめぐる。調整は底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部内外面はヨコナデである。57は播鉢である。体部が直線的に開き、口縁端部を拡張して面をつくる。調整は内外面ともヨコナデで、内面に11条1組の鋭い撞目、口縁端部外面に2条の沈線を施す。丹波あるいは備前産である。58は皿である。口縁部は屈曲して開く。口縁部内面をケズリで花卉状に飾り、内外面に灰緑色の灰釉を施す。瀬戸美濃産である。52~56・58は1区の濠の堆積層の落ち込み、57は2区の石垣の隙間から出土した。52は室町時代後期の特徴を示すが、53~58は桃山時代に属する。

木製品には漆器・折敷・箸(63~67)・ヘラ(68)・付木・曲物(59・60)・桶・栓(71)・下駄(72)・棒状木製品(61)・板状木製品・円盤形木製品(62)・方形木製品・加工痕のある部材(69・70)・端材・焼材・竹片などがある。樹種の同定は実施していない。59・61には墨書がある。59は文字が判読でき、下部が欠損するが、「山城」の墨書がある。

まとめ

今回の調査では2区で北面する石垣、3区で西面する石垣を検出した。2区西側でも南北方向の石垣を確認できたことから、調査地が屈曲する石垣の北西角にあっていることはほぼ確実である。したがって、北面する石垣の北側は濠になると考えられる。石垣は上部が壊されているが、最下段から3段が残存している。1区では石垣を確認できなかったが、これには北西角に櫓があったため濠の幅が異なっていたか、あるいは最下段まで石垣が壊されたため濠の堆積層が広がっていたなどの原因が考えられる。

石垣の特徴を整理すると、大型の石材を用いて構築していること、石材に花崗岩の割石を用いていないこと、検出面が地表面から約1.6~3.4mの深さになること、残存する石垣最上部から桃山時代の整地層まで1m以上の盛土があること、立売通から石垣までの間隔が約5mしかないので町屋が建ち並んでいたとは考えられないことなどを指摘することができる。これらのことから

下から2段目・3段目に相当し、全体の残存高は約1.7mと推測できる。石材はチャートが多くを占め、他に白色の斑をもつ火成岩・砂岩を用いる。石垣東側は調査区東壁まで掘形で、大きさ1~20cmの礫を多量に含む明褐色粘質土である。

遺物(図版30、図96・97)

出土遺物は1区の濠の堆積層の落ち込みから出土した木製品が多くを占め、ほかに土器類・瓦・土製品・貝殻がある。土器類・木製品を図

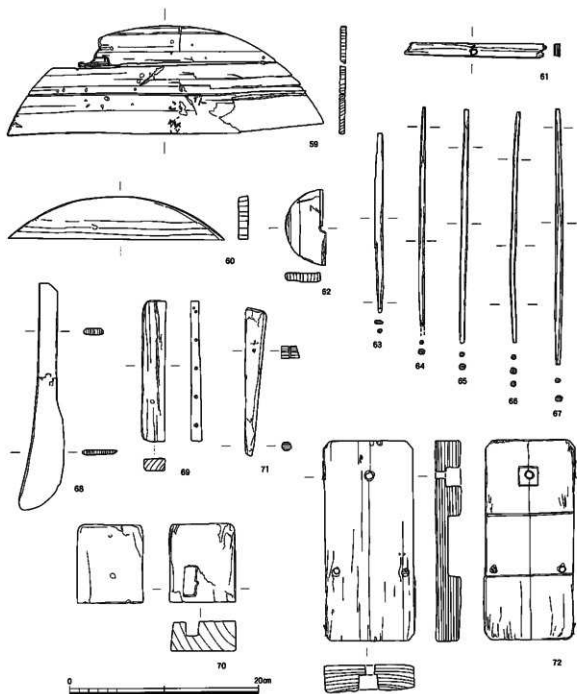


図97 木製品実測図 (1:4)

今回検出した石垣は、指月城北西角の石垣である可能性が高いと判断できる。濠の堆積層や石垣の隙間から出土した遺物の年代も合致している。この石垣が指月城の遺構であるとすれば、初めての発見であり、伏見城の構造や城下町の変遷を検討するに当たって重大な成果である。

(山本雅和)

註1 山田邦和「伏見城とその城下町の復元」『豊臣秀吉と京都』文理閣 2001年

12 草嶋館跡 (09MK178)

調査経過 (図98・99)

京市区川島玉頭町37-1・37-14・37-15・38-6・38-2 (38-4・38-5・37-5・40-2・40-3) の宅地造成工事に伴う調査である。調査地は室町時代の土豪草嶋氏の居館である草嶋館跡の南東部に位置する。

2008年に調査地の西側隣地で試掘調査①を行い、草嶋館のものと考えられる中世の南北方向の濠跡を検出している (この地は2009年に発掘調査②を行っている)。そして、当地が宅地造成されるにあたり試掘調査③ (発掘調査④内を調査)

が行われ、南北方向と東西方向の濠跡を検出し、草嶋館の遺構が広がっているのが確認できた。当地の中央部分は発掘調査④が行われることとなった。しかし、発掘調査対象地以外の部分でも宅地造成の付帯工事として擁壁工事、道路側溝工事、上下水道配管工事などの掘削工事が行われるので、それらの工事についても詳細分布調査を行うこととなった。

調査は2009年8月6日から11月16日まで行い、古墳時代初期の竪穴住居跡、古墳時代中期の竪穴住居跡、竪穴住居状遺構と草嶋館のものと考えられる東西方向の濠跡を検出した。

遺 構 (図99～101・103・104)

古墳時代初期の竪穴住居跡1基と古墳時代中期の竪穴住居跡1基は、調査地東側の今井用水に隣接する部分の擁壁工事で検出した。

古墳時代初期の竪穴住居跡はNo.1地点で検出した。この地点の基本層序は、BM+0.21mから-0.42mまでが現代盛土層、-0.42mから-0.62mまでが古墳時代初期から中期の遺物を含む層、-

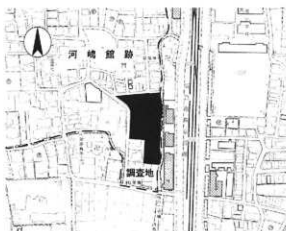


図98 調査位置図 (1 : 5,000)

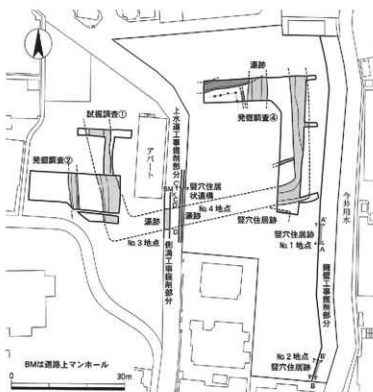


図99 遺構位置図 (1 : 1,000)

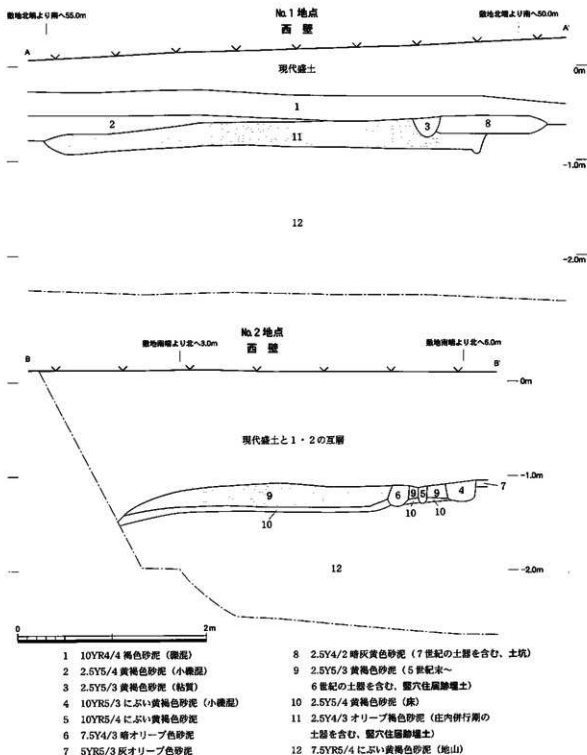


図100 No.1・2地点遺構断面図 (1:40)

0.62m以下がにぶい黄褐色砂泥の地山となる。竪穴住居跡はこの地山層を掘込んだ状態で検出した。南北幅4.7m、深さ0.3mを測る。北壁は上部を飛鳥時代の遺物と焼土を多く含む土坑で削られているが、壁溝が確認できた。しかし、南壁では壁溝は確認できなかった。竪穴住居内の埋土からは古墳時代初期の遺物が多量に出土した。特に南壁付近では集中している。また、この竪穴住居跡の南側では、弥生時代後期の遺物と炭を多量に含む土坑群を検出している。

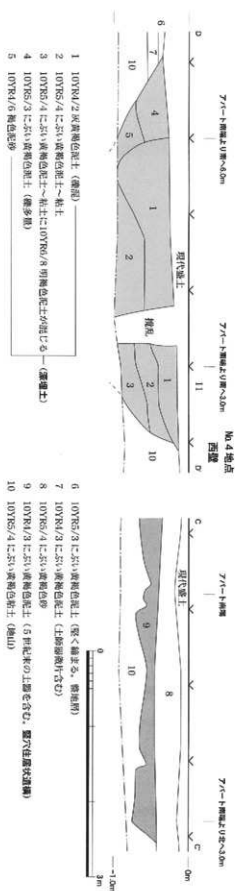


図101 No.4地点遺構断面図 (1:50)

古墳時代中期の竪穴住居跡はNo.2地点で検出した。この地点の基本層序は、BM+0.1mから-1.05mまでが現代盛土層、-1.05mから-1.12mまでが灰オリーブ色砂泥層、-1.12m以下がにぶい黄褐色砂泥の地山となる。竪穴住居跡はこの地山層を掘込んで検出した。南北幅3.48m以上、深さ0.31mを測る。下層に床面を形成すると考えられる黄褐色砂泥層を0.05mから0.1mの厚さで検出した。北壁は時期不明の土坑で削られ、南側は現代盛土層で削平を受けている。竪穴住居内の埋土からは殆ど遺物は出土せず、僅かに土師器と須恵器杯身が出土したのみである。

古墳時代中期の竪穴住居状遺構と革嶋館のものと考えられる東西方向の漆跡は、調査地西側の南北道路の上水道配管工事No.4地点で検出した。北側に竪穴住居状遺構、南側に漆跡を検出した。

この地点の基本層序は、地表下-0.12mまでが現代盛土層、-0.12mから-0.42mまでがにぶい黄褐色粘土層、-0.42m以下がにぶい黄褐色粘土の地山となる。竪穴住居状遺構はこの地山層を切って検出した。幅4.3m以上、深さ0.31mを測る。床面の平坦面を確認できず、竪穴住居跡とは断定できなかった。竪穴住居内の埋土からは土師器甕、須恵器甕、有蓋高杯などが出土している。

この竪穴住居状遺構の約1m南で、地表下-0.15mの現代盛土層直下で、幅5.17m、深さ0.8m以上の東西方向の漆跡を検出した。この漆跡に関しては、この地点より約2.7m西の南北道路西側側溝工事 (No.3地点)でも、地表下-0.17mの現代盛土層直下で、幅5.4m、深さ0.83m以上を検出している。共に遺物は確認できなかったが、試掘①③・発掘調査②④で検出した漆跡と同一と考えられる。No.3地点とNo.4地点で検出した漆跡を繋ぐと東へ行くほど北へ振っているのが分かり、その延長上に発掘調査③④で検出した東西方向の漆跡に繋がっていく。

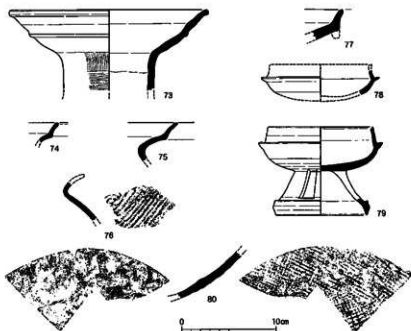


図102 出土土器拓影及び実測図（1：4）

遺物（図版31、図102）

古墳時代初頭の壺・甕・高杯、古墳時代中期の須恵器杯・有蓋高杯・甕などがある。

(73)は口縁部が二段に屈曲する壺の口縁部である。口縁部の段は不明瞭で、粘土紐を突帯状に貼り付け、段差を強調している。器面調整は、外面は縦方向のハケ調整のち頭部のみ雑なヘラミガキを施し、それ以外は

ヨコナデ調整を施す。

(74・75・77)は同じく口縁部に段を有する壺の破片であるが、小片のため口径は復元できない。(77)は下端に粘土紐の剝離痕跡があることから、下端を垂下させていたとみられる。

(76)は甕の体部に施された右上がりの粗い叩きを拓影で示した。同様の叩きを施す破片が多くみられる。畿内第V様式に属する甕と見分けがつかないが、壺の形状からは古墳時代初頭に属すると考える。

(78)は須恵器杯で、受け部の先端を12.5cmとして復元した。底部にはヘラケズリの痕跡がある。焼成は良好で割れ面は赤紫色を呈する。

(79)は有蓋高杯である。杯部の立ち上がりは長く、口縁端部は内側に段を有する。脚は短脚で3方に透かしを穿つ。灰色を呈し、胎土には砂粒を多く含む。

(80)は須恵器甕の体部片を拓影で示した。外面は格子状叩き、内面は上方向のナデで、同心円叩きを擦り消している。粘土紐単位で割れていると判断でき、底部付近として図化した。以上の須恵器3点は、5世紀末葉から6世紀初頭に属するものといえる。

(73~77)はNo.1地点竪穴住居跡、(78)はNo.2地点竪穴住居跡、(79)はNo.4地点竪穴住居状遺構、(80)はNo.1地点第2層の黄褐色砂泥層から出土した。

まとめ

今回の調査では、古墳時代の遺構群、近世の濠跡を検出した。当地での古墳時代の遺構の検出は新発見である。特に、古墳時代初期と中期の竪穴住居跡を検出したことは、ここに古墳時代の集落が形成されていたことを示すものとして重要である。桂川右岸のこの付近では弥生時代から古墳時代の集落跡が松室遺跡、下津林遺跡、上久世遺跡、中久世遺跡と点在しているが、松室遺跡と下津林遺跡の間には集落跡の存在が確認されていなかった。今回の発見は、その間の空白を

埋めるだけでなく、北山城の古墳時代を考えるうえでも重要な資料となりうる。

また、従来から古墳時代中期から後期初めの古墳は、西京区山田の丘陵上に存在することが知られてきたが、今回検出した集落はまさにそれら古墳の時期と合致している。近年、右京区西院月双町の発掘調査³⁵などでも、同時期の集落遺跡が確認されており、当該期の古墳と集落の関係が明確になりつつある。これらは、嵯峨野に展開する後期古墳と集落の先駆をなすものであるため、資料的価値の高い発見であったといえる。

(丸川義広・吉本健吾)

- 註1 馬瀬智光「V-5 革嶋館跡No.24」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年
- 註2 加納敬二「V 革嶋館跡」『京都市内遺跡発掘調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
- 註3 「VI 試掘調査一覧表」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成21年度』京都市文化市民局 2010年
- 註4 加納敬二『革嶋館跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2009-6 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
- 註5 柏田有香『平安京右京六条四坊八町跡・西京極遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2006-14 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2006年



図103 No.1 竪穴住居跡 (東から)



図104 No.1 竪穴住居跡土器出土状況 (東から)

IV 主要な出土遺物

1 唐草文軒平瓦

(平安京左京六条四坊四町跡、09HL140、図版31、図105~107)

下京区間之町通五条下る大津町8の下京税務署における耐震改修工事に伴う調査で、鎌倉時代の軒平瓦が出土したので報告する。

遺物は、調査地の北側、敷地東端から7.0mの地点で出土した。基本層序は、-0.6mまで現代盛土層、-0.6mから-1.1mまでが砂泥と砂礫の互層、-1.1mから-1.3mが多量に瓦を含む層、-1.3mから掘削深-2.1mまでがまた砂泥と砂礫の互層になる。

軒平瓦は多量に瓦を含む層から出土した。この層は瓦を廃棄した瓦溜の一部と考えられる。

唐草文軒平瓦(81)は瓦当部の右端から中央部にかけて残存する破片である。頸部に凹型台の痕跡が残る。胎土は小石を含み、焼成は良好、色調は褐灰色(7.5YR4/1)を呈する。2次焼成を受けている。

唐草文軒平瓦(82)は瓦当部の左端の破片である。頸部に凹型台の痕跡が残る。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は褐灰色(7.5YR4/1)を呈する。

2006年に調査地の北側で行われた発掘調査でも瓦を多量に含んだ層を検出しており、今回出土した軒平瓦と同時期と考えられるものが出土しており、関連する可能性が考えられる。

(吉本健吾)

註1 菅田薫『平安京左京六条四坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告 2006-29 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年

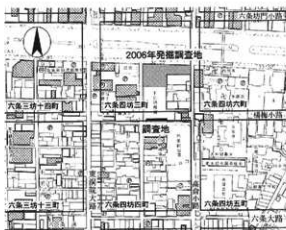


図105 調査位置図(1:5,000)

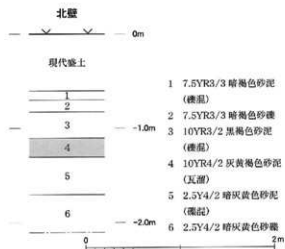


図106 柱状断面図(1:40)

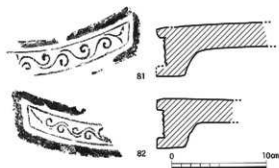


図107 軒平瓦拓影及び断面図(1:4)

2 緑釉陶器皿と偏向唐草文軒平瓦 (平安京左京七条四坊三町跡、09HL197、図版31、図108~110)

下京区下数珠屋町通間之町西入西玉水町283-4、283-5、294-3、312-1における住宅建築工事に伴う調査で、平安時代前期の緑釉陶器と平安時代中期の軒平瓦が出土したので報告する。

遺物は、調査地の東側、敷地南端から3.8mの地点の地表下-1.16mで南に下がる灰オリーブ色泥砂の落込から出土した。出土した遺物は、緑釉陶器と軒平瓦以外には平安時代前期の須恵器甕と平安時代中期の土師器皿が出土している。

緑釉陶器皿(83)は底部の破片である。底部内外面に共に焼成前にヘラ記号(内面「-」、外面「×」)を施している。小塩産と考えられる。

偏向唐草文軒平瓦(84)瓦当部から平瓦部にかけて約20cm程残存する破片である。瓦当部は両端部が剥離している。平瓦部は凹面に布目痕、凸面に粗い格子タタキ目痕が残る。讃岐産と考えられる。

(吉本健吾)



図110 遺物拓影及び実測図(1:4)

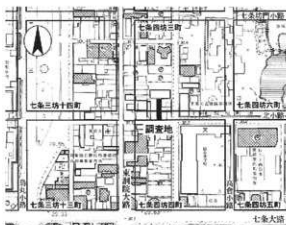
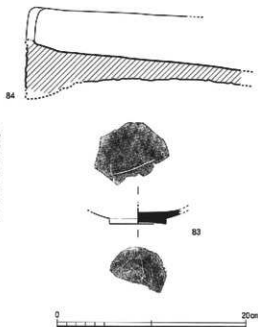


図108 調査位置図(1:5,000)



図109 遺構断面図(1:40)



3 染付御猪口 (伏見城跡、08FD175、図版31、図111・112)

伏見区の国道24号線の鍋島町から豊後橋町に至る電線共同溝埋設工事に伴う調査で、紀年銘のある染付御猪口が出土したので報告する。

遺物を検出したA地点は、国道24号線がバイパスである新観月橋の高架線と観月橋へ傾斜していく道路へ分離している部分の観月橋へ向う道路の南行車線で、観月橋の北詰から北へ約100mの地点にあたる。

A地点は、横を走る新観月橋の高架線の基礎作成の影響か、掘削深-1.7mまで現代盛土層であった。御猪口はこの層から検出した。

染付御猪口(85)は4分の1程残る口縁から底部にかけての破片である。外面に横方向に向けて左から「應二丙」の三文字が、その反対側に縦方向で二行に分れて「□□造」と書かれている。また、内面にはトラの絵が描かれている。

慶応二年(1866)は丙寅であるため、「應二丙」は「慶應二丙寅」であったとみられ、内面のトラの絵とも合致する。「□□造」の方は、最後の文字が「造」であるところから作者か発注者を考えることができる。また二文字目が異体字の数字の可能性もあり、作品数を記述しているとも考えられる。

現代盛土層からの出土であるが、絶対年代が分かる資料であり、類似する資料と対比することで、年代観を知る貴重な資料となろう。

(丸川義広・吉本健吾)

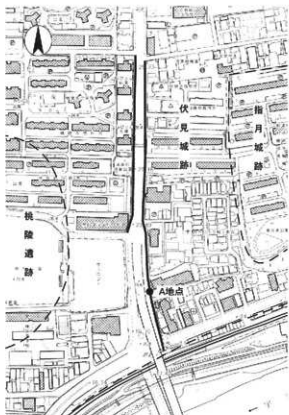


図111 調査位置図(1:5,000)

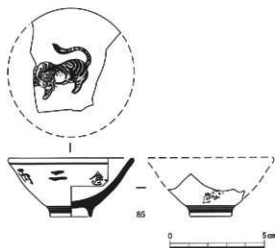


図112 遺物実測図(1:2)

調査一覧表

I 2009年 1～3月期 (平成20年度)

平安宮 (HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
大蔵倉隣接地	上・西今出川町403-11、 三軒町60-13、60	1/16	-0.38m、時期不明の包含層(丸・平瓦)。	08K401	HQ 352	1
大蔵倉	上・西宮仲町468-1	1/7	-0.33mまで現代盛土。	08K428	HQ 341	1
大蔵倉	上・中立光通千本東入2丁目目丸町 379番7	2/18、4/9	巡回時、工事終了。	08K415	HQ 383	1
内蔵倉	上・千本通上長者町下る葦堂前之町 100番、102番の一部	1/14	-0.15m、近世以降の包含層。	08K396	HQ 350	1
主蔵倉	上・中立光通日暮東入新白水丸町462-7、 鳳門通一条下る今新在家町206-5	3/11	-0.15mまで現代盛土。	08K525	HQ 403	1
掃部寮	上・下長者町通大軒町西入利生町 288番3、四番町151番41	1/6・8・9	-0.34m・-0.53m・-0.72m、近世以降の包含層3。 -1.2m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08K389	HQ 340	1
左近衛府	上・下長者町通智恵光院東入西殿巳町 110-1、112-20	3/16	-0.3m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08K543	HQ 409	1
中和院	上・十四軒町398番、七番町390番6	1/16・19	-1.3mまで現代盛土。	08K337	HQ 354	1
東徳院	上・下立売通大宮西入浮田町606	2/6	-0.2mで暗オリーブ色砂泥を検出。遺構、遺物は 検出できず。	08K369	HQ 374	1
西徳院	上・智恵光院通橋木町上る中務町 486-85	2/9	-0.2mまで現代盛土。	08K492	HQ 376	1
右馬寮	中・西ノ京右馬寮町1-14の一部	2/4	-0.23mまで現代盛土。	08K406	HQ 373	1
左馬寮	中・西ノ京左馬寮町11-35	2/26	-0.2mまで現代盛土。	08K429	HQ 388	1
典薬寮	中・西ノ京車坂町 地先	2/20	-0.9mまで現代盛土。	08K504	HQ 385	1
朝堂院	上・泉楽町～中・西ノ京小堀町他 (千本通両側) 地内	08/10/6～ 09/2/9	朱雀門内で整地層を検出。本報告3ページ。	08K174	HQ 242	1
朝堂院	中・泉楽町東町27番	3/27、4/9	BM-0.25mで近世以降や江戸の落込(土師器層) に切られる形で明黄褐色粘土を検出。この層は 推定の含蓋堂の整地層の可能性あり。	08K513	HQ 425	1
朝堂院隣接地	上・千本通下立売下る小山町908番66	1/19	-0.35mまで現代盛土。	08K252	HQ 355	1
兵部省	中・西ノ京内膳町29-58、29-59	1/26	-0.5mまで現代盛土。	08K437	HQ 361	1

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊一町	上・大宮通今出川下る藏師町～鳳門通 中立売上る興隆殿町 地先	08/10/31～ 09/4/9	-1.35mまで現代盛土。	08K334	HL 266	2
一条二坊十五町	上・西洞院通下長者町下る丁子風呂町	2/4～6・ 10・12	№1:-1.44m、室町の包含層(土師器層、瓦 器)。-1.94m以下、明褐色砂泥の地山。 №2:-0.7m・-1.53mで近世以降の包含層2。	08H387	HL 372	2
一条四坊九町	上・京都御苑(大宮仙洞御所ほか)	1/29・30、 2/2～6・ 10・12・ 13・16・ 17	№2:-0.1m、近世以降の包含層。 №4:-0.14m～-0.7m、近世以降の踏面及び整 地層4。№6:-0.3m、時期不明の包含層。 №7:-0.5m、近世以降の落込。№8:-0.28m～ -0.52m、近世以降の踏面及び整地層3。	08H448	HL 367	3
二条三坊六町	中・衣通竹園町下る花立町257番地	1/15・19	-0.9m、江戸初期の包含層(土師器層、輸入白 磁器)。	08H274	HL 353	3
二条四坊十二町	中・鍛冶屋町368番地(富小路公園)	3/12	BM+0.18m、近世以降の包含層。 -0.2m～-0.38m、近世の整地層5。	08H472	HL 405	3

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
三条一坊 二町	中・西ノ京北聖町26	3/11・12・16、4/9	No 1 ; -0.82m. 鎌倉～室町の包含層(輸入白磁土)。 -1.33m以下、オリープ褐色砂礫の地山。 No 2 ; -0.4m. 近世以降の包含層。-1.18m以下、オリープ褐色砂礫の地山。No 3 ; -0.16m. 近世以降の包含層。-0.69m以下、暗オリープ色細砂の地山。	08H421	HL 404	2
三条一坊 八町	中・西ノ京北聖町51番地他(中京中学校)	3/16	-0.25mまで現代盛土。	08H522	HL 412	2
三条三坊 六町	中・衣通通明地下的長浜町154番2	2/13・16・18・23、3/2	No 1 ; -0.6m～-2.18m. 室町の包含層(土師器皿、瓦器) 4。No 2 ; -1.25m. 鎌倉の包含層(土師器皿。輸入青白磁、輸入白磁皿)。 -1.7m. 平安末期～鎌倉の幕込(土師器皿、須恵器)。-2.05m以下、黄褐色砂礫の地山。	08H346	HL 380	3
三条四坊十三町	中・寺町通三条上る天性寺前町530番	3/16・23	-0.55m～-1.0m. 近世以降の包含層 2。	08H408	HL 410	3
四条一坊十三町	中・四条通大宮西入大宮町116番地 光外	2/26	-1.7mまで現代盛土。	08H302	HL 390	4
四条三坊 八町	中・六角通地町西入玉蔵町133番、 室町通三条下る烏帽子屋町500番1	3/9	巡回時、工事終了。	08H458	HL 401	5
四条四坊十四町	中・御寺町通錦小路上る船屋町382	08/12/8・16・19、09/1/9	No 1 ; -1.0mで黒褐色砂礫を検出。 No 2 ; -1.0mでぶい黄褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検出できず。	08H080	HL 320	5
四条四坊十四町	中・寺町通胡麻師下る円福寺前町 285、286、287	2/23	-6.0mまで現代盛土。	08H420	HL 387	5
五条三坊十一町	下・烏丸通仏光寺下る大政所町675、 仏光寺通室町東入町廻町257	3/16	-0.8mまで現代盛土。	08H491	HL 411	5
五条四坊 一町	下・綾小路通東洞院東入神明町 238番地	1/13・15・17	No 1 ; -0.6m. 近世以降の包含層。 No 2 ; -0.6m. 近世以降の瓦層。	08H263	HL 347	5
六条一坊 一町	下・中堂寺命婦町20番地 光徳公園	1/21・26	-2.2mまで現代盛土。	08H443	HL 359	4
七条一坊 十町	下・二人町町3の一部	3/4・5	-0.7m. 近世の包含層。	08H444	HL 396	6
七条一坊 十町	下・二人町町3の一部	3/4・9	-0.15m. 近世以降の包含層。	08H445	HL 397	6
七条二坊 十町	下・堀川通花屋町下る本願寺門前町 60番地	08/12/5・22・24～26、09/4/15	江戸後期以降の「御茶所」に関連する遺構(礎石列、土間タタキ、礎、暗渠など)を検出。『京都市内遺跡試験調査報告平成20年度』に掲載。	20N043	HL 316	6
七条二坊十五町	下・抽小路通花屋町下る仏具屋町 232番地	3/16・18・23・25	No 1 ; -0.35m. 時期不明の盛地層。 No 2 ; -0.1m. 東面する時期不明の石垣。 No 3 ; -0.95m. 時期不明の包含層(土師器)。	08H433	HL 407	6
七条三坊 五町	下・烏丸通七条上る常盤町	1/27	-0.45mまで現代盛土。	08H470	HL 364	7
七条四坊十二町	下・七条通間町東入材木町452、 452-1・2、507-2、 西木屋町七条上る新日吉町135-2	3/2～5・9	No 3 ; -0.5m. 近世以降の包含層。 No 4 ; -1.27m以下、ぶい黄褐色砂礫の地山。	08H427	HL 393	7
九条一坊 三町	南・八条内田町70	3/5・9	巡回時、工事終了。	08H436	HL 398	6
九条一坊 十町	南・壬生通八条下る東寺町 地先	3/27・30	-0.23m. 近世以降の包含層。-0.55m. 時期不明の包含層(土師器、須恵器、平瓦)。	08H558	HL 426	6
九条一坊十五町	南・大宮通八条西入東寺町554	3/10・16・17	No 1 ; -0.2m. 時期不明の幕込。-0.27m. 近世以降の幕込(平瓦)。-0.33m. 時期不明の幕込。 No 2 ; -0.35m. 鎌倉の包含層(土師器皿)。 -0.44m. 鎌倉の包含層(土師器皿)。	08H519	HL 402	6
九条二坊十三町	南・西九条龍王町～西九条春日町 地先	2/18～3/2	-0.94mまで現代盛土。	08H438	HL 384	6
九条二坊十六町	南・西九条北ノ内町13-1他	1/5・6、2/24、3/2	-1.35m. 近世以降の包含層。-1.95m以下、暗オリープ色砂礫の地山。試験調査済地点。	08H327	HL 338	6
九条三坊 五町	南・九条通り南側、抽小路通～烏丸通 地内	08/8/19～09/3/2	-0.9m以下、灰白色礫砂の地山。	07H544	HL 170	6-7
九条四坊 九町	南・東九条岩本町23-1、22-5、22-6、 22-7、22-8、22-9	2/9	-0.5m. 暗オリープ色砂礫の氾濫状堆積。	08H417	HL 377	7

平安京右京 (HR)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
三条二坊 三町	中・西ノ京樋口町65番地1の一部、66番地1	3/9	-0.25mまで現代盛土。	08H508	HR 399	9
四条二坊十一町	右・西大路通西側、三条通～四条通一筋北 地内	08/11/18～ 09/3/3	№3；-1.05mで灰黄褐色粘土の地山を切って時期不明の土坑。№4；-0.8m、平安の包含層（平瓦）。№6；-0.7m、近世以降の包含層。	08H231	HR 298	11
四条四坊 三町	右・山ノ内瀬戸畑町32	1/8	-0.3mまで現代盛土。	08H383	HR 344	10
五条一坊 五町	右・中堂寺北町～中京区壬生松原町地先	1/14～4/8	№5；-0.58m以下、灰黄褐色砂泥の地山。№6；-0.25m、近世以降の包含層。№7；-0.65m以下、オリブ褐色砂泥の地山。	08H373	HR 351	11
五条三坊 一町	右・西院興町15	3/19～30	-0.55m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	08H435	HR 416	10
六条二坊 三町	下・西七条赤社町～西院南高田町地先	3/30～6/29	-0.57m、時期不明の包含層。	08H512	HR 428	11
七条一坊 五町	下・朱雀北ノ口町31	3/23	-0.3m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	08H484	HR 417	13
八条三坊 九町	右・西京極下町～西京極御田町地先	1/9～3/25	-0.63m以下、灰オリブ色粘土の地山。	08H006	HR 346	12
八条四坊 三町	右・西京極中沢町1番地の17 西中公園	2/16	巡回時、工事終了。	08H440	HR 381	12

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
下鴨半水町遺跡	左・下鴨本町～下鴨御郡他 地内	3/2～31、 4/1～23	時期不明の整瓦住居址と考えられる土坑を掘出。本報告17ページ。	08S382	RH 392	20-1
上京遺跡・ 新町杖地遺跡・ 相国寺旧境内・ 室町殿跡 (花の御所)	上・上立売通 新町通～烏丸通 地内	08/11/14～ 12/9、 09/1/8～ 3/11	№4；-0.6m、室町の溝状堆積（土師器皿、陶輪陶器）。	07S218	RH 289	20-1
御土屋跡 史跡賀茂別荘 神社境内・ 植物園北遺跡 史跡賀茂別荘 神社境内・ 植物園北遺跡 植物園北遺跡	上・御車道今出川下二丁目京町366番 北・上賀茂本山339番地1 地先	1/9～27 08/8/27～ 09/4/28	-0.82mで近世以降の氾濫状堆積。 №3；-0.14m、近世以降の包含層。 №9；-0.9m、平安中期の包含層（土師器皿）。 №19；-0.23m、近世以降の包含層。	08S283 20N020	RH 346 RH 186	20-1 21-1
御土屋跡 北野遺跡・ 北野麩寺 栗栖野瓦窯跡	北・上賀茂本山～上賀茂南ノ木町 地先 北・上賀茂松本町81番地3 左・下鴨水口町19-1	1/30、 2/2～23、 3/2・4 2/20・23 3/16	-0.6m、平安中期～後期の包含層（土師器皿）。 -1.33m以下、黄褐色砂泥の地山。 巡回時、工事終了。	08S462	RH 368	21-1
上京遺跡	上・新町通上御堂前上る下清藏町口133番28	2/17	-0.95m以下、黒褐色砂泥の氾濫状堆積。	08S487	RH 382	23-1
御土屋跡 北野遺跡・ 北野麩寺 栗栖野瓦窯跡	北・紫野濱花ノ坊町、紫野西土屋町地内 北・北野紅梅町77-2 左京区岩倉榎町655番地他	1/20・29 3/25 08/12/16～ 09/7/27	-1.56mまで現代盛土。 -0.15m、時期不明の包含層（土師器、磁器）。 -0.7m以下、黄褐色微砂の地山。盛土層から平安の須恵器を採集。	07S475 08S359 08S404	RH 358 RH 421 RH 331	23-2 23-2 24-2

太秦地区 (UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
御堂ヶ池古墳群・ 太秦馬塚町遺跡 上ノ段町遺跡	右・梅ヶ畑向ノ地町 地内 右・太秦町2番地の5 太秦乾公園	3/2 1/28	巡回時、工事終了。 №1；-0.5m、時期不明の溝底。№2；-0.46mで明黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の土坑。	08S514 08S441	UZ 394 UZ 365	16 16
上ノ段町遺跡	右・嵯峨野町1番地の1 (京都市立峰々岡中学校)	1/23、 2/19	-0.38m、近世以降の包含層。-0.64mで黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の溝底。	08S358	UZ 360	16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
史跡仁和寺御所跡	右・御堂大内33	3/17・23	仁和寺の西御殿地の改修工事に伴う石垣部分の試掘調査後の立会調査。調査成果は全て試掘調査に掲載。	20N062	UZ 413	16
仁和寺院家跡 和泉式部町遺跡	右・花園岡ノ木町4番13他 右・太秦森ヶ東町 地先	3/2 08/7/15~ 09/4/9	-0.3mまで現代盛土。 -0.73mで黒色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出できず。	08S516 08S169	UZ 391 UZ 120	16 16
堀 堀 遺 跡	右・嵯峨天皇寺若宮町16-1、20-21	2/2・3・ 5・6・10	№1；-0.5m。近世以降の包含層。 №3；BM-0.65mでぶい黄褐色砂泥の地山を切って壱町の土坑（土師器遺）。	08S073	UZ 369	16
堀 堀 遺 跡	右・嵯峨駅遊園大門町他 地内	08/12/8、 09/2/16	BM+0.13mでオリープ褐色砂泥の地山を切って中世～近世の露込（平瓦）。	08S398	UZ 318	16
堀 堀 遺 跡・ 鹿川寺境内 大覚寺古墳群	右・嵯峨天慶寺池田町19 右・嵯峨大沢柳井手町28番8	3/27・30 3/12~19	BM-0.05m以下、明黄褐色砂泥の地山。 BM+0.69m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08S506 08S521	UZ 427 UZ 406	16 16

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北白川遺分町遺跡	左・北白川基町23-2	08/12/19~ 09/1/13	-1.84m以下、明黄褐色細砂の地山。	08S236	KS 334	17
小倉町跡町遺跡	左・北白川東小倉町35番地	3/17・18	縄文前期の包含層を抽出。本報告30ページ。	08S574	KS 415	17
金成光明寺境内	左・黒谷町121番	2/9	-1.23m以下、明褐色細砂の地山。	08S432	KS 378	17
岡崎遺跡・ 法勝寺跡	左・岡崎南側所可11番、30番1、 30番2	3/24	-0.27m。近世以降の包含層（平安の平瓦が埋入）。	08R454	KS 420	17
岡崎遺跡・ 法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町22番地	1/27・29、 2/18・19	-1.9m以下、ぶい黄褐色細砂の地山。	08R228	KS 363	17
白河南院跡	左・夷川道川吉永町275	3/30	-0.6mまで現代盛土。	08R537	KS 429	17
白河町区跡	左・川端通より五筋東二条上る藤波町 217番及び218番	3/9・11	№1；-0.3m。ぶい黄褐色砂泥の肥産状堆積。 №2；-0.2m。近世以降の包含層。	08S494	KS 400	17

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法住寺殿跡・ 六波羅殿跡	東・茶屋町527番地	1/7	-1.14mで近世以降の包含層（平瓦）を切って近世以降の露込（平瓦）。	08S062	RT 342	18
中區遺跡・ 中區十三塚	山・西野山中區町71-6の一部、71-43	3/26	-0.32mまで現代盛土。	08N540	RT 423	23-3
中區遺跡	山・西野山中區町75-22	3/17	-0.36mまで現代盛土。	08N465	RT 414	23-3
中區遺跡	山・勧修寺東栗栖野町 地先	1/25、2/2	-0.45m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08N455	RT 362	23-3
中區遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎342-3	3/23	巡回時、工事終了。	08N449	RT 419	23-3
中區遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎342-2	3/23	-0.26mまで現代盛土。	08N527	RT 418	23-3
中區遺跡	山・勧修寺西金ヶ崎342-1	1/13	-0.3mまで現代盛土。	08N450	RT 348	23-3
山科本願寺跡	山・西野山階町11-5の一部、 11-6の一部、29-16の一部及び85	08/10/20、 22、12/11、 09/1/19	№1；BM-0.5m。壱町後半の包含層（土師器）。 山科本願寺の敷地層。№6；BM-1.47m以下、褐色砂泥の地山。試掘調査済地点。	08S103	RT 257	25-1

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽朝宮跡	伏・中島宮ノ前町23番	3/25~30	-1.3m。暗オリープ灰色粘土の肥産状堆積。	08T380	TB 422	22-1

伏見・醍醐地区 (FD)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
伏見城跡・ 桃山古墳群 (永井久太郎古墳)	伏・桃山町永井久太郎68番地	1/20	-0.27mまで現代盛土。	07F501	FD 356	14
伏見城跡・ 御香宮鹿寺	伏・桃山町松平筑前〜鶴島町 地先 (一般国道24号)	08/7/22~ 30. 8/5~ 27. 9/3~ 30. 10/2~ 31. 11/5~ 27. 12/1~ 16. 09/1/13・ 19. 2/2~ 23. 3/2~ 25	No 6 ; -0.4m, 近世(平・丸瓦)の土坑。No 8 ; -0.77mで鎌倉の包含層(瓦器類)を切って近世以 降の幕込(土器類, 磁胎陶器)。No 10 ; -0.79m, 桃山〜江戸前期の土坑(土師器, 丸・平瓦)。 -0.8m, 桃山〜江戸前期の幕込(軒丸瓦・瓦)。 -0.96m, 桃山〜江戸前期の包含層(土師器類)。 -0.87mで灰白色細砂の地山を切って桃山〜江戸 前期の土坑(丸瓦)。No 12 ; -0.93m, 時期不明 の包含層(瓦器)。-1.14m以下, 赤褐色砂泥の 地山。No 13 ; -0.95m, 時期不明の幕込(平瓦)。 No 25 ; -0.7m, 古墳の包含層(須恵器類, 埴輪)。	07F088	FD 126	14
伏見城跡	伏・深草恩ノ森町〜醍醐町 地先 (一般国道24号)	08/7/22~ 09/7/16	BM-0.17mで近代のインクラインに伴う石垣を 検出。	07F086	FD 130	14
伏見城跡	伏・京町北八丁目〜桃山長岡越中北町 地内	08/12/1~ 09/3/5	-2.65m以下, 明黄褐色粘土の地山。	07F502	FD 313	14
伏見城跡	伏・桃山井伊藤部東町〜豊後橋町	08/9/9~ 09/4/3	No 2 ; -1.2m以下, 黄褐色粘土の地山。 No 3 ; -0.48m, 近世以降の包含層(丸・平瓦)。 No 7 ; -1.3m, 近世以降の包含層。 -2.3m以下, 黄褐色砂泥の地山。	08F117	FD 199	14
伏見城跡	伏・桃山長岡越中北町〜桃山町松平筑 前 地先(一般国道24号)	08/9/24~ 09/3/25	No 4 ; -1.4mで桃山〜江戸前期の包含層(平瓦) を切って時期不明の幕込(丸瓦)。 No 5 ; -1.09m, 近世以降の土坑(軒平瓦, 丸・ 平・葺瓦, 枝瓦)。No 9 ; -0.46m, 時期不 明の踏面。-0.96m, 江戸の包含層(土製品)。 -1.62m以下, 明褐色粘土の地山。 No 10 ; -1.35m, 桃山〜江戸前期の包含層(丸瓦)。	07F087	FD 226	14
伏見城跡	伏・桃山南井伊賀東町	1/13~2/16	-0.96m以下, 明褐色砂泥の地山。	08F360	FD 349	14
伏見城跡	伏・京町六丁目49番1	2/9	-0.45mまで現代盛土。	08F464	FD 379	14
伏見城跡	伏・鶴島町〜豊後橋町 地先 (一般国道24号)	08/8/22~ 09/4/24	No 5 ; -1.7m以下, 褐色砂泥の地山。No 9 ; -1.07m, 時期不明の踏面。No 13 ; -1.02m以下, 明黄褐色砂泥の地山。No 17 ; 現代盛土層から紀 年層の染付筒瓦口が出土。本報告69ページ。	07F089	FD 175	14
伏見城跡	伏・桃山町三河 地	1/7~2/23	-0.3mまで現代盛土。	08F196	FD 343	14-15
伏見城跡	伏・桃山町本多上野107番, 108番	2/3	BM-0.43mまで現代盛土。	08F391	FD 371	15
伏見城跡	伏・桃山町本多上野18番3の一部	1/28	BM+0.85m以下, 明黄褐色細砂の地山。	08F459	FD 366	15
伏見稲荷	伏・深草蔵之内町	2/2・9・	-0.54m, 中世の包含層(平瓦)。	08S348	FD 370	23-4
大社境内	(伏見稲荷大社境内)	12・16・23	-0.64m以下, 浅黄褐色細砂の地山。			

長岡京地区 (NG)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
左京三条四坊十二町	伏・久我西坊内	3/26	-0.71mで灰オリーブ色砂泥を検出。遺構、遺物 は検出できず。	08NG528	NG 424	19
左京四条西坊三町	伏・羽東跡藤川町531, 536	2/26, 3/2・3, 5/22・25	No 1 ; BM-0.52m, 時期不明の幕込。-0.58m以 下, 明黄褐色粘土の地山。No 2 ; BM-0.6m, 平 安〜江戸の包含層(土師器類-中世, 須恵器類- 平安, 磁胎陶器類-江戸)。No 3 ; -0.27m, 平安の包含層(須恵器類)。試掘調査済地点。	08NG466	NG 389	19
左京四条四坊四町	伏・羽東跡藤川町741番地	3/3	-0.3mまで現代盛土。	08NG523	NG 395	19
左京三条坊十一・ 十二・十三・十四・ 十五町, 四坊一・ 二町	伏見区府道京都市口麻・納所屋敷〜 深本町 地内	08/11/4~ 09/8/18	-1.3m, 灰白色の掘地状堆積。	08NG194	NG 274	25-8

南桂川地区 (MK)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
中久世遺跡・ 下久世溝跡	南・久世殿城町469番地の一部	1/6・7	-0.16m。近世以降の包含層。	08S332	MK 339	22-2
上久世遺跡	南・久世高田町 久世高田第二公園 (仮称)建設予定地	08/6/11、 09/4/9	運開時、工事終了。	08S063	MK 082	26-5
近接地	西・大枝東長町 地先	2/6・10	-0.39m以下、オリーブ色砂泥の地山。	08S483	MK 375	26-6
福西古墳群	西・大枝東長町1-564、1-565	1/20	-0.23mまで現代盛土。	08S442	MK 357	26-6

Ⅱ 2009年 4～12月期(平成21年度)

平安宮(HQ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	面積
大蔵省	上・六軒町通中立亮上る西中筋町19	12/16	-0.3mまで現代盛土。	09K328	HQ 347	1
大蔵省	上・福寺通中立亮下る慶丸町170番地他	6/22	-0.26mまで現代盛土。	09K105	HQ 104	1
大蔵省	上・浄福寺通中立亮下る慶丸町182	6/24・25	-0.2mまで現代盛土。	09K081	HQ 111	1
大蔵省	上・千本通中立亮上る玉屋町41	8/21	-1.2mまで現代盛土。試掘調査済地点。	09K013	HQ 195	1
大蔵省	上・浄福寺通中立亮下る慶丸町169-13	10/5	-0.3mまで現代盛土。	09K299	HQ 259	1
大蔵省	上・浄福寺通一条下る東西後屋町166-2、167-15	12/16	-0.2mまで現代盛土。	09K372	HQ 348	1
主殿寮	上・中立亮通日暮東入新白水丸町462-7の一部、462-51の一部、462-13の一部、裏門通一条下る今新在家町206-5の一部、206-7、206-18、206-33	6/29、7/2	-0.66mで黒褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。試掘調査済地点。	09K041	HQ 119	1
主殿寮	上・一条通智恵光院西入南新在家町340-3	8/11・17	-0.1mまで現代盛土。	09K103	HQ 181	1
大蔵省	上・上長者町通智恵光院西入須賀町570番地の一部	11/13・16・27、12/2	BM+0.12m。近世の機瓦土坑。	09K288	HQ 313	1
大蔵省	上・七本松通仁和寺御道上る一番町107番地 仁和公園	8/24～26	-1.75m以下、黄褐色微砂の地山。	09K196	HQ 196	1
正親町	上・下長者町通七本松西入風鳴町222番地6	12/1	-0.3mまで現代盛土。	09K229	HQ 332	1
右近衛府	上・御前通下立亮上る三丁目東入三助町280番22	4/14	-0.25mまで現代盛土。	08K550	HQ 16	1
兼松原	中・兼松町西町173	12/16	-0.08m以下、オリブ色粘土の地山。	09K415	HQ 349	1
兼松原	上・七本松通下長者下る三番町286-5	4/10	巡回時、工事終了。	08K549	HQ 013	1
内蔵寮	上・千本通上長者町下る草堂前之町115-2、117、119、下長者町通千本西入六番町370	8/7・11	-1.13m。時期不明の落込。 -1.65m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	08K278	HQ 177	1
随殿寮	上・下長者町通浄福寺西入新御前町46-44-3	4/2	-0.4mまで現代盛土。	08K565	HQ 005	1
柴本	上・上長者町通裏門東入須賀町565番地の1	8/6	-0.35mまで現代盛土。	09K195	HQ 174	1
左近衛府	上・上長者町通裏門東入須賀町568-1	9/8	-0.4mまで現代盛土。	09K094	HQ 221	1
左近衛府	上・上長者町通裏門東入須賀町568-1	9/8	-0.3mまで現代盛土。	09K093	HQ 220	1
左近衛府	上・大宮通下長者町上る東地町624-3	9/14	-0.25m。近世以降の包含層。	09K204	HQ 230	1
左近衛府	上・大宮通上長者町東地町615-7	11/9・10・12	-0.46mで灰オリブ色砂泥の地山を切って時期不明の落込。	09K292	HQ 306	1
内蔵寮	上・出水通土屋町西入西神明町325-2、327-1	11/2	巡回時、工事終了。	09K330	HQ 295	1
右兵衛府	上・下立亮通七本松西入西東町335-5	6/29	BM-0.12mまで現代盛土。	09K101	HQ 116	1
右兵衛府	上・下立亮通七本松西入西東町336番地	9/28	-0.5mまで現代盛土。	09K228	HQ 245	1
真言院講掛地	中・兼松町中町30番4	10/20	-0.4mまで現代盛土。	09K238	HQ 279	1
南所	上・智恵光院通出水下る分銅町575	4/27	-0.3mまで現代盛土。	08K544	HQ 036	1
左兵衛府	上・日暮通下立亮上る天祥町585-4、585-7、日暮通下立亮上る西入分銅町574-1、574-2	4/17	BM-0.13mまで現代盛土。	08K552	HQ 026	1
東種院	上・下立亮通大宮西入淨田町610-1、612-3	8/5	-0.5mまで現代盛土。	09K068	HQ 173	1
西種院	上・中筋町486-76	8/21	-0.22mまで現代盛土。	09K201	HQ 193	1
左馬寮	中・西ノ京南町33-10	11/18	BM+0.49m。オリブ黒色粘土の層状堆積。	09K257	HQ 317	1
典薬寮	中・兼松通松下町4-12	8/19	BM+0.5m～+0.05mまで現代盛土。	09K123	HQ 180	1
典薬寮	中・兼松通松下町2-7	10/27	-0.3mまで現代盛土。	09K333	HQ 287	1
豊楽院	中・兼松町中町53-10	5/18	BM+0.05m。近世以降の包含層。	08K548	HQ 057	1
朝堂院	中・兼松通南町24-6	5/20	-0.65mまで現代盛土。	08K551	HQ 060	1
朝堂院	中・兼松通東町27番4(№2)	7/3	BM-0.31mで褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	09K169	HQ 123	1
朝堂院	中・兼松通東町27-7、27-17(5号地)	7/31	-0.4mまで現代盛土。	09K205	HQ 167	1
朝堂院	中・兼松通東町27-14(12号地)	7/31	-0.4m。近世以降の包含層。	09K206	HQ 163	1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
朝堂院	中・麻森廻東町	8/28	-0.2mまで現代盛土。	09K268	HQ 204	1
朝堂院	中・麻森廻東町	8/28	-0.3mまで現代盛土。	09K267	HQ 203	1
朝堂院	中・麻森廻東町	8/31	-0.15mまで現代盛土。	09K266	HQ 206	1
朝堂院	中・麻森廻東町(11号地)	9/28	-0.25mまで現代盛土。	09K309	HQ 246	1
朝堂院	中・麻森廻東町(3号地)	9/29	-0.2mまで現代盛土。	09K308	HQ 249	1
朝堂院	上・竹籠町通千本東入主税町1178番3	11/30	-0.45mまで現代盛土。	09K389	HQ 328	1
朝堂院	上・千本道二条下る麻森町854、856、856-2、856-3、中・麻森廻南町29-2、29-4、29-6	10/19・27	-0.86m以下、黄褐色粘土の地山。	09K282	HQ 276	1
朝堂院	上・千本道二条下る麻森町854の一部	10/30	-1.15mまで現代盛土。	09K329	HQ 293	1
大炊寮	上・丸太町東入羅屋町535-27	8/21	-0.25mまで現代盛土。	09K211	HQ 192	1
大炊寮	上・丸太町通黒門東入羅屋町535-116	4/15	-0.1mまで現代盛土。	09K009	HQ 022	1
宮内省	上・竹籠町通千本東入主税町1115-2	8/8	-0.4mまで現代盛土。	09K007	HQ 050	1
神祇官	中・二条通堀川西入二条城町541	7/9・13・15・22・28、8/3・4	№1；-0.37m、近世の包含層(丸・平瓦)。-0.5mで上面平坦な石を抽出。№3；-0.16m、中世の包含層(平瓦)。-0.22m、時期不明の包含層(瓦)。№4；-0.25m、江戸後期の包含層(染付陶)。-0.4m、近世の包含層(平瓦)。№5；-0.5m、時期不明の土坑(土師器、平瓦)。№6；-0.25m、近世以降の包含層。№7；-0.35m、時期不明の包含層。№8；-0.16m、平安の包含層(平瓦)。№9；-0.4m、時期不明の包含層(平瓦)。	20N083	HQ 134	1
陸揚寮	上・恵慈光院通丸太町下る主税町964	9/9・10	-3.0mまで現代盛土。	09K286	HQ 225	1

平安京左京 (HL)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊 六町	上・油小路通川の間に立売下る茨城町45の一部	12/7	-0.45mまで現代盛土。	09H296	HL 334	2
一条二坊 二町	上・黒門通下長者町下る吉野町689-2	8/17	-0.3mまで現代盛土。	09H174	HL 187	2
一条二坊 二町	上・黒門通下長者町下る吉野町689-3	9/14	-0.3mまで現代盛土。	09H124	HR 231	2
一条二坊 十町	上・油小路通出水上る大黒屋町49番地	4/13	-0.52mまで現代盛土。	08H509	HL 017	2
一条二坊 十二町	上・油小路通榎木町上る西薬辻町268	10/1	BM-0.11mまで現代盛土。	09H253	HL 251	2
一条三坊 一町	上・西側院通上長者町下る頓町～中長者町通新町西入仲之町 地先	8/20・25・31	-0.74m、時期不明の包含層(土師器)。	09H138	HL 191	3
一条三坊 六町	上・下立先通室町西入東立先町260-3、衣翻通出水下る常楽院町146-1	6/10・11・17	-1.15m以下、黄褐色泥砂の地山。	09H055	HL 092	3
一条三坊 十一町	上・下立先通鳥丸西入五町目町180-1、180-2、182-1	6/26・29、7/3・7	-1.12m、江戸後期の包含層(土師器皿、金属製品継ぎの管)。	09H080	HL 115	3
二条二坊 七町	上・猿樂通丸太町下る中之町507-6	8/5・6・11	№1；-0.77m、平安中期の包含層(土師器、黒色土師器)。-1.6m以下、褐色砂泥の地山。№2；-0.8mで平安前期の包含層(土師器)を切って平安中期の落込(土師器皿、須恵器鉢)。-1.4m以下、にぶい褐色砂泥の地山。№3；-1.05m・-1.18m、平安中期の包含層(土師器皿、輸入青白磁)2。	09H071	HL 172	2
二条二坊 十四町	中・下丸屋町450番地	6/15・17	BM-0.4m、江戸後期の包含層。	09H015	HL 097	2
二条二坊 十四町	中・油小路通竹屋町下る橋本町495番地	10/21	0m、近世以降の包含層。	09H300	HL 281	2
二条三坊 一町	中・梅屋町174番地の1 梅屋広場公園	12/14・15	-1.1m、近世の包含層。-1.67m、中世の集石遺構(土師器皿、焼締陶器常滑甕)。	09H383	HL 341	3
二条三坊 三町	中・笹屋通竹屋町下る亀屋町326番、326番の1の一部	6/8	-0.45mまで現代盛土。	08H497	HL 090	3
二条三坊 十三町	中・東屋町通二条上る真知堂町314-1、315	7/24・30、8/4	-0.75m、江戸末期の包含層。	09H082	HL 154	3
二条四坊 六町	中・高倉通真川上る福屋町736番	10/13・15	-0.2mまで現代盛土。	09H284	HL 269	3
二条四坊 十三町	中・御幸町通真川下る通徳町613-1・2	11/4~26	-1.1m、近世の包含層。	09H270	HL 297	3
二条四坊 十四町	中・御幸町通竹屋町下る松本町586	11/2	BM-0.14mで盛土を含む黒褐色砂泥を抽出。	09H148	HL 296	3

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
二条四坊十六町	上・京都御苑3	10/28	-0.75mまで現代盛土。	09H186	HL 289	3
三条一坊 二町	中・西ノ京橋町58、59の各一部	5/26	B _M +0.43~+0.07mまで現代盛土。	09H017	HL 067	2
三条一坊 四町	中・西ノ京南薬町20(一部)	6/2・3	-1.0m以下、黄褐色砂礫の地山。	08H575	HL 079	2
三条一坊 四町	中・西ノ京南薬町~西ノ京勸学館町地先	6/3~7/3	-0.68mで灰色粘質土の地山を切って平安の土坑(土師器皿、瓦)。	09H096	HL 081	2
三条一坊 八町	中・西ノ京式部町51-1、51-2、51-5	4/20~27	近世の石敷遺構を検出。本報告6ページ。	08H490	HL 027	2
三条二坊 二町	中・新小町道埋地上的雑物屋町209-1	8/26・27	No 1 ; -0.25m。室町の包含層(土師器皿、平瓦)。 -0.4m。鎌倉後半~室町の土坑(土師器皿)。No 2 ; -0.9m。平安中~後期の包含層(土師器皿、輸入白磁)。	09H146	HL 200	2
三条二坊 十町	中・油小路通押小路下る押油小路町238-1	4/16・17・20	No 1 ; -1.42m。土取穴と考えられる室町~桃山の土坑(土師器皿)。 -1.8m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。No 2 ; -1.4m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。発掘調査済地点。	06H105	HL 025	2
三条二坊十六町	中・小川通二条下る古城町346	9/28、10/8・9・13	No 2 ; BM-1.4m。中世以降の湿地状堆積(土師器、輸入白磁、木製品漆器類・加工木・曲物の底・箸)。No 3 ; BM-1.48m以下、褐色細砂の地山。	09H136	HL 247	2
三条三坊 六町	中・衣通溝御池下る長浜町158、161-2	10/23	-0.44m。近世以降の包含層。	09H294	HL 283	3
三条三坊 十町	中・龍地町地 地内	5/11、7/21	-1.1m。室町の包含層(土師器皿、須恵器)。	09H025	HL 052	3
三条三坊十五町	中・押小路通鳥丸東入西押小路町110-1	11/16・19	-1.1mまで現代盛土。	09H181	HL 314	3
三条四坊 七町	中・御所八幡町281	6/8・12	-1.6m。江戸後半の包含層。	08H510	HL 088	3
三条四坊 七町	中・坊町通押小路下る願屋町655番1、658番2	6/4・5・15・17~19・22	No 3 ; BM-1.1m。近世の包含層。-1.6m。室町の土坑(土師器、瓦器羽釜、焼締陶器類)。 -1.6m。鎌倉の落込(土師器皿、緑釉陶器、丸・平瓦)。-1.75m以下、にぶい黄色砂礫の地山。No 4 ; BM-1.1m。近世の土坑。-1.6mでオリブ黄色粘質土の地山を切って室町の土坑(土師器皿・椀、須恵器蓋、瓦器)。	08H447	HL 084	3
三条四坊十三町	中・御幸町通三条上る丸屋町331	11/5~16	-0.72mまで現代盛土。	09H331	HL 298	3
三条四坊十六町	中・二条龜屋町通西入る清明町674	6/29、7/3	-0.42m。江戸初期の包含層(輸入明仿付皿、施釉陶器唐津焼、施釉陶器美濃)。	07H436	HL 117	3
四条二坊 三町	中・四坊大宮町159	5/7・8・11	-0.3m。近世以降の包含層。-0.7m以下、黄褐色砂礫の地山。	08H555	HL 042	4
四条二坊十三町	中・爐橋山町481、下・傘鉦町80	11/6・10・12	No 2 ; -0.4m。江戸の焼土層。-0.65mで褐色砂礫の地山を切って室町の落込(土師器皿、瓦器羽釜、輸入青磁皿、焼締陶器唐津、丸瓦)。 No 3 ; -0.74m。時期不明の落込。-0.84m以下、灰黄褐色砂礫の地山。	09H167	HL 300	4
四条四坊 三町	中・錦小路通東院東入西魚屋町601番	9/18・24・28、10/7	-0.45m~-1.0m。近世以降の包含層。-1.4m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	09H177	HL 238	5
四条四坊十六町	中・寺町通三条下る永楽町241、242、243-1、六角通船屋町東入八百屋町113、115-1、115-2、115-3、御幸町通三条下る海老屋町333	9/4、10/6・9・14・19	-0.56m。時期不明の路面。東京器大位に位置する。	08H411	HL 214	5
五条一坊十一町	中・壬生相合町~下・壬生川通仏光寺下る坊門町 地先	5/25~27、6/1	-1.11mでオリブ褐色細砂を検出。遺構、遺物は検出できず。	09H052	HL 065	4
五条一坊十三町	中・壬生相合町 地先	10/19~11/10	-0.3mで黒褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検出できず。	09H324	HL 274	4
五条一坊十四町	下・高辻通大宮西入坊門町334番地	6/11・23~25	No 1 ; -0.37m。室町の包含層(土師器皿)。 -0.52m。室町の土坑(土師器皿、須恵器蓋)。 -0.72m。時期不明のピット。 No 2 ; -0.5m。近世以降の包含層。-1.12m以下、オリブ褐色砂礫の地山。	09H038	HL 094	4

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊 六町	下・高辻通堀川西入富永町671、675-4	5/12～15	№1；BM-1.33m。平安中期～室町の包含層（土師器Ⅱ）。-1.58m以下、明褐色砂泥の地山。№2；BM-0.82mで平安前～中期の包含層（土師器Ⅱ、赤地陶器片、黒色土器）を切って平安後期～室町の土坑（土師器Ⅱ、須恵器片、瓦器片）。-1.3m以下、褐色砂泥の地山。№3；BM-1.1m以下、褐色砂泥の地山。№4；BM-0.77m。平安前期の包含層（土師器Ⅱ）。	09H033	HL 054	4
五条二坊十六町	下・四条通袖小路東入傘鉾町53、55、57、57-2・3	10/15・16	-0.22m。近世以降の包含層。	09H304	HL 272	4
五条三坊 一町	下・綾小路通西洞院東入矢田町～ 下・四条通西洞院東入郭区山町 地先	9/24～11/10	-0.95mまで現代盛土。	09H285	HL 241	5
五条三坊 十町	下・室町通仏光寺上る白夷天町522-1、 仏光寺通室町東入灯籠町245番	9/10・14、 10/21・23	№1；-1.8m。平安～室町の包含層（黒色土器、土師器Ⅱ、須恵器片、瓦器片、輸入青磁）。№2；-0.7m。近世以降の包含層。№4；-3.2m以下、暗灰黄色細砂の地山。	08H149	HL 227	5
五条三坊十三町	下・烏丸通松原上る東側因幡堂町 699番地	6/23・25・ 26・29	№1；-0.62m。近世以降の包含層。№2；-0.85m。江戸の旧築地堆積（土師器Ⅱ）。	09H062	HL 106	5
五条三坊十四町	下・仏光寺通烏丸東入上脚町333番地	7/27・ 28・30	№1；-1.0m。江戸中期の包含層（肥前産陶器片、磁石）。-1.5m。飛鳥～奈良の包含層（土師器Ⅱ）。№2；-1.34m。時期不明の土坑。№3；-0.55mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切って時期不明のピット（土師器Ⅱ）。	08H241	HL 155	5
五条四坊 二町	下・綾小路通東洞院東入神明町243 地3第	10/27～11/2	-1.75mまで現代盛土。	09H246	HL 286	5
五条四坊十一町	下・柳馬場通仏光寺下る万里小路町179	9/10・14	-1.5m。室町の包含層（土師器Ⅱ、輸入青磁）。	09H155	HL 229	5
五条四坊十一町	下・柳馬場通仏光寺下る庫金町157	9/10～18	-0.8m。近世の湿地状堆積。	09H154	HL 228	5
五条四坊十二町	下・船場通高辻下る龍蔵町224番地	10/27～29	-0.85m。江戸前期の包含層（土師器Ⅱ、伊万里青磁Ⅱ）。-1.75m以下、暗褐色砂泥の地山。	09H259	HL 285	5
五条四坊十六町	下・寺町通四条下る貞安前町588番地	4/2・8	-2.1mで暗オリーブ色砂泥の地山を切って室町の土坑（土師器Ⅱ、赤地陶器片、石製品類）。	08H002	HL 006	5
六条一坊 五町	下・中堂寺欄田町2-1、2-8、24-4、 25-6	11/6	-0.3mまで現代盛土。	09H336	HL 302	4
六条一坊 六町	下・中堂寺壬生川町12番9地	4/7・8・13	-0.9m以下、オリーブ褐色砂泥の地山。	07H598	HL 011	4
六条三坊 二町	下・万寿寺通西洞院東入月見町57-1、 59	11/19	-1.06m。室町の包含層（土師器Ⅱ）。-1.18m以下、褐色細砂の地山。	09H192	HL 318	5
六条三坊十一町	下・榎ヶ井通五条上る小泉町～ 五条通烏丸西入腰御町 地先	7/23	-0.7mで黒褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は抽出できず。	09H179	HL 152	4・5
六条四坊 四町	下・問之町通五条下る大津町8	7/13～17	鎌倉の包含層を抽出。本報告67ページ。	08H566	HL 140	5
六条四坊 六町	下・五条通烏丸東入松屋町～ 五条通船場町東入本覚寺前町 地先	7/23～12/4	-0.64mまで盛土のみ。	09H180	HL 153	5
七条一坊 五町	下・真馬場町30-23	8/17・19	№1；-0.3m。近世の包含層。-0.5mでにぶい黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の幕込。№2；-0.5m以下、褐色砂泥の地山。	09H092	HL 186	6
七条二坊十二町	下・袖小路通七条上る東屋町167・ 168番地	10/30、 11/13・ 16・18・ 20・26	№3；-1.0m。平安末期～鎌倉の包含層（土師器Ⅱ、須恵器片、輸入白磁壺、平瓦）。№5；-1.15m。平安の包含層（土師器Ⅱ、須恵器片）。-1.7m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	09H260	HL 292	6
七条三坊 四町	下・七条通新町西入夷之町695、695-2	6/29	-0.95m。近世以降の包含層。	09H005	HL 118	7
七条三坊十四町	下・東洞院通正面上る恒屋町269-1、 269-2。下置屋町東洞院西入染町85-3	12/21・22	-0.9m。近世の包含層。	09H419	HL 356	7
七条四坊 三町	下・下味放屋町通問之町西入西玉町3 283-4、283-5、294-3、312-1	8/24～9/1	平安前期～中期の幕込を抽出。本報告68ページ。	09H210	HL 197	7
七条四坊 七町	下・富小路上祝殿馬場上る唐物町440	10/23	BM-0.17mまで現代盛土。	09H307	HL 284	7
七条四坊十一町	下・土手町通正面上る総蔵町396番地	7/13・15・ 17・21	№2；-0.47m。時期不明の幕込。№3；-0.85m。近世以降の幕込。	09H006	HL 141	7
七条四坊十五町	下・木堀町通正面上る龍蔵町188	5/21～6/1	-0.8m。オリーブ灰色粗砂の旧築地堆積。	08H486	HL 063	7
八条一坊十五町	下・歡喜寺町35-1地	4/15	-1.04mまで現代盛土。	09H545	HL 018	6

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
八条二坊 三町	下・猪熊通並小路下二丁目南東町176-1、178-1	6/8・9	平安後期の井戸を検出。本報告10ページ。	09H072	HL 087	6
八条二坊 九町	下・七条通並小路西入土橋町204	7/31、 8/5・7	№1；-0.5m、時期不明の包含層（青磁鉢）。 -0.9m、室町の包含層（土師器Ⅲ）。-1.2m、 平安中～後期の包含層（土師器Ⅲ）。-1.35m以下、 暗灰黄色砂礫の地山、№2；-1.5m、平安 中期の包含層（土師器Ⅲ）。	09H143	HL 164	6
八条二坊十五町	下・木津屋橋通並小路東入南町576-1、577	7/8	-1.0mまで現代盛土。	09H126	HL 131	6
八条三坊 八町	下・七条通新町東入夷之町723-2	6/30～7/3	-2.0mまで現代盛土。	08H554	HL 120	7
八条四坊 六町	下・下之町56番地	11/9	-1.3m以下、にぶい黄褐色砂礫の地山。	08H424	HL 304	7
八条四坊 十町	下・上之町町地内	4/23～5/19	-0.98m以下、灰オリブ色砂礫の地山。	08H511	HL 032	7
九条一坊 五町	南・八条原町、四ツ塚町地内	11/27	-0.58m、近代以降の包含層。-0.82m、褐色 粘土の礫地状堆積。-1.35m以下、黄灰色砂礫の 地山。	09H247	HL 327	6
九条一坊十六町	南・大宮通八条下る九条町621-6	4/21～ 5/8	№2；-0.37m、時期不明の包含層（土師器）。 №3；-0.35m、室町の包含層（土師器Ⅲ）。	09H009	HL 029	6
九条一坊十六町	南・八条通大宮西入九条町621番38、621番37	5/29	-0.3mまで現代盛土。	09H026	HL 073	6
九条二坊 五町	南・西九条川原城町28	12/21	-0.15mまで現代盛土。	09H400	HL 353	6

平安京右京 (HR)

道 路 名	所 在 地	調査日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
北辺二坊 五町	北・大將軍川横町3番	4/6	-0.94mまで現代盛土。	07H490	HR 009	9
北辺二坊 四町	北・大將軍白梅町43番	9/24・28	-0.27mで灰黄褐色砂礫を検出。遺構、遺物は検 出できず。	09H251	HR 240	8
一条二坊 三町	上・上ノ下立売通御前西入大宮町 488-2・3・4、488-6の一部、483-1 の一部	4/23・28・ 30、5/1・ 4・8	№2；-0.5m～-0.7m、時期不明の包含層（土 師器Ⅱ）。№3；-0.94m以下、オリブ褐色砂 礫の地山。№4；-0.6m、中世の包含層（瓦器、 丸瓦）。-0.8m、鎌倉の包含層（須恵器Ⅱ、互 脚明登、丸・平瓦）。-1.25m以下、にぶい黄褐 色砂礫の地山。	08H397	HR 034	9
一条二坊 七町	上・堀川町527-3	9/29	-0.55mで黄褐色微砂を検出。遺構、遺物は検出 できず。	09H191	HR 250	9
二条二坊 一町	中・西ノ京町1-42、1-43、1-44、 1-23	9/9	掘削深-0.2mまで盛土のみ。	09H237	HR 226	9
二条四坊 六町	右・太秦安井高塚町6番6の一部	5/25～29	-0.25m、時期不明の包含層（土師器、須恵器）。	09H059	HR 066	8
三条一坊 三町	中・西ノ京新堀町3-14及び2-15	6/10～7/7	-1.45m以下、オリブ褐色砂礫の地山。	09H016	HR 093	9
三条一坊 五町	中・西ノ京小倉町3番地	10/13～19	-1.1m以下、黄褐色砂礫の地山。	09H168	HR 268	9
三条一坊 八町	中京区西ノ京東池町17-51	10/5・9	-0.1m、近世の落込（土師器、平瓦）。	09H241	HR 258	9
三条一坊十町	中・西ノ京東月光町32番地19地	7/13・15	-0.86m以下、明赤褐色砂礫の地山。	09H065	HR 142	9
三条三坊十三町	中・西ノ京島ノ内町～西ノ京島原町 地先	11/24～12/21	-1.0mまで現代盛土。	09H371	HR 324	8
三条四坊 九町	右・太秦安井西沢町2番地の一部	7/9・13	-0.68m以下、黄灰色粘土の地山。	09H030	HR 135	8
三条四坊十一町	右・山ノ内互反田町～山ノ内大町 地先	5/11～6/15	-0.9m以下、にぶい黄色粘質土の地山。	09H051	HR 053	8
三条四坊十二町	右・山ノ内西八反田町4番4、5番4の一部	6/3～5	-0.3mまで現代盛土。	09H073	HR 082	8
四条三坊 九町	右・西院金輪町8番地、13-1、13-2、 13-4、10-16、国有地（未登記）	12/14・17	-1.0m、時期不明の落込。	09H028	HR 342	10
四条三坊十一町	右・西院春栄町39番地地	4/15・22・ 24	№1；-1.53m以下、明褐色砂礫の地山、№2； -1.1m以下、黄褐色砂礫の地山。試掘調査済地点。	08H198	HR 023	10
四条三坊十二町	右・西院乾町75番の一部、78番、 82番、82-1番	12/21・ 22・24	-0.9mで灰オリブ色砂礫を検出。遺構、遺物 は検出できず。	09H405	HR 357	10
五条一坊 四町	中・壬生松原町19-2	12/16	-0.35mまで現代盛土。	09H361	HR 345	11
五条一坊 八町	中・壬生高橋町24-8、24-9	11/30、 12/2・4	№1；-0.55m以下、暗オリブ色細砂の地山。 №2；-0.45m、近代以降の包含層。 -0.63m以下、褐色粗砂の地山。	09H149	HR 329	11
五条二坊 六町	中・壬生西柳町19	11/24～ 12/24	-0.2mで黄灰色砂礫の地山を切って時期不明の 土状。	09H029	HR 323	11

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
五条二坊十二町	右・西院平町3番地	4/27~5/21	-0.8m以下、黄褐色微砂の地山。	08H520	HR 037	11
五条二坊十二町	右・西院平町36	6/1	-0.32mまで現代盛土。	09H011	HR 076	11
五条三坊 三町	右・西院矢掛町10番1	8/17・19・24	-0.32m、時期不明の包含層（土師器）。 -0.72m以下、明褐色砂泥の地山。	08H573	HR 185	10
五条三坊十二町	右・西院久田町~西院太田町	5/18・19・21・22	No 1 ; -1.2m、オリーブ黒色粘土の層状堆積。 No 2 ; -0.9m、時期不明の包含層（土師器）。 -1.15m以下、褐色砂泥の地山。	09H074	HR 058	10
六条一坊十五町	下・中堂寺庄ノ内町51-1、51-3、51-7の一部、76、77の一部	6/24~30	-1.3m以下、褐色砂泥の地山。	08H425	HR 112	11
六条二坊 三町	下・中堂寺薬田町 他 地内	6/5~7/22	No 2 ; -0.4m、近代の包含層。 -0.55m以下、明黄褐色粘土の地山。 No 4 ; -0.25m以下、灰オリーブ色粘土の地山。	08H501	HR 085	11
六条二坊 六町	右・西院南高田町~下・西七条赤社町地内	10/13~11/10	-0.23m以下、褐色粘土の地山。	09H273	HR 267	11
六条三坊 一町	右・西院西町18-4、18-5、20-1	7/7・9	No 1 ; -1.0m以下、灰褐色微砂の地山を検出。 No 2 ; -0.9m以下、にぶい褐色粘土の地山を検出。	08H457	HR 130	10
六条四坊 五町	右・西京極東大丸町26番の一部	9/18	-0.9m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	09H182	HR 239	10
七条一坊 七町	下・朱雀分水町78番地	6/25~7/3	-0.05m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	08H547	HR 114	13
七条一坊十四町	下・西七条南町10	6/24	-0.9m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	09H112	HR 113	13
七条二坊十三町	下・西七条北月院町78番38	7/2	巡回時、工事終了。	08H489	HR 122	13
七条三坊 二町	下・西七条名倉町 地先	4/23~5/25	-0.63m、暗オリーブ灰色粘土の層状堆積。	09H031	HR 033	12
七条三坊 九町	右・西京極北庄境町21	7/8・9・13・15・17・22	No 1 ; -1.9m、時期不明の井戸（土師器）。 No 3 ; -1.35m以下、灰オリーブ色砂泥の地山。 No 4 ; -1.05m、時期不明の包含層（不明土器）。 -1.4m以下、灰オリーブ色砂泥の地山。 No 5 ; -0.77m、時期不明の包含層（土師器）。 -0.9m以下、黄褐色砂泥の地山。	06H035	HR 132	12
八条一坊 八町	下・朱雀裏畑町58番地	10/9・13・15	-0.5m、時期不明の土坑（土師器、平瓦）。 -0.73m以下、にぶい黄褐色粘土の地山。	09H256	HR 263	13
八条二坊 八町	下・西七条南西野町39番1の一部、43番の一部	7/6・8・9・13・15	No 2 ; -0.5mで暗緑灰色粘土を検出。この層のあげたから平安前期の土師器皿・壺、須恵器壺・鉢、緑釉陶器、黒色土師小壺、丸・平瓦を採集。 No 3 ; -0.21m、近世以降の包含層。 -0.36m、室町の包含層（土師器皿）。	09H090	HR 124	13
九条一坊 十町	南・唐橋門脇町36番12	5/28、6/1	-0.15m、平安の包含層（土師器、須恵器壺、丸・平瓦）。	09H023	HR 071	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町69番地	7/17~29	EBM-0.5mまで現代盛土。試掘調査済地点。	20N077	HR 146	13
九条一坊十三町	南・唐橋西寺町69番地	8/11・12	-0.25mまで現代盛土。	21C025	HR 183	13
九条三坊 四町	南・吉祥院中島町16-2	9/14	-0.4mまで現代盛土。	09H069	HR 232	12
九条四坊 七町	南・吉祥院宮ノ西町28番、37番	7/31、8/5	-1.02m以下、にぶい褐色砂泥の地山。	09H095	HR 165	12

洛北地区 (RH)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
公家町遺跡	上・京都御苑3番地の一部	7/28~12/9	東西方向の石垣溝を検出。丸川遺成『公家町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所調査報告2009-5に掲載。	08S164	RH 158	20-1
御土屋跡・寺町旧城	北・出雲伏町 地先	4/30~6/4	No 3 ; -0.39m、褐色砂泥の落ち込。 No 4 ; -0.2m、にぶい黄褐色砂泥の落ち込。 No 6 ; -0.23m、褐色砂泥の落ち込。	09S020	RH 040	20-1
寺町旧城	上・寺町通今出川上る表町31-1、31-4	6/15・17	-0.85m、江戸後期の包含層。 -1.7m以下、にぶい黄褐色砂泥の地山。	08S471	RH 099	20-1
寺町旧城	上・寺町通今出川上る表町27、28-1	9/4	-0.48m、時期不明の包含層。	09S156	RH 213	20-1
寺町旧城	上・高瀬寺町355-10・28	10/19~12/1	-0.2mまで現代盛土。	09S320	RH 275	20-1
上京遺跡・室町殿跡（花の御所）	上・室町通今出川上る薬山南半町240番	9/8・9・14	No 1 ; -0.7m、室町の包含層（土師器灯明皿、丸瓦）。-1.0m、時期不明の包含層（土師器皿、焼締陶器片、埴土塊）。No 2 ; -1.5m・-1.8m、時期不明の包含層（瓦器壺、焼締陶器）。 2. 出土遺物は共に2次焼成を受けている。	09S107	RH 219	20-1

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
相国寺旧境内	上・室町通上立売上東入柳四子町339, 339-3, 上立売通室町東上立売東町46, 46-1の一部	7/30	BM-0.47m, 江戸末期の包含層(施釉陶器蓋, 染付皿・碗, 不明土製品)。-0.92m~-1.4m, 江戸後期の包含層(土師器Ⅱ)2。-1.53m, 時期不明の落込。-1.57m以下, 明黄褐色砂砂の地山。	09S091	RH 162	20-1
御土居跡 今宮神社 大徳寺旧境内 大徳寺旧境内	北・紫竹大門町〜紫竹竹殿町地先 北・紫野今宮町94 北・紫野大徳寺町 北區紫野大徳寺町83-1	4/1~6/22 8/3・5 7/1 9/9・10・24	-0.5m以下, 黄褐色砂砂の地山。 -1.7m以下, 褐色粘質土の地山。 -0.33m以下, 黄褐色砂砂の地山。 黄褐色層床下で, 建物地層に関する遺構と石列を検出。本報告12ページ。	08S568 09S187 09S157 09S079	RH 002 RH 169 RH 121 RH 222	20-2 20-3 20-3 20-3
植物園北道跡 植物園北道跡	北・上賀茂向舞手町9 北・上賀茂地端町	5/7 5/20・22・25~27, 6/1・8~12	BM-0.06mまで現代盛土。 №6:-0.48m, 古墳時代後期の落込(土師器Ⅱ)。 №7:-0.56m, オリーブ褐色砂砂の地山を切って時期不明の落込。	08S556 09S063	RH 043 RH 061	21-1 21-1
植物園北道跡	在京下区下鴨北園町5-6	7/10・13・15・16	№1:-0.28mで暗褐色砂砂を検出。 №2:-0.5mで時期不明の包含層(土師器)を検出。 №3:BM-0.27mで幅0.73m, 深さ0.26mの土坑(土師器Ⅱ)を検出。	09S135	RH 137	21-1
植物園北道跡 上京道跡 上京道跡 上京道跡	北・上賀茂高舞手町12 上・大北小路東町481番地 上・堀川通上立売上西入山名町807番地 上・大宮通寺ノ内上る前之町448, 450, 452	9/1~4・7 4/1・2 4/15・16・20 10/1・9・14	縄文晩期の包含層と土坑を検出。本報告20ページ。 -0.45mまで現代盛土。 -1.3mでオリーブ褐色砂砂を検出。遺構, 遺物は検出できず。	09S199 08S539 08S493	RH 210 RH 001 RH 024	21-1 23-1 23-1
上京道跡	上・大宮通寺ノ内上る前之町448, 450, 452	10/1・9・14	№1:-1.62m, 近世の包含層(施釉陶器天目碗, 木製品動物の意)。-1.86m, 時期不明の落込。 №2:-0.8m, 中世の包含層(土師器, 輸入蜀輪陶器蓋)。-1.1m, 時期不明の包含層(土師器)。-1.25m以下, 黄褐色粘土の地山。	09S178	RH 255	23-1
上京道跡 聚楽第跡 御土居跡 香隆寺跡 特別史跡 特別名勝處宛寺(金閣寺)庭園	上・一条通大宮西入下石橋南半町39-1 北・衣笠見町20-1他計4棟 北・等持院東町53 北・金閣寺町1番地	9/9・14 8/6 12/8~24 8/12	-0.62m, 近世以降の包含層。 -2.5mまで現代盛土。 -0.6m以下, 黒色粘土の地山。 -0.19m, 時期不明の盛地層。	09S102	RH 224	23-1
八幡古墳群 八幡古墳群 八幡古墳群 八幡古墳群	左・岩倉幡枝町535-4 左・岩倉幡枝町601-78, 540-13 左・岩倉幡枝町 保衛地25-4 左・岩倉幡枝町535-6, 601-76, 601-77, 601-33	9/16 11/26 12/4 12/16	-0.7mまで現代盛土。 巡回時, 掘削終了。 -0.17m以下, 明黄褐色砂砂の地山。 -0.2mまで現代盛土。	09S262 09S358 09S366 09S352	RH 234 RH 326 RH 333 RH 352	24-2 24-2 24-2 24-2
本山古墳群 大宮北山ノ 新瓦窯跡 大宮北山ノ 新瓦窯跡	左・岩倉幡枝町347番地 北・大宮南山ノ前町5 北・大宮北山ノ前町27	7/10 9/9~10/19 10/20・21	BM-0.01m以下, ぶい黄色砂砂の地山。 -0.4m以下, 黄褐色砂砂の地山。 -0.15mでオリーブ褐色砂砂を検出。遺構, 遺物は検出できず。	09S076 09S231 09S275	RH 136 RH 223 RH 278	24-2 24-3 24-3

太秦地区(UZ)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
井戸ヶ尻遺跡	右・太秦井戸ヶ尻町18-32, 18-31, 18-19	8/11・18	-0.43m以下, オリーブ灰色砂砂の地山。	09S141	UZ 182	16
御所ノ内町遺跡	右・太秦堀ノ内町32番地7, 32番地17, 32番地23	8/21・25・31	№1:-0.14m, 時期不明の包含層(土師器)。-0.73m以下, 明黄褐色砂砂の地山。 №2:-1.1m以下, オリーブ褐色砂砂の地山。	09S183	UZ 194	16
上ノ段町遺跡 常盤仲之町遺跡 広隆寺旧境内	右・太秦雑子ヶ辻町35番8 右・太秦錦岡町9番の9の一部	5/1 8/25	-0.8mまで現代盛土。 -0.75mまで現代盛土。	08S646 09S193	UZ 041 UZ 198	16 16

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
常盤仲之町遺跡・ 広隆寺境内	右・大森東條町 地内	7/13・ 14・16・ 23・27	No 3 ; -0.24m. 時期不明の土坑 (土師器、平瓦)。 -0.3m以下、明褐色砂泥の地山。 No 4 ; -0.3mでオリブ褐色砂泥の地山を切っ て時期不明の土坑 (土師器)。 -1.22mまで現代盛土。	03S294	UZ 139	16
常盤東ノ町古墳群・ 村ノ内町遺跡	右・常盤村ノ内町1番地3、2番地12	5/26・28、 8/19	-1.9mまで現代盛土。	09S049	UZ 066	16
森ヶ東瓦窯跡	右・大森森ヶ東町 地先	12/9	-1.8mまで現代盛土。	09S394	UZ 340	16
仁和寺院家跡	右・宇多野長尾町11-5	12/14	-1.8mまで現代盛土。	09S357	UZ 343	16
清水山古墳 村ノ内町遺跡	右・大森松本町7-23、42-16、5-102 右・常盤北森町2番3、2番5	8/26 8/19~21	-0.3mまで現代盛土。 No 1 ; -0.5mでふい黄色粘土の地山を切って時 期不明の土坑。No 3 ; -0.5mで褐色粘土の地山を 切って古墳後期の土坑 (土師器、浜恵器杯身)。 No 4 ; -0.41mで褐色粘土の地山を切って時期不 明の土坑。	08S028 09S056	UZ 199 UZ 190	16 16
多蔵町遺跡	右・太宰壺ヶ内町 地先	6/15~17 19・26	-0.5mで明黄褐色粘土を抽出。遺構、遺物は検 出できず。	09S122	UZ 098	16
大森馬場町遺跡	右・大森宮ノ前町1-4	7/29・30	-0.5m以下、褐色砂泥の地山。	09S173	UZ 160	16
嵯峨遺跡	右・嵯峨天龍寺南門町	4/13~6/11	-2.1mまで現代盛土。	08S480	UZ 019	21-2
嵯峨遺跡	右・嵯峨二院門前北中院町2-7	11/18・ 20・27	-0.3mで明黄褐色砂泥の地山を切って高町の落 込 (土師器皿、埴土)。試掘調査地点。『京 都市内遺跡試掘調査報告 平成20年度』に掲載。	08S026	UZ 316	21-2
嵯峨北堀町遺跡・ 嵯峨遺跡・ 宝鏡寺境内	右・嵯峨北堀町他 地内	5/29~9/1	No 1 ; -0.45m以下、褐色砂泥の地山。 No 2 ; -0.3m. 飛鳥の包含層 (須恵器甕)。 -0.6m以下、明黄褐色粘土の地山。 No 6 ; -0.3m以下、黄褐色粘土の地山。	08S499	UZ 074	21-2
史跡・名勝嵐山	右・嵯峨天龍寺芒ノ馬場町66番地	7/29	-0.85m~-1.13m. 室町の包含層 (土師器、灰 釉陶器古瀬戸輪花鉢、焼酎海苔肥前輪鉢、平瓦 3。あげ土から巴文軒丸瓦、丸瓦 (室町)、土 師器皿、壺丸瓦 (江戸) を採集。	20N080	UZ 161	21-2
鳥居本古墳群	右・嵯峨鳥居本北代町21-1、21-2、 21-3、22-1	6/23・ 26・30	-1.4m以下、明黄褐色砂泥の地山。	09S024	UZ 108	21-2

北白川地区 (KS)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
岡崎遺跡・ 延勝寺跡	左・岡崎成勝寺町1-8	7/21、8/5・ 18・20・21	-1.5m. 平安末期~鎌倉の包含層 (土師器皿、 丸瓦)。	08R476	KS 147	17
岡崎遺跡・ 法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町113-1	4/7・8	-0.4mまで現代盛土。	09R008	KS 012	17
岡崎遺跡・ 法勝寺跡	左・岡崎天町 地先	7/6	-0.7m. 近世の包含層 (近世瓦)。	09R145	KS 126	17
岡崎遺跡・ 白河御区跡	左・岡崎福成町27	4/22、5/15、 6/3・4	No 1 ; -0.9m. 鎌倉後期の包含層 (土師器皿)。 -1.1m以下、黄褐色砂泥の地山。 No 2 ; -0.9m. 江戸後期の包含層。 -1.2m以下、黄褐色砂泥の地山。	06S538	KS 031	17
白河南殿跡	左・二条通川東入上る石原町281-3	5/26・28	No 2 ; -0.88m. 近世以降の包含層。 -1.04m. 時期不明の包含層 (土師器)。	08R479	KS 069	17
白河南殿跡	左・聖徳院東寺領町 地先	7/6・7	-0.7mまで現代盛土。	09R131	KS 126	17
白河南殿跡	左・聖徳院蓮華蔵町 地先	7/7・8	-1.7mで淡黄色粗砂を抽出。遺構、遺物は検出 できず。	09R130	KS 129	17
白河御区跡	左・岡崎入江町8番地他	7/31	-0.4m. 近世以降の包含層。	09S162	KS 166	17
北白川鹿寺 一乗寺西園町7-1	左・北白川山田町65番3 左・一乗寺西園町7-1	11/9・26 9/16・17	巡回時、工事終了。 BM+0.39m. 時期不明の包含層。	09S340 09S188	KS 305 KS 235	17 24-4
修学院月輪寺 遺跡・月林寺跡	左・修学院月輪寺町11-1、21、 辻田町8-6、17	10/1	-0.5m以下、ふい黄褐色粗砂の地山。	09S217	KS 254	24-5

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
法成寺跡・ 御土居跡・ 寺町旧城	上・新島丸宮神口下る新島丸町～ 荒神口通町東入覚神町 地先	5/15～ 6/12	No.4 ; -0.4m～-0.8m. 時期不明の層面及び墓 地層。 No.10 ; -0.65m以下、オリブ褐色泥砂の地山。	09S064	KS 055	24-6

洛東地区 (RT)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
舞土居跡	中・河原町通娘崎下る塩屋町330、 331	4/27	-0.55mまで現代盛土。	08S571	RT 038	18
舞土居跡	中・河原町通三条下る二丁目山崎町 235、237	10/13	-6.5mまで現代盛土。	09S248	KT 262	18
四条道溝跡・ 寺町旧城 清水寺境内	中・新京極通四条上る中之町569番3他	5/7～6/2	中世の埋没群を検出。本報告32ページ。	08S361	RT 044	18
法住寺康跡 法住寺殿跡 法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	東・今無野北日古町地 地内 東・三十三間堂町642、657 東・馬町造妙法院北前跡法院前側町 424-9	4/10・ 15・17 5/28～6/18 9/25 6/15～17	-1.3mで灰色細砂の地山を切って時期不明の東 西方向の石垣。 -1.15mまで現代盛土。 -0.9mまで現代盛土。 方広寺の整地層を検出。本報告38ページ。	08S535	KT 015	18
法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	東・茶屋町527	6/5、7/1・ 2・6	平安後期の溝・土坑、方広寺の整地層を検出。 本報告41ページ。	09S019 08S331 09S116	KT 072 KT 243 KT 100	18 18 18
六波羅政庁跡・ 方広寺跡 中 匠造跡	東・茶屋町527番11 山・東野舞台町97-63 (11号地)	11/10 5/8	B.M.+0.58～+0.13mまで現代盛土。 -0.8mでオリブ黒色砂泥を検出。遺構、遺物 は検出できず。	09S345	KT 307	18
中 匠造跡	山・勧修寺西金ヶ崎294番	6/1	-0.3mまで現代盛土。	09N002	KT 077	23-3
中 匠造跡	山・勧修寺東金ヶ崎20-2	6/18	-0.2mまで現代盛土。	09N097	KT 102	23-3
中 匠造跡	山・東野結野打越町8-31	10/9	-0.28m以下、にぶい黄褐色泥土の地山。	09N279	KT 264	23-3
中 匠造跡	山・勧修寺東金ヶ崎50番	10/20・22	B.M.-0.39mまで現代盛土。試掘調査済地点。	09N234	KT 280	23-3
中 匠造跡	山・東野森野町51-1	11/6～15	B.M.-0.29mまで現代盛土。試掘調査済地点。	09N124	KT 299	23-3
中 匠造跡	山・勧修寺西栗橋野町232、233	11/18	-0.3mまで現代盛土。	09N349	KT 315	23-3
法興院跡・ 寺町旧城	中・新橋大町通竹屋町上る西茶室町187	8/6・7・11	-1.0m. 暗褐色砂礫の氾濫状堆積。	09S085	KT 176	24-7
旭山古墳群	山・上花山地山町19-3	8/27	-1.1mまで現代盛土。	08S542	KT 201	25-2
旭山古墳群	山・上花山地山町19-3	10/9	-1.6mまで現代盛土。	09S175	KT 265	25-2
旭山古墳群	山・上花山地山19番3	10/29	-0.76mまで現代盛土。	09S127	KT 290	25-2
元慶寺跡	山・北花山寺内町17-5	12/16	-0.3mまで現代盛土。	09S341	KT 351	25-2
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町33番66	7/22	-0.3mまで現代盛土。	08S474	KT 151	25-3
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町38番6	8/18	-0.9m以下、暗灰黄色砂礫の地山。	09S190	KT 189	25-3
山科本願寺南院跡	山・音羽伊勢町38-8	9/7	-0.13mまで現代盛土。	09S220	KT 217	25-3

鳥羽地区 (TB)

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町98-1	7/21	B.M.-0.1mまで現代盛土。	09T098	TB 148	22-1
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町 地先	8/4～11	-0.68m. 暗褐色灰色砂泥の層状堆積。	09T208	TB 171	22-1
鳥羽離宮跡	伏・中島鳥羽離宮町66、67	10/1	B.M.-0.02-mまで現代盛土。	09T287	TB 253	22-1
鳥羽離宮跡	伏・竹田中内畑町134-2	10/5	-0.16mまで現代盛土。	09T222	TB 257	22-1
鳥羽離宮跡	伏・中島中道町地先	10/30-11/4	-0.7m. 暗オリブ灰色砂泥の層状堆積。	09T342	TB 291	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・竹田小瀬ノ内町67番	12/8～14	-1.1mまで現代盛土。	09T347	TB 337	22-1
鳥羽離宮跡・ 鳥羽遺跡	伏・竹田中内畑町86	4/10	-0.82m. 灰オリブ色砂泥の層状堆積。	08T467	TB 014	22-1

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島秋ノ山町124	5/21	-0.2mまで現代盛土。	09T054	TB 064	22-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島堀廻町5番地、6番地	5/26	BM-0.35mまで現代盛土。	09T057	TB 070	22-1
鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏・中島堀廻町138	8/27	BM-0.12mまで現代盛土。	09T144	TB 202	22-1
唐橋遺跡	南・吉祥院清水町38	9/1・2	-0.88m、暗黄灰色砂礫の包層状堆積。	09S218	TB 208	25-4
深草遺跡	伏・深草野田町15-2、15-3、15-24	6/23・25・29	-0.53mで深い黄褐色砂泥の地山を切って時期不明の落込。試掘調査地点。	08S468	TB 110	25-6

伏見・醍醐地区 (FD)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
太 閤 堤	伏・向島阿弥町2番地3	12/17・18・22・25	-0.42mで灰黄褐色粗砂を抽出。遺構、遺物は検出できず。	09S402	FD 355	14
伏見城跡	伏・桃山毛利長門東町34-87	6/23	伏見城跡の石垣を抽出。本報告55ページ。	09F022	FD 157	14
伏見城跡	伏・桃山毛利長門西町51番1、52番	3/5、6/21~29	伏見城跡の東西方向の柱列、東西溝を抽出。本報告50ページ。	08F466	FD 101	14
伏見城跡	伏・桃山毛利長門西町53	7/22~24	伏見城跡の石垣を抽出。本報告45ページ。	09F040	FD 149	14
伏見城跡	伏・鍋島町24	7/8~7/31	指月城の石垣を抽出。本報告57ページ。	09F119	FD 133	14
伏見城跡	伏・桃山毛利長門東町~桃山町三河地先	7/28~30、8/4・18	-0.9m~-1.24m、時期不明の踏面及び壁地層。 -1.24m以下、浅黄褐色粗砂の地山。	09F148	FD 159	14
伏見城跡	伏・麻匠町35 他	9/1~3	-0.7mまで現代盛土。	05F087	FD 209	14
伏見城跡	伏・鍋島町21	9/29~10/22	BM-0.63mまで現代盛土。試掘調査地点。	09F255	FD 248	14
伏見城跡	伏・周防町333-1、333-2、324-1	11/16	-0.1mまで現代盛土。	09F311	FD 310	14
伏見城跡・金倉出雲遺跡	伏・桃山町金倉出雲3-1・2、8-7	9/18	-0.35m、時期不明の包含層（不明土製品）。 -0.78m、時期不明の敷地面（平瓦）。 -0.85m以下、橙色粘土の地山。	09F109	FD 237	14
伏見城跡	伏・桃山町丹後24-4	5/29	BM+0.3m~-0.05mまで現代盛土。	08F323	FD 075	15
伏見城跡	伏・桃山町下野27番9	8/31	BM-0.87mで褐色砂泥を抽出。遺構、遺物は検出できず。	09F202	FD 207	15
伏見城跡	伏・深草大龜谷五郎太町 地内	6/1~9/14	-0.39m以下、黄褐色粘土の地山。	08F534	FD 080	15
伏見城跡	伏・桃山町板倉周防地	10/20~11/9	-0.22mまで現代盛土。	09F301	FD 277	15
権左寺跡	伏・深草直造橋九丁目180-1・2	10/13~20	-0.13m、近世以降の包含層。	09S305	FD 266	23-4
正覚寺跡	伏・深草南明町~深草園成町	8/10~27	-1.65m以下、黄褐色砂泥の地山。	09S034	FD 179	23-4
醍醐古城跡	伏・醍醐御所ノ内83-2~5	10/1	-0.9m以下、明褐色砂泥の地山。	09S070	FD 252	25-5
寺本城跡	伏・深草西出町7-6、7-7	4/21~27	-0.2m以下、灰色微砂の地山。	09S018	FD 030	25-6
深草寺跡	伏・深草田谷町73番地、72-2番地	11/19・26、12/17	BM-1.33m、時期不明の包含層（須恵器類）。	09S269	FD 319	25-6
深草坊町遺跡	伏・深草互町43-1の一部	4/24	-0.2mまで現代盛土。	08S419	FD 035	25-6
深草坊町遺跡・貞観寺跡	伏・深草西伊達町1番地 西伊達公園	9/24	-0.4mでオリーブ黄色細砂の地山を切って時期不明の土坑。	09S197	FD 242	25-6
深草坊町遺跡・貞観寺跡	伏・日野西大道町8-1	6/1	-0.1m以下、明黄褐色砂泥の地山。	08S430	FD 078	25-7

長岡京地区 (NG)

道 路 名	所 在 地	調 査 日	調 査 概 要	受付番号	調査No.	図版
左京北辺二坊十四町・戌亥遺跡	南・久世殿城町310-1	9/25	-0.5mまで現代盛土。	09NG239	NG 244	22-2
左京北辺三坊十六町・大蔵遺跡・大蔵城跡	南・久世大蔵町地先	10/22~12/10	-0.5m以下、黄褐色粘土の地山。	09S283	NG 282	22-2
左京一坊三坊十七町・東土川城跡	南・久世東土川町152	4/2・3・6	-0.87m以下、黄褐色砂泥の地山。	08NG533	NG 007	19

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	綱 伸也・馬瀬智光・近藤孝子・近藤奈央・堀 大輔・丸川義広・山本雅和・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL.075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL.075-222-3108							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安宮・ 新堂院跡・ 兼業遺跡	京都市上京区兼業町～ 中京区西ノ京小堀町他 地内	26100	2 237	35度 00分 49秒	135度 44分 33秒	2008/10/6～ 2009/2/9		配水管工事
平安京 左京三条 一坊八町跡	京都市中京区 西ノ京武部町 51-1、51-2、51-5	26100	1	35度 00分 47秒	135度 44分 41秒	2009/4/20～ 2009/4/27		共同住宅
平安京 左京八条 二坊三町跡	京都市下京区猪熊通 堀小路下る二丁目 南真町176-1、178-1	26100	1	34度 59分 08秒	135度 45分 02秒	2009/6/8～ 2009/6/9		マンション
大徳寺旧境内	京都市北区紫野大徳寺 町83-1	26100	378	35度 02分 30秒	135度 44分 44秒	2009/9/9～ 2009/9/24		排水処理
下鴨半木町 遺跡	京都市左京区下鴨本町 ～下鴨露部町 地先	26100	167	35度 02分 34秒	135度 46分 17秒	2009/3/2～ 2009/4/23		配水管工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮・ 新堂院跡・ 兼業遺跡	高麗跡 集落跡	平安時代	盤地層	瓦類				
平安京 左京三条 一坊八町跡	都城跡	江戸時代	石敷遺構	瓦類				
平安京 左京八条 二坊三町跡	都城跡	平安時代	井戸	土器類				
大徳寺旧境内	寺院跡	江戸時代	石列、地業遺構					
下鴨半木町 遺跡	集落跡		竪穴住居跡	土器類				

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	網 伸也・馬瀬智光・近藤草子・近藤奈央・堀 大輔・丸川義広・山本雅和・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL 075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上の上本能寺前町488 TEL 075-222-3108							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
植物園北遺跡	京都市北区 上賀茂高橋手町12	26100	146	35度 03分 12秒	135度 45分 36秒	2009/9/1~ 2009/9/7		共同住宅
小倉町別当町遺跡	京都市北区 北白川東小倉町 35番地	26100	400-2	35度 01分 49秒	135度 47分 27秒	2009/3/17~ 2009/3/18		住宅
四条道場跡・ 寺町旧城	京都市中京区新京極通 四條上る中之町 569番地3地	26100	476 170	35度 00分 15秒	135度 46分 05秒	2009/5/7~ 2009/6/2		店舗
法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	京都市東山区馬町通 妙法院北門前 妙法院前側町424-9	26100	546 540 541	34度 59分 30秒	135度 46分 24秒	2009/6/15~ 2009/6/17		住宅
法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	京都市東山区茶屋町 527	26100	546 540 541	34度 59分 24秒	135度 46分 17秒	2009/6/8~ 2009/7/6		新館建替
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
植物園北遺跡	集落跡	縄文時代	土坑	土器類				
小倉町別当町遺跡	集落跡	縄文時代	包含層	土器類				
四条道場跡・ 寺町旧城	平城跡・ 寺院跡	鎌倉時代~ 室町時代	埋没遺構	土器類				
法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	寺院跡・離 宮跡・都城 跡・邸宅跡	近世	整地層	土器類、瓦類				
法住寺殿跡・ 六波羅政庁跡・ 方広寺跡	寺院跡・離 宮跡・都城 跡・邸宅跡	平安時代、 近世	溝、土坑、整地層	土器類、瓦類				

報告書抄録

ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちょうさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	網 伸也・馬瀬智光・近藤孝子・近藤奈央・堀 大輔・丸川義広・山本雅和・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1 TEL.075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL.075-222-3108							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
伏見城跡	京都市伏見区 桃山毛利長門西町53	26100	1172	34度 56分 13秒	135度 46分 05秒	2009/7/22～ 2009/7/24		マンション
伏見城跡	京都市伏見区 桃山毛利長門西町 51番1、52番	26100	1172	34度 56分 12秒	135度 46分 07秒	2009/3/5～ 2009/6/29		宅地造成
伏見城跡	京都市伏見区 桃山毛利長門東町 34-87	26100	1172	34度 56分 09秒	135度 46分 05秒	2009/6/23		住宅
伏見城跡	京都市伏見区鶴島町 24	26100	1172	34度 55分 59秒	135度 46分 05秒	2009/7/8～ 2009/7/31		共同住宅
草場館跡	京都市西京区川島玉頸 町37-1、37-14、37- 15、38-6、38-2地	26100	997	34度 58分 29秒	135度 42分 08秒	2009/8/6～ 2009/11/16		宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡	平城跡	近世	石垣、溝、路面					
伏見城跡	平城跡	近世	石垣、路面、柵列					
伏見城跡	平城跡	近世	石垣					
伏見城跡	平城跡	桃山時代	石垣	土器類、木製品				
草場館跡	平城跡	古墳時代、 近世	竪穴住居跡、濠跡	土器類				

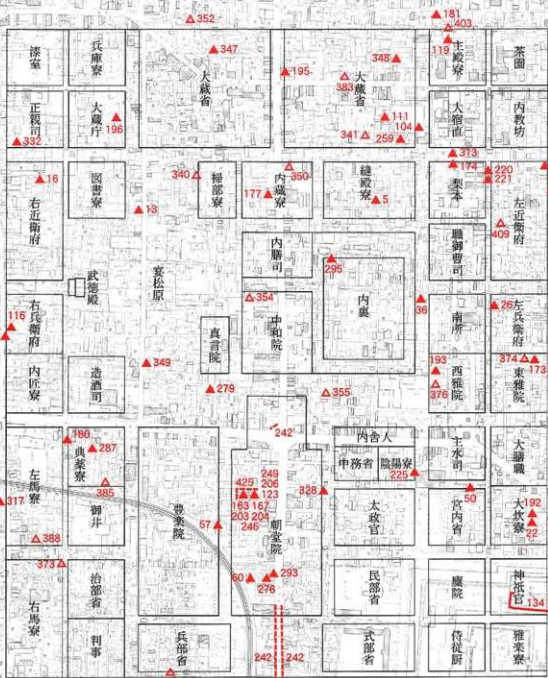
報告書抄録

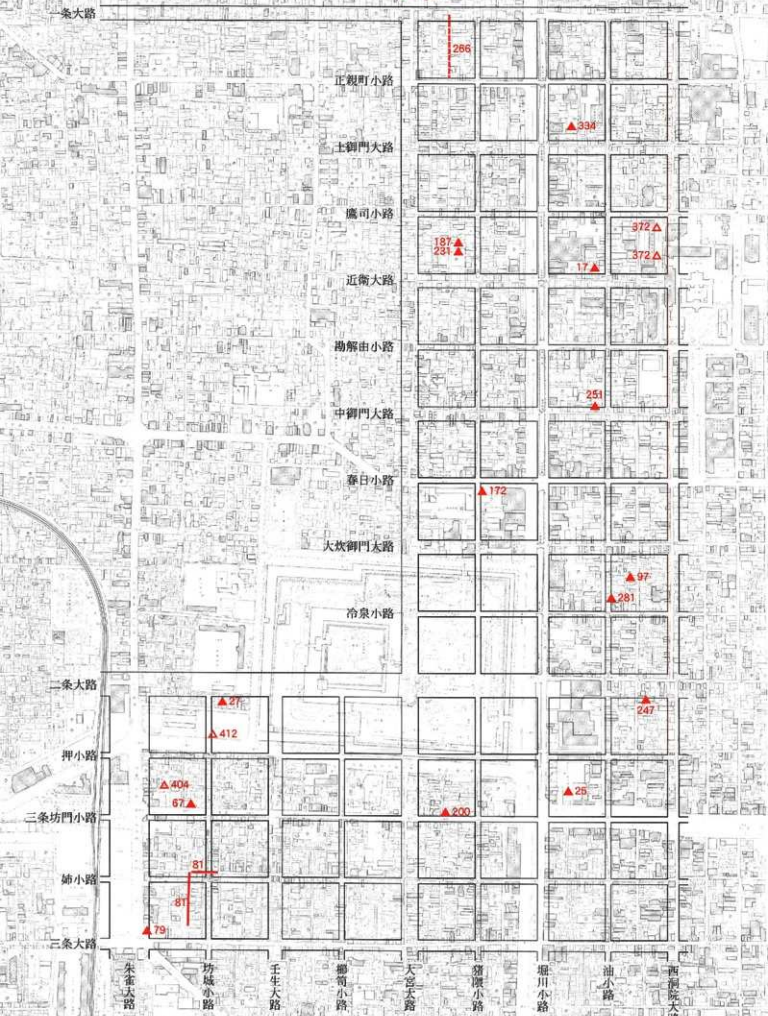
ふりがな	きょうとしないいせきしょうさいぶんぶちようさほうこく							
書名	京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成21年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	網 神也・馬瀬智光・近藤幸子・近藤奈央・堀 大輔・丸川義広・山本雅和・吉本健吾							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	〒602-8435 京都市上京区今出川通大宮東元伊佐町265-1 TEL.075-415-0521							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604-0925 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 TEL.075-222-3108							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京 左京六条 四坊四町跡	京都市下京区間之町通 五条下る大津町8	26100	1	34度 59分 43秒	135度 45分 41秒	2009/7/13~ 2009/7/17		耐震改修
平安京 左京七条 四坊三町跡	京都市下京区下降敷 町通間之町西入西玉水 町283-4、283-5他	26100	1	34度 59分 25秒	135度 45分 42秒	2009/8/24~ 2009/9/1		住宅
伏見城跡	京都市伏見区嵐島町~ 豊後橋町 地先	26100	1172	34度 55分 51秒	135度 46分 05秒	2008/8/22~ 2009/4/24		電線共同溝
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京 左京六条 四坊四町跡	都城跡	鎌倉時代	包含層	瓦類				
平安京 左京七条 四坊三町跡	都城跡	平安時代	落込	土器類、瓦類				
伏見城跡	平城跡	江戸時代		土器類				

圖 版

凡 例

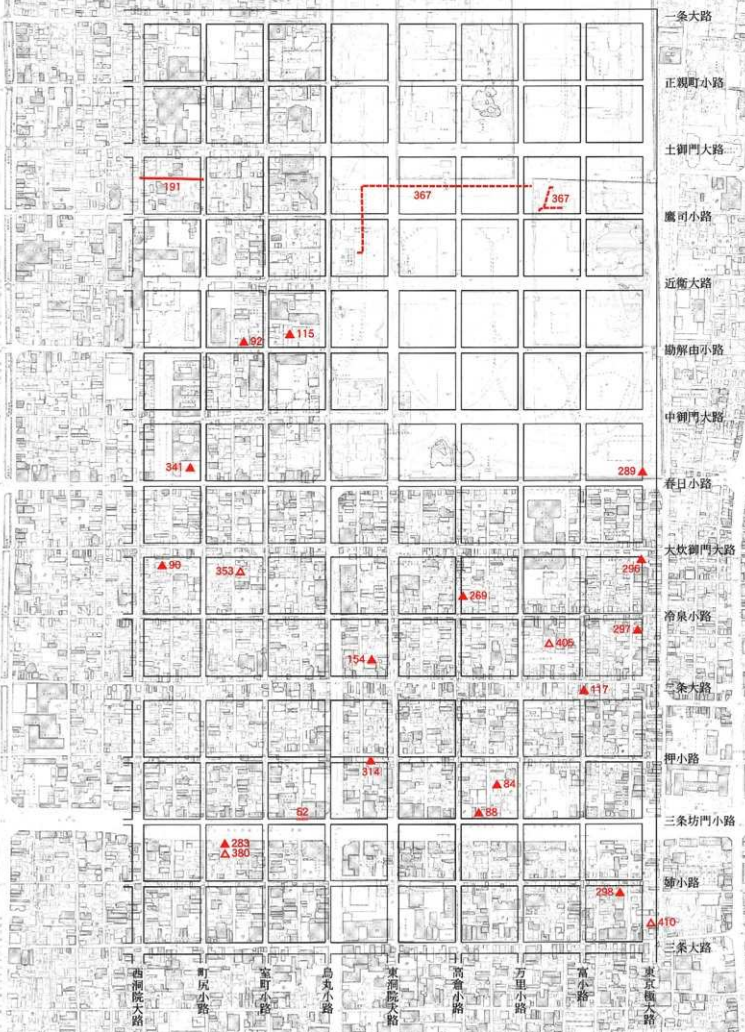
- △ ——— 2009年1～3月期（平成20年度）詳細分布調査地点
- ▲ ——— 2009年4～12月期（平成21年度）詳細分布調査地点

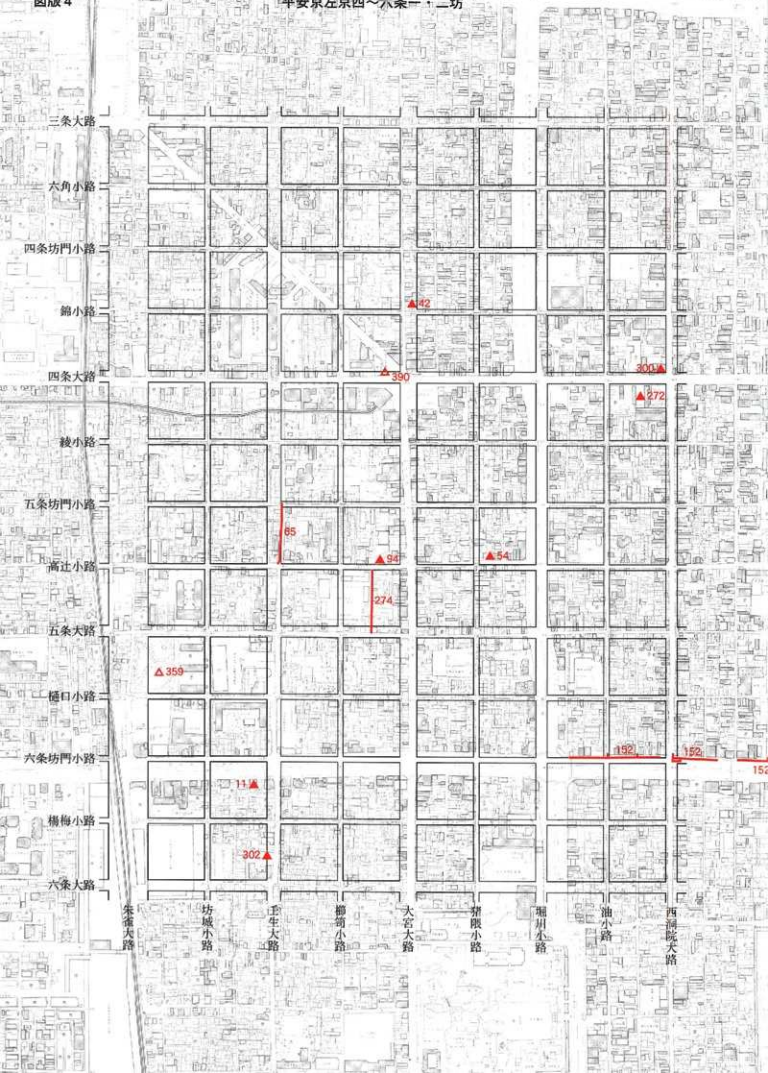


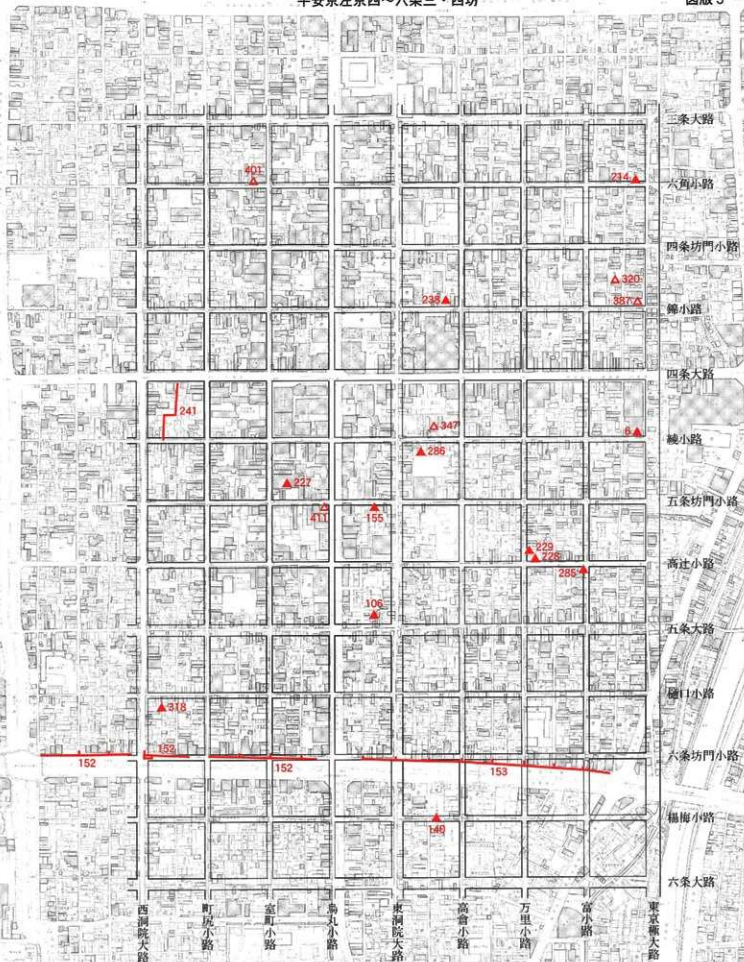


平安京左京北辺～三条三・四坊

図版 3

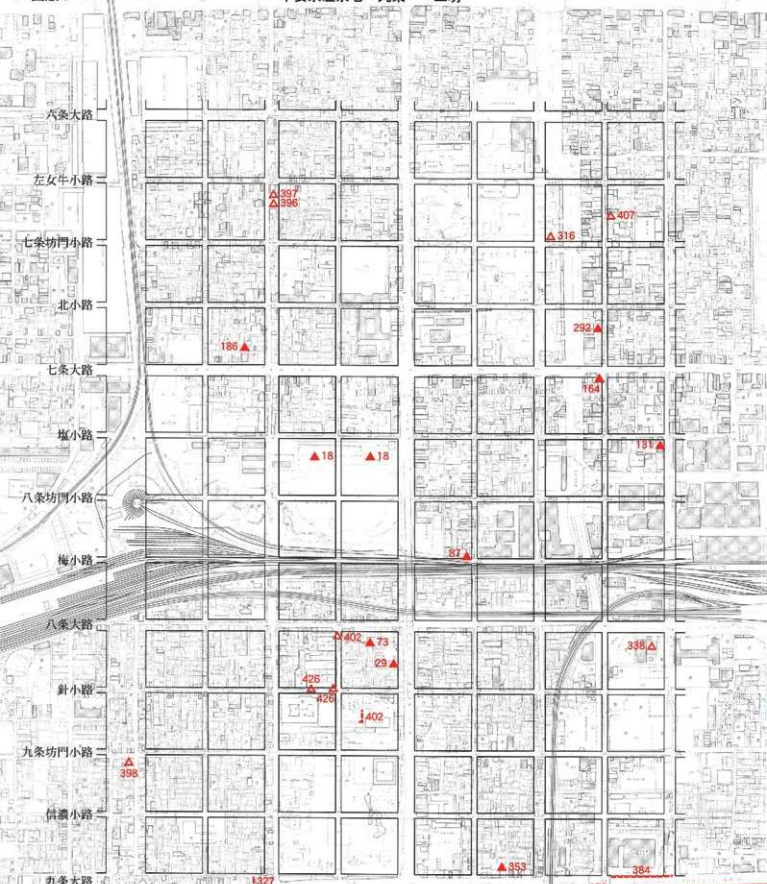




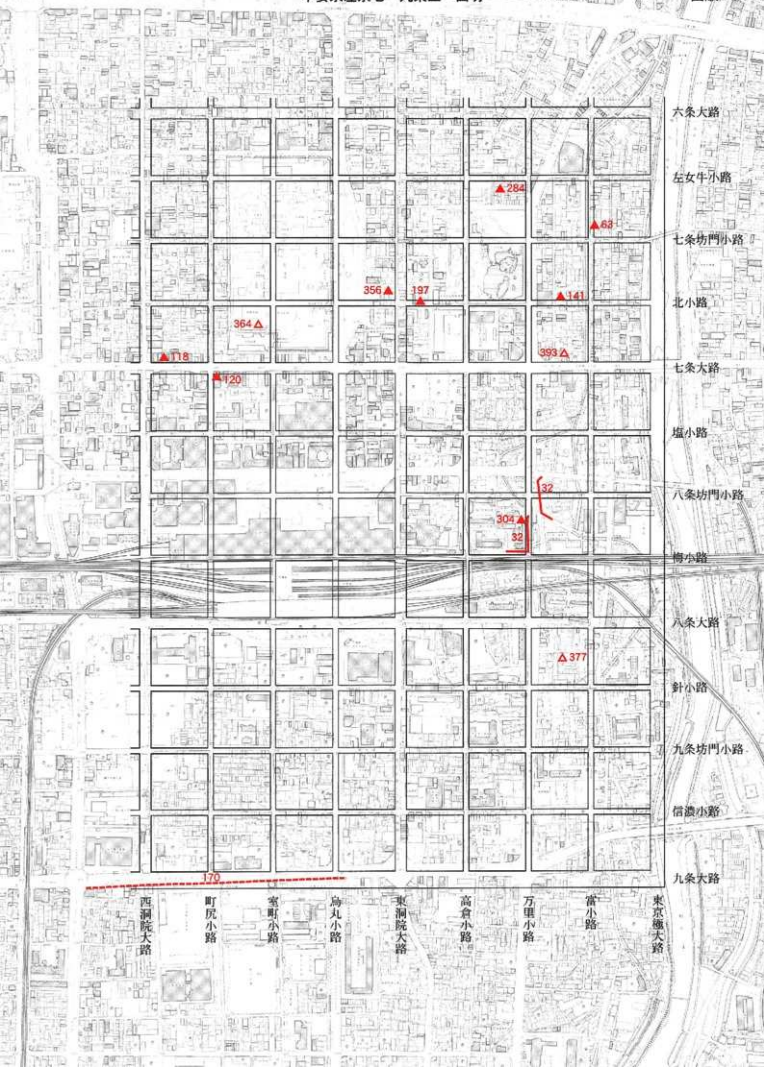


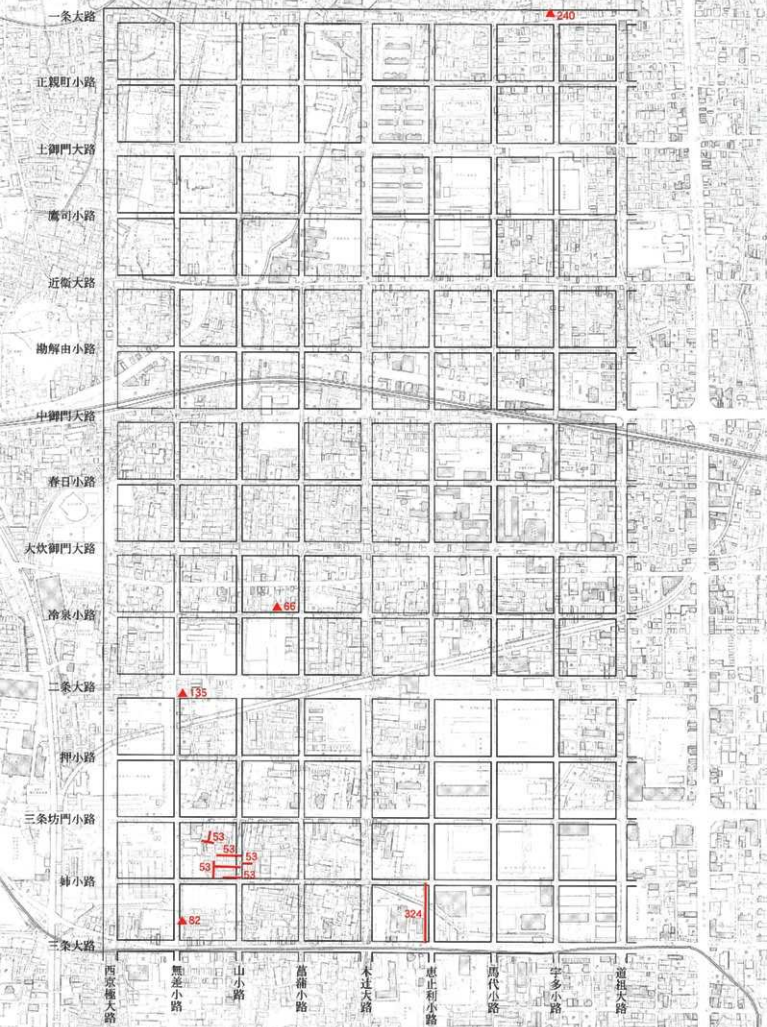
図版 6

平安京左京七～九条一・二坊

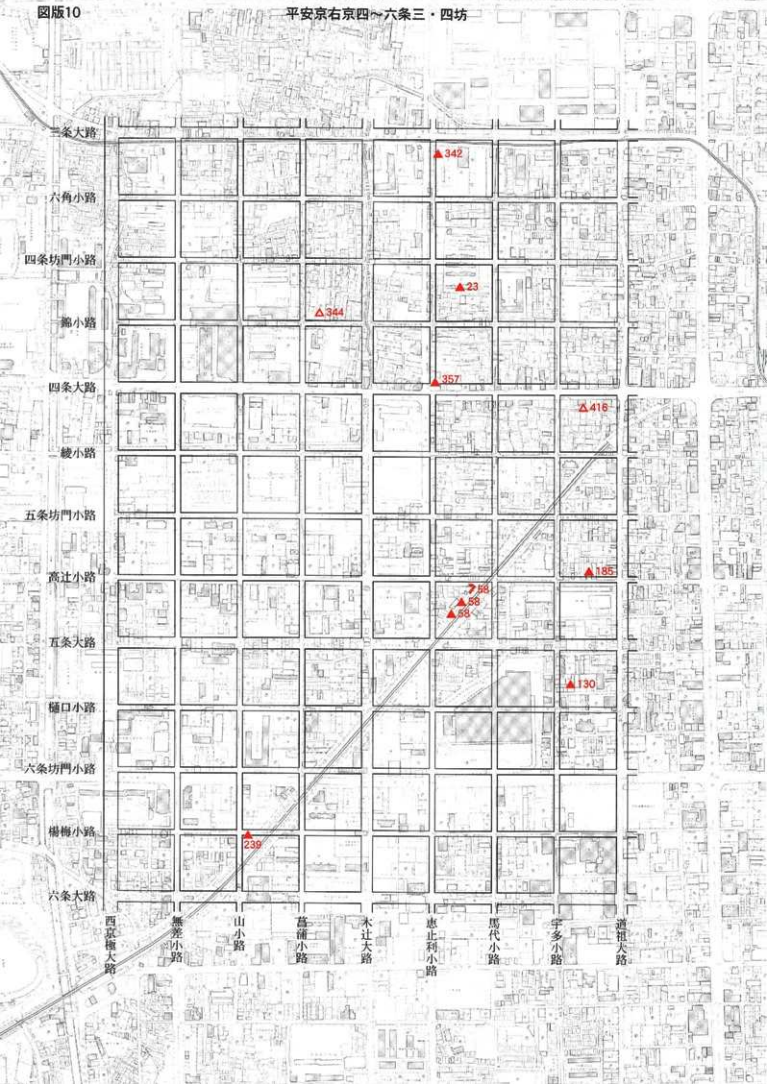


朱雀大路 坊城小路 壬生大路 櫛笥小路 大宮大路 猪隈小路 堀川小路 油小路 西洞院大路











三条大路

六角小路

四条坊門小路

御小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

樋口小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西鞠負小路

西大宮大路

西御筒小路

皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

298

▲323

▲37

▲76

329▲

351

345▲

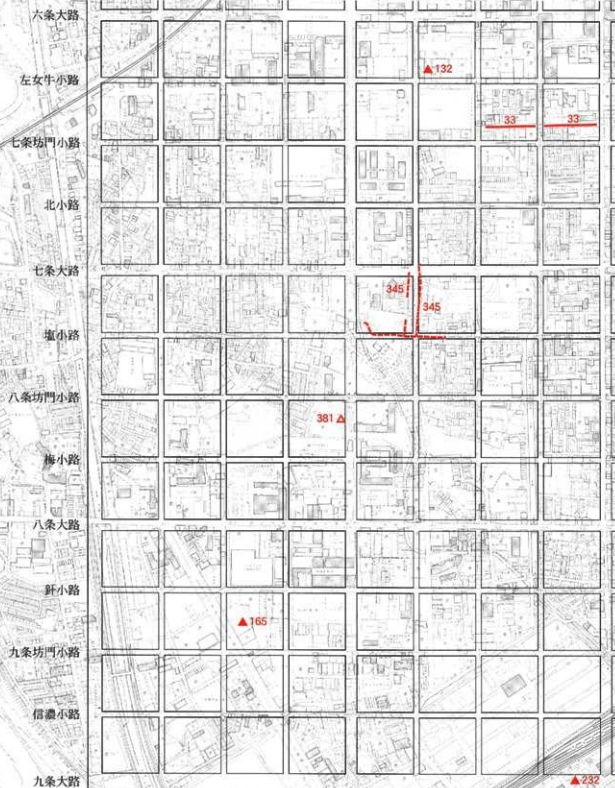
▲112

428

85

267

351





六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西鞠負小路

西大宮大路

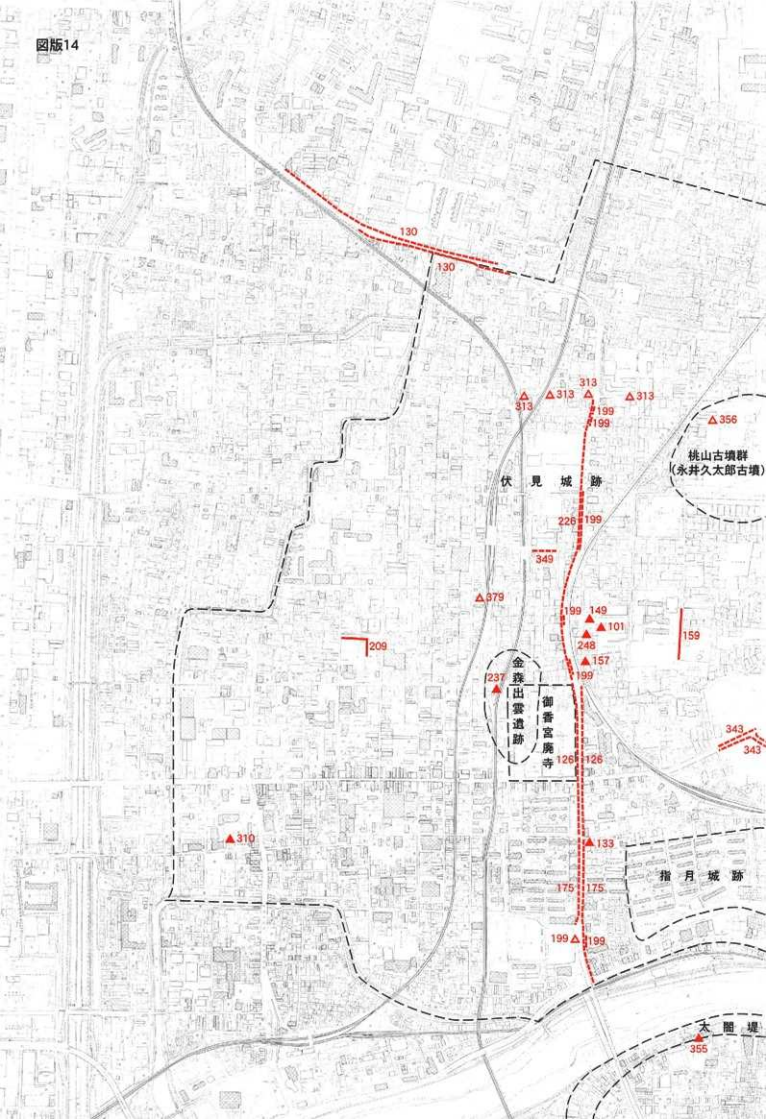
西堀筒小路

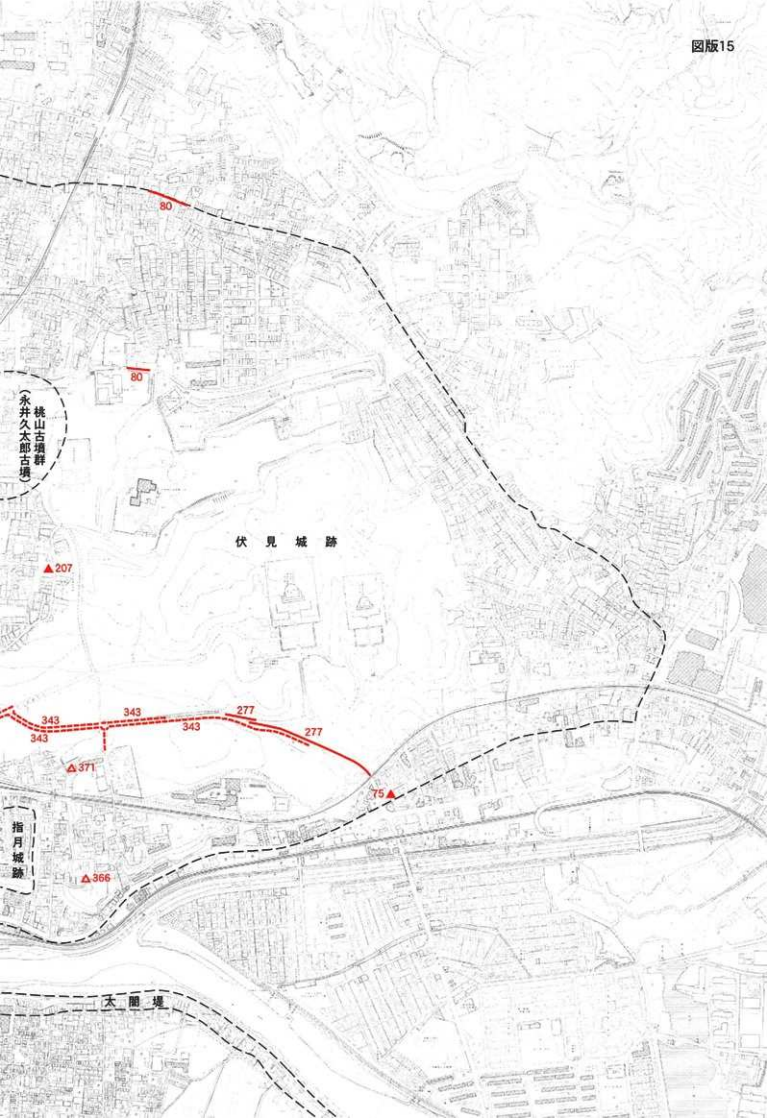
皇嘉門大路

西坊城小路

朱雀大路

图版14





桃山古墳群
(永井久太郎古墳)

伏見城跡

指月城跡

大開堤

▲207

▲371

▲366

▲75

80

80

343

343

343

277

277

御堂ヶ池古墳群

394

394

史跡仁和寺御所跡

413

▲243

仁和寺院家跡

▲391

大養馬塚町遺跡 ▲160

▲190
村ノ内町遺跡

▲68

▲365

常盤仲之町遺跡

常盤東ノ町古墳群

森ヶ東瓦窯跡

上ノ段町遺跡

▲360

▲198

139

和泉式部町遺跡

▲340

▲41

広隆寺旧境内

井戸ヶ尻遺跡

▲182

御所ノ内町遺跡

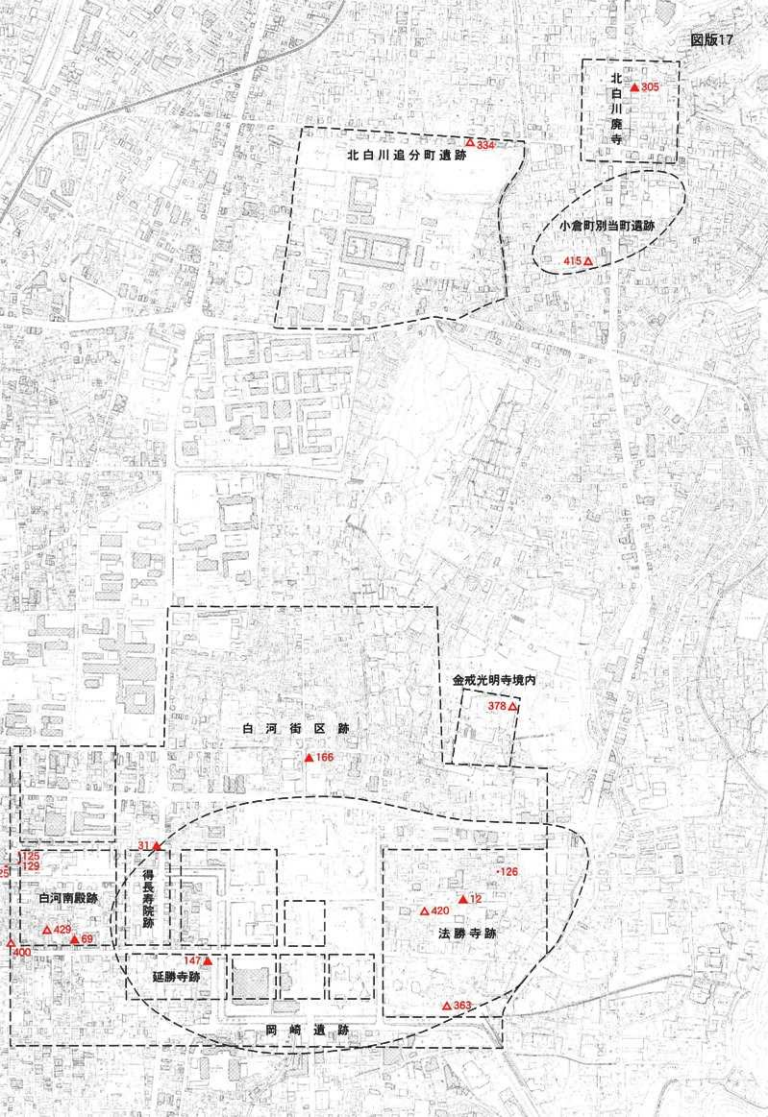
▲194

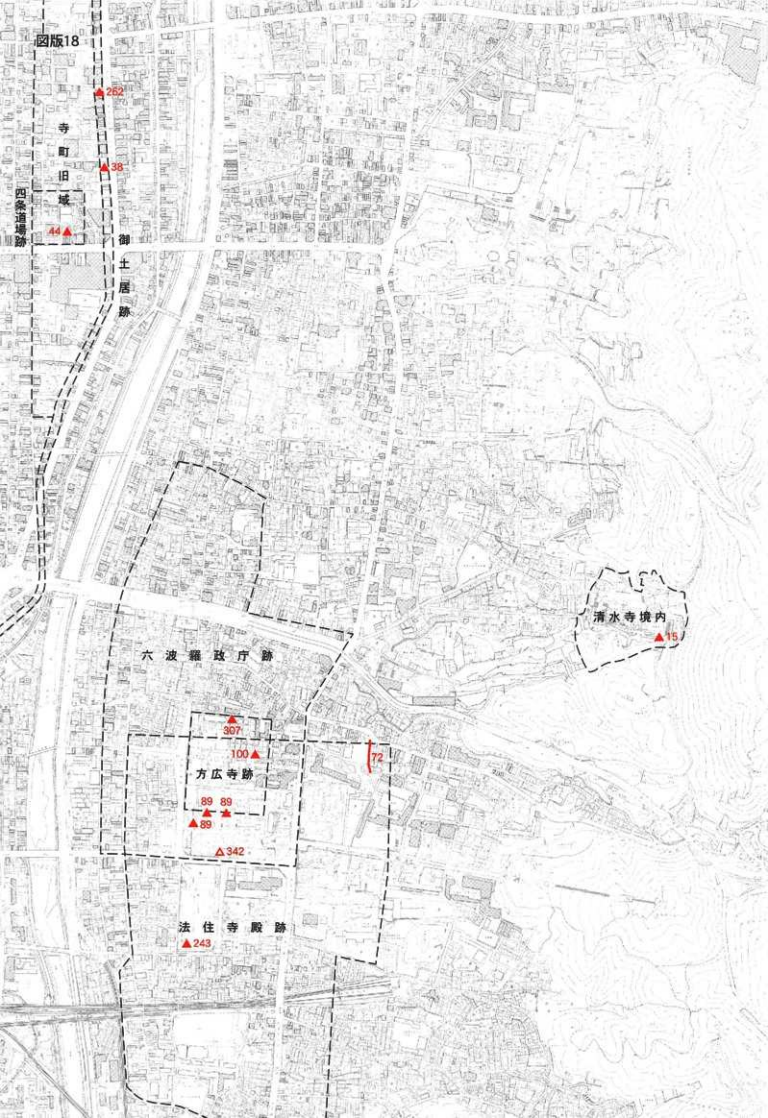
多藪町遺跡

98

清水山古墳

▲199





寺町旧城

▲262

▲38

▲44

御土居跡

六波羅政庁跡

清水寺境内

▲18

▲307

▲100

方広寺跡

▲89

▲89

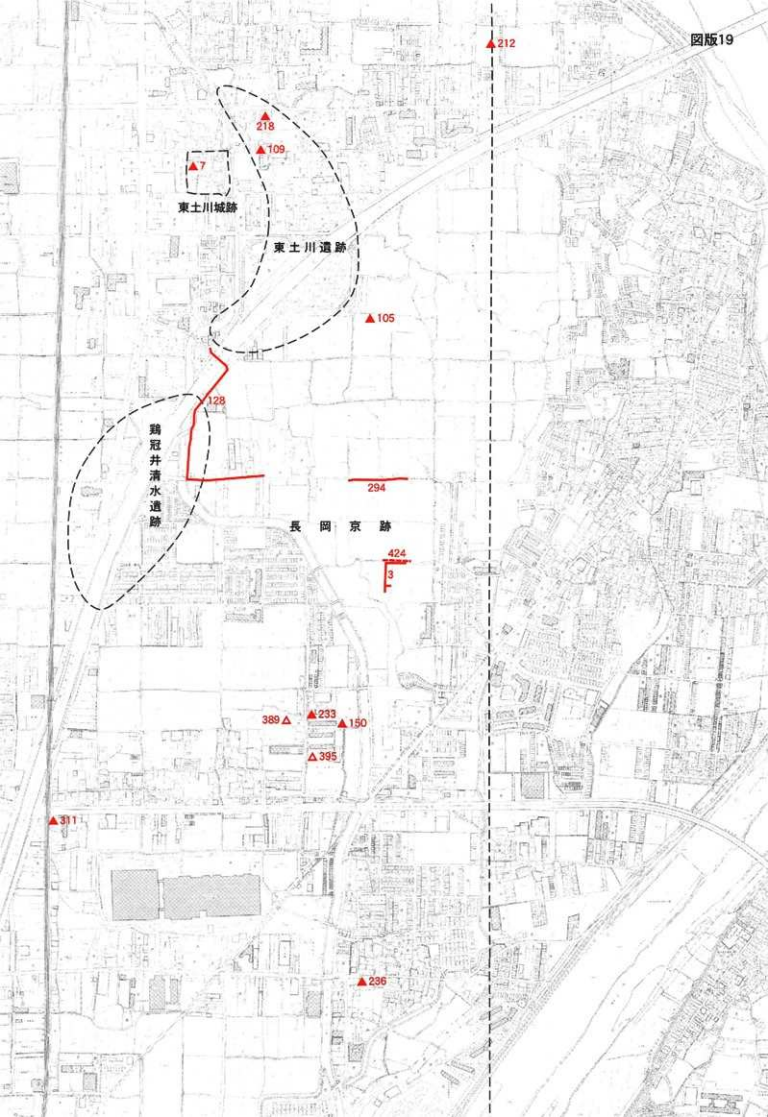
▲89

▲342

72

法住寺殿跡

▲243



東土川城跡

東土川遺跡

鶏冠井清水遺跡

長岡京跡

▲212

▲218

▲109

▲7

▲105

128

294

424

3

389 ▲

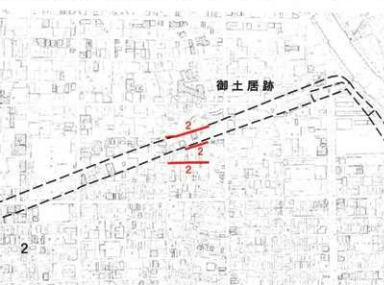
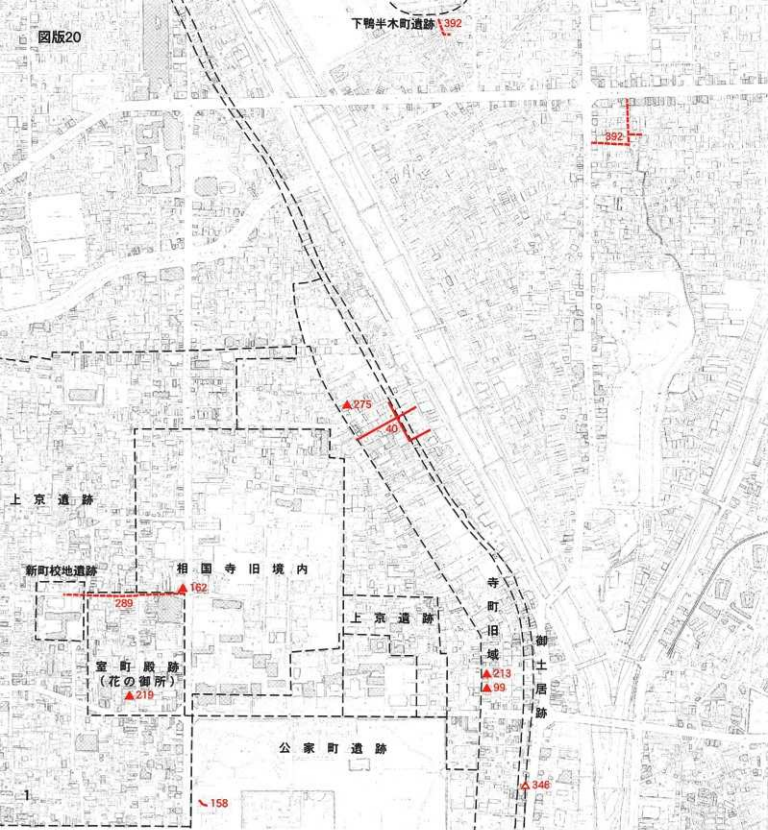
▲233

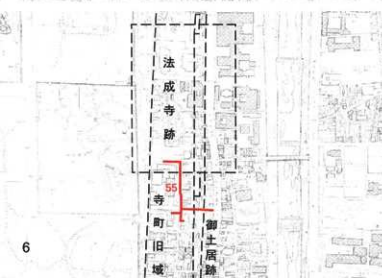
▲150

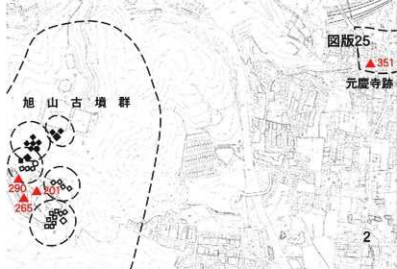
▲395

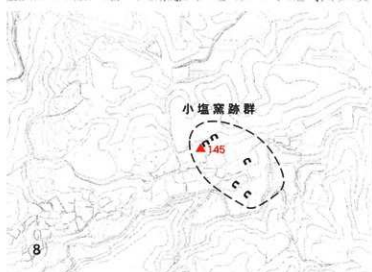
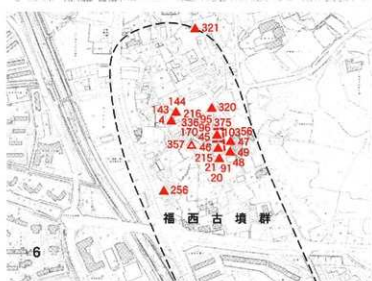
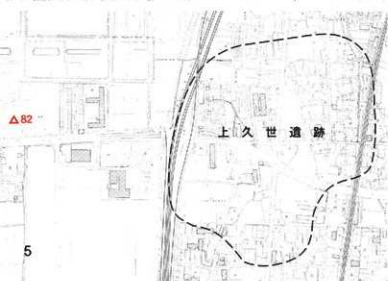
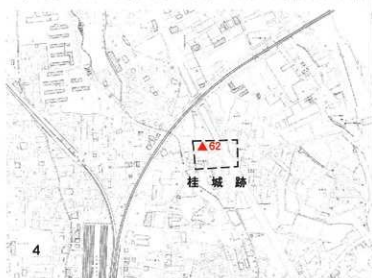
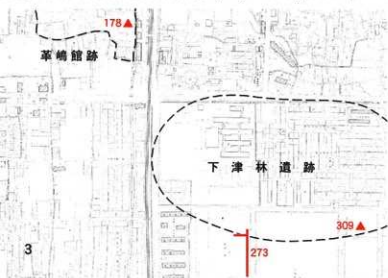
▲311

▲236











伏見城跡 (09FD149) 南調査区全景 (北西から)



伏見城跡 (09FD149)



伏見城跡 (09FD149) 北調査区全景 (西から)

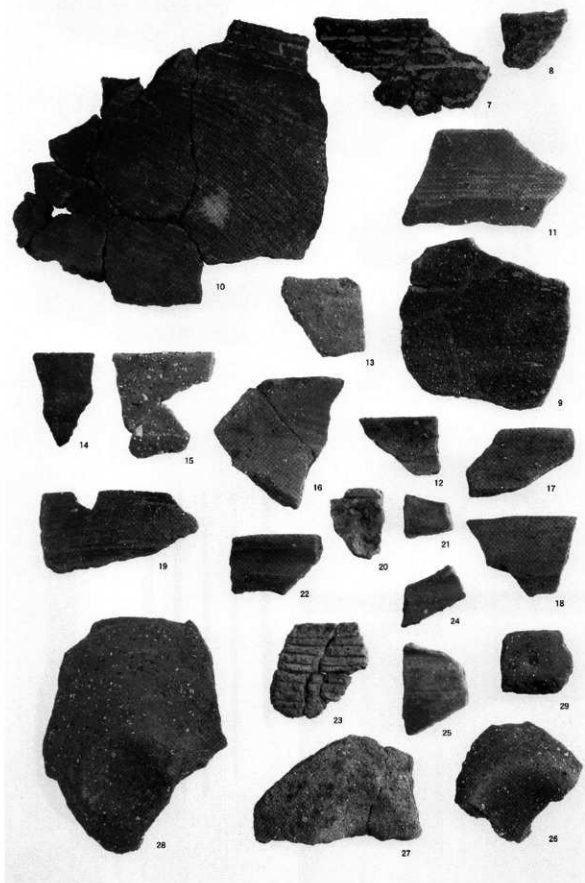
遺
構



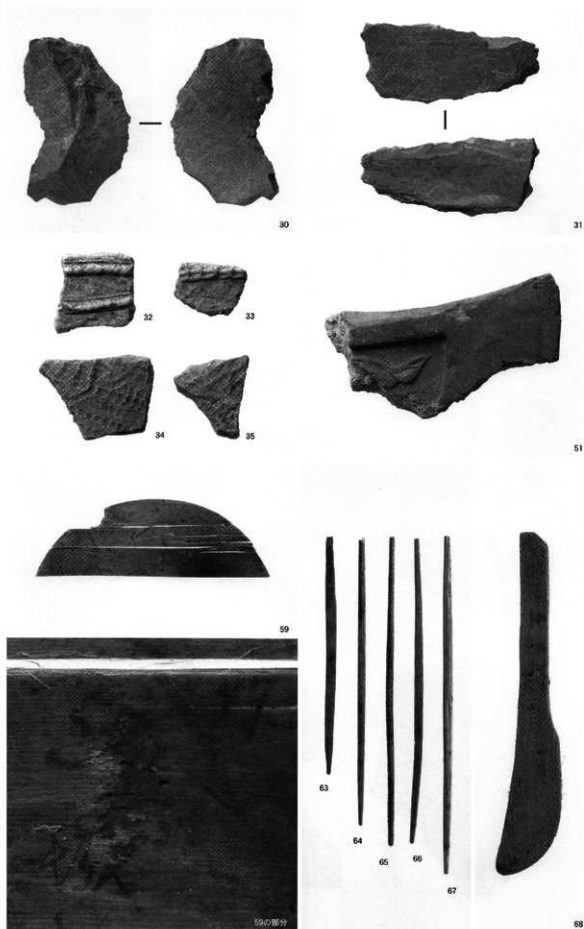
伏見城跡 (09FD133) 2区全景 (南東から)



伏見城跡 (09FD133) 3区全景 (北東から)



植物園北遺跡 (09RH210)



30・31 植物園北遺跡 (09RH210)、32~35 小倉町別当町遺跡 (08KS415)、51 法住寺殿跡・六波羅
政庁跡・力広寺跡 (09RT87)、59・63~68 伏見城跡 (09FD133)



73



79



82



81



84



85

73・79 草嶋館跡 (09MK178)、82・82 左京六条四坊三町 (09HL140)、84 左京七条四坊四町 (08HL197)、85 伏見域跡 (08FD175)

京都市内遺跡詳細分布調査報告

平成21年度

発行日 2010年3月31日
発行 京都市文化市民局
住所 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
編集 (財)京都市埋蔵文化財研究所
住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>
印刷 三星商事印刷株式会社